富山大学地域連携推進機構
生涯学習部門　年報

第 19 巻

2017 年 9 月

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

目　　次

Ⅰ　事　業　概　要

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門における2016年度の実施事業について　……　1
森　口　毅　彦（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門長）

Ⅱ　公開講座等実施報告

2016年度公開講座とオープン・クラス（公開授業）アンケート調査報告　……　7
富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

Ⅲ　論　　集

地域における教育学習活動と大学の役割　……　33
藤　田　公仁子（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門副部門長）

教師の労働環境と子どもの貧困認識
―退職・現職教師の世代的対照性を沖縄における10件のインタビュー調査から探る―
……　42
仲　嶺　政　光（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門准教授）

Ⅳ　委　員　会　等

公開講座専門委員会　……　61
北陸地区社会貢献系専門委員会　……　61
全国会議　……　61
富山大学生涯学習推進懇話会　……　62

Ⅴ　事業報告資料

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門平成28年度事業　……　71

Ⅰ　事　業　概　要

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門における 2016 年度の実施事業について

森　口　毅　彦
（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門長）

要旨：富山大学地域連携推進機構生涯学習部門において 2016 年度に実施した事業の概要を報告する。主要な事業である公開講座の開設数は 71 講座、オープン・クラスの公開科目数は 785 科目であった。新しい取り組みとして、「キャリアデザイン講座」を実施した。また、生涯学習部門開設 20 周年を記念して式典と記念講演会を開催した。

はじめに

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門は、昨年度、その前身となる生涯学習教育研究センターの開設（1996 年）から 20 年という節目の年を迎えました。これを記念し、生涯学習部門開設 20 周年記念式典と記念講演会を、映画監督の本木克英氏をお招きして開催させていただきました。これまで生涯学習部門の活動を支えてくださいました皆様方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、これまでの生涯学習部門のあゆみを振り返ってみると、大きく 4 つの段階を経て発展してきていると捉えることができます。

まず、生涯学習教育研究センター開設前ではありますが、富山大学において公開講座を開始した時期に該当する「萌芽期」（1983 ～ 1995 年頃）。センターが開設され、公開講座の開講数が 40 講座を超えるまでに増加し、またオープン・クラスやサテライト公開講座等の、今日の中心となる事業が開始されるなど大きく成長を遂げた「誕生・成長期」（1996 ～ 2003 年頃）。次いで、国立大学法人化、富山県内三大学統合、そして地域連携推進機構生涯学習部門への改組を経て、公開講座の開講数が 80 を超えるほどに飛躍的に増加した「発展期」（2004 ～ 2010 年頃）。そして、新たな学びの形を提供する試みとして、地域の一般市民及び生涯学習専門職員を対象としたワークショップ形式の事業を展開し始めた「展開期」（2011 年頃～）の 4 つの段階です。

生涯学習部門では、開設当初より、「大学の知的資源を開放することを通じて、地域社会における生涯学習の振興と充実に寄与する」という目的・使命を果たすべく、常に時代が求めるニーズと向き合いながら活動してまいりました。

これから、次の 10 年、20 年に向けて、富山大学ならではの独自性の高い学びの場を提供していく新たなステージへと歩み進めていこうと考えております。

ここに刊行いたします生涯学習部門年報第 19 巻は、昨年度の生涯学習部門の取り組みを総括し、今後の事業展開を一層充実したものとするための基礎資料･指針を提供するものです。

以下、本年報の内容は、当部門が実施してきた 2016 年度事業の概要報告、公開講座とオープン・クラスの実施状況報告、本部門専任教員による研究論文、委員会等の開催状況報告、そして事業報告資料集となっております。

本書を通して、当部門の事業の概要をご理解

いただき、今後のより一層充実した生涯学習活動へ向けて、みなさま方の忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

1．生涯学習事業

①　公開講座

本学は数多くの公開講座を実施しています。この事業は、本部門に設置された全学的な公開講座専門委員会で企画が審議・承認され、本学教員の大学開放に対する深い理解・協力のもとで実現されています。

ジャンルごとの開講数でみると、教養講座で19コース、語学講座で35コース、体験講座で17コース、計71コースが企画されました。それぞれの受講者数をみると、教養講座で202名、語学講座で323名、体験講座で182名、合計707名になり、前年度よりも29名の増加となりました。このことについて当部門では、新聞へのチラシの折込み等を実施したことの効果が現れたと分析しています。

本学の公開講座は、一般市民の学習ニーズとうまくかみ合った企画であることから、多くの講座が例年恒例の形で（微調整・ヴァージョンアップも伴いながら）実施されます。語学では、初級から中級そして上級へとステップアップする講座が開設されています。

極めて多彩なジャンル・レベル設定を備えた講座の数々について、ここで詳細に述べつくすことはできません。しかし、多くの一般市民が受講していることや、本年報収録の受講生アンケートの結果をみると、大学の知的資源を地域社会に還元するという目的はおおむね達成できていると評価できます。

②　オープン・クラス

オープン・クラスは、正規学生に対する授業を一般市民に開放する取り組みです。

2016年度のオープン・クラス利用は、受講希望者が延べ344人（前期176人、後期168人）、試聴等を経て実際に受講した方は延べ278人（前期156人、後期122人）にのぼりました。

開放科目数は前年度775科目から2016年度785科目となりましたが、延べ受講者数は前年度より26名減少しました。

③　講師等紹介

本部門では学外からの講演会・研修会等のための講師派遣依頼に応じて、本学教員の紹介をおこなっています。講師の選定とともに、企画段階でも学習（研修）プログラム作成に協力しており、2016年度は、本部門において、約45件の講師等の紹介を行いました。

なお、講師等紹介には本部門を経由せず、各学部に申し入れて実施されているケースもあることをお断りしておきます。

④　サテライト講座

サテライト講座は、本学教員が、研究成果を一般市民に向けて開放する講座で、受講しやすいように富山駅前 CiC ビルにおいて、受講料無料、事前申込不要で開講しています。

2016 年度も８つの学部から１名ずつの教員が講師となって８講座が開催され、総計 647 名の受講者が集まり、大変盛況でした。

⑤　その他の講座・イベント

・まちなかセミナー

2016 年 10 月 16 日（日）、北陸地区４国立大学連携のまちなかセミナーを開催しました。富山・石川・福井の各会場に相互に講師を派遣し合う取り組みです。

2016 年度も、各会場でコーディネーターを採用し好評でした。富山会場は「北陸の古代を探訪する」と題して、金沢・福井・富山大学から講師を迎え、108 名の受講者がありました。また、富山大学からも福井・石川各地に講師として本学教員を派遣しました。

・生涯学習部門開設 20 周年記念式典・講演会

生涯学習部門は、前身である生涯学習教育研究センター開設から数えて 2016 年度で 20 年の節目を迎えるに当たり、2017 年３月４日（土）に、「開設 20 周年記念式典・記念講演会」を開催しました。県内生涯学習機関の関係者や教職員、地域住民など、あわせて約 160 人が参加しました。

前半の記念式典では、富山県民生涯学習カレッジの山﨑弘一学長から来賓祝辞をいただいた後、生涯学習部門の部門長より、地域の生涯学習の拠点としての部門のあゆみ及び現状について報告しました。

後半の記念講演会では、本学教育学部附属中学校（当時）を卒業し、日本を代表する映画監督の１人として「釣りバカ日誌　ハマちゃん危機一髪！」や「超高速！参勤交代」などの多様なテーマで作品を生み出し続ける本木克英氏から、「富山と映画の意外な関係」と題した講演がありました。

・高大連携

小杉高等学校との高大連携事業に関する覚書に基づき、教養教育科目のうちオープン・クラスとして開講している授業に同校から生徒を毎年受け入れています。

2016 年度は、９名の生徒が「物理の世界」などの授業を受講し、2016 年９月５日（月）の事後研修・発表会後に、修了した生徒には本学

から修了証書が授与されるとともに、同校から卒業単位１単位が認定されました。

・キャリアデザイン講座

若者の地元定着率向上を目指すCOC+事業の一環として、県内高校生に地元の大学への進学及び地元の企業への就職を意識し、富山で働き暮らしていくことのイメージを持ってもらうことを目的に「キャリアデザイン講座」を実施しました。

2016年度は、南砺福野高等学校と高岡南高等学校の生徒を対象に、生涯学習部門長及び地域連携戦略室コーディネーターが、富山で働き暮らすことを考えるきっかけとなるような情報提供やCOC+事業の紹介等を行いました。

・富山大学市民講座2016

本講座は、毎年一般市民を対象に富山大学の研究者が１つのテーマについて、体系的・学際的に紹介している無料講座です。

2016年度は、７名の教員が、「認知症最前線」と題して、３回シリーズで開催し、延べ462名が受講されました。

２．学外との連携

①　平成28年度生涯学習推進懇話会

2017年３月10日（金）、多岐にわたる本部門の事業の成果や改善すべき点を把握するため、平成28年度生涯学習推進懇話会を開催しました。なお、1999年度開催の第１回大学開放推進懇話会からの通算では18回を数えます。

②　全国協議会

2016年９月26日（月）～27日（火）にかけて、第38回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会において、意見交換を行いました。2016年度の当番大学は香川大学でした。

③　北陸地区大学間連携

2016年12月19日（月）に金沢大学サテライトプラザ（金沢市）において、富山大、金沢大、北陸先端科学技術大学院大、福井大の各大学スタッフによる専門委員会が開催され、2016年度まちなかセミナーの反省・次年度の企画について意見交換が行われました。

３．広報・出版活動

①　チラシによる広告

公開講座、オープン・クラス、サテライト講座について、新聞へのチラシの折込みを実施しました。加えて、富山市、高岡市を中心にした地域で、各種学習施設や公民館等に配布依頼を行いました。

このほか､DMの形でパンフレットを郵送し、また各地でチラシ、ポスターの配布を行いました。その他の事業についても、事前に募集案内を作成し、県民カレッジや各地の公民館等に配布しました。

② 出版物

・公開講座、オープン・クラス、サテライト講座のチラシ及びポスターを作成しました。

・公開講座、オープン・クラスの募集要項を作成しました。

・「生涯学習部門年報」第 18 巻を刊行しました。

③ メールや Web を利用した広報活動

・メールマガジン

　メールマガジンは、おおよそ 600 人に対し概ね月 1 回のペースで発信し、91 号を配信するに至りました。

・Web

　大学開放に関する情報発信として随時 Web サイトを更新するとともに、フェイスブックを開設しています。

Ⅱ　公開講座等実施報告

2016年度富山大学公開講座とオープン・クラス（公開授業）アンケート調査報告

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

本稿では、富山大学公開講座、オープン・クラス（公開授業）の受講生・教員に対するアンケートを実施し、その実施状況の確認をおこなうとともに、受講生のニーズの把握につとめる。その上で、今後必要な対応とは何かをさぐっていく。

Ⅰ　公開講座アンケート

ここでは、2016年度における富山大学公開講座受講者に対するアンケート集計結果を報告する。

今年度の公開講座受講者は延べ707人であり、アンケート回答者は502人であった。回収率は71.0%である。

1．集計結果

図表１　回答者の性別

	人数	%
男性	141	28.1
女性	348	69.3
無回答	13	2.6
合計	502	100

図表２　回答者の年齢

	人数	%
10代	6	1.2
20代	17	3.4
30代	34	6.8
40代	71	14.1
50代	101	20.1
60代	201	40.0
70代以上	65	12.9
無回答	7	1.4
合計	502	100

図表３　回答者の職業

	人数	%
フルタイム	152	30.3
パート	74	14.7
無職	213	42.4
学生	13	2.6
その他	45	9.0
無回答	5	1.0
合計	502	100

図表４　回答者の最終学歴

	人数	%
高校卒	102	20.3
専門学校卒	23	4.6
短大・高専卒	70	13.9
大学卒	277	55.2
大学院卒	23	4.6
その他	1	0.2
無回答	6	1.2
合計	502	100

図表５　講座の難易度

	人数	%
易しかった	14	2.8
やや易しかった	29	5.8
ちょうどよい	316	62.9
やや難しかった	116	23.1
難しかった	21	4.2
無回答	6	1.2
合計	502	100

図表６　回答者の居住地

	人数	%
富山市	334	66.5
高岡市	67	13.3
射水市	30	6.0
滑川市	13	2.6
氷見市	12	2.4
立山町	9	1.8
上市町	6	1.2
入善町	4	0.8
魚津市	4	0.8
南砺市	4	0.8
小矢部市	3	0.6
黒部市	3	0.6
砺波市	2	0.4
舟橋村	1	0.2
県外	3	0.6
無回答	7	1.4
合計	502	100

図表１～４、６は、回答者の基本属性をみたものである。順に説明する。

図表１は回答者の性別をみたものである。男性 141 人（28.1％）、女性 348 人（69.3％）となっており、女性受講者の割合がやや高い。

図表２は回答者の年齢をみたものである。30 代以下が 57 人（11.4％）、40 ～ 50 代が 172 人（34.2％）、60 代以上が 266 人（52.9％）となっており、シニア層の割合が高く、半数以上を占めている。

受講生の性別と年齢の関連をみてみたのが図表７である。全般に女性の割合が高く、30 代以下で７割以上、40 ～ 50 代で８割以上を占めている。60 代以上のシニア層では男性の割合が増加する傾向にある。

また、回答者の年齢と講座ジャンルの関連をみてみたのが図表８である。30 代以下は語学講座を受講する人の割合が高い。

図表７　性別×世代

	男性	女性
30 代以下	15	41
	26.8%	73.2%
40-50 代	23	145
	13.7%	86.3%
60 代以上	100	158
	38.8%	61.2%

図表８　講座ジャンル×世代

	教養	語学	体験
30 代以下	11	33	13
	19.3%	57.9%	22.8%
40-50 代	73	69	30
	42.4%	40.1%	17.4%
60 代以上	99	124	43
	37.2%	46.6%	16.2%

図表３は回答者の職業についてみたものである。何らかの職業を持つ者（フルタイム＋パート）の人数・割合は 226 人（45.0％）と半数近くにものぼっている。他方、職業をもたない者（無職＋学生）の人数・割合は 226 人（45.0％）となっている。

図表４は回答者の最終学歴についてみたものである。多い順に、大卒以上 300 人（60.4％）、高校卒が 102 人（20.3％）、短大・高専卒が 70 人（13.9％）と続いている。

図表５は講座の難易度についてたずねた結果である。「ちょうどよい」が 316 人（62.9％）、「やや難解」116 人（23.1％）と続いている。おおむね良好な受講状況であったことが推察される。

図表６は回答者の居住地についてたずねた結果である。富山市が 334 人（66.5％）と圧倒的に多く、高岡市の 67 人（13.3％）、射水市の 30 人（6.0％）が続いている。

図表９　受講状況

	人数	%
はじめて受講	142	28.3
2- 5回	196	39.0
6-10 回	102	20.3
11 回以上	59	11.8
無回答	3	0.6
合計	502	100

図表９は、回答者の受講回数についてたずねた結果である。最も多かったのが「２～５回」196 人（39.0％）であり、「はじめて受講」は 142 人（28.3％）となっている。新規受講者の割合が３割近くにのぼる。

図表 10　希望する開講時間帯

	人数	%
平日午前	129	25.7
平日午後	185	36.9
平日夜間	161	32.1
土曜日	215	42.8
日曜日	85	16.9

図表 10 は、公開講座の開講時間帯についての希望をたずねた結果である（複数回答可）。最も多かったのが「土曜日」215 人（42.8％）、ついで「平日午後」185 人（36.9％）、「平日夜間」161 人（32.1％）、「平日午前」129 人（25.7％）、「日曜日」85 人（16.9％）が続いている。

図表 11　公開講座の効果

	人数	%
リフレッシュの機会になった	254	50.6
知り合いが増えた	198	39.4
一人より複数で学んだ方が効果的	180	35.9
知識を活用する機会が増えた	106	21.1
自分の成長が実感できた	102	20.3
活動範囲が広がった	68	13.5
普段の生活に役立つ	66	13.1
仕事に役立つ	30	6.0
その他	31	6.2

図表 11 は、公開講座を受講した結果抱いた感想について多い順に列挙したものである（複数回答可）。最も多かったのが「リフレッシュの機会になった」254 人（50.6％）であり、「一人より複数で学んだ方が効果的」198 人（39.4％）、「知り合いが増えた」180 人（35.9％）が続いている。「その他」への自由記述として次のようなコメントがあった。

・一つの作品に集中して取り組む充実感と達成感を味わえる
・楽しい
・ドイツ語は習う機会がないのでうれしかった。
・「かな」を習っているので役立ちました
・美術館などに行って書を見たとき何を書いてあるか少しわかるようになってより楽しめるようになった
・過去の学習の復習になった
・和菓子について深く知ることができ大変良かった
・お菓子（和菓子）の知識が深まった。
・新しいことを学べる喜びを感じました
・異空間の世界で、とても楽しい時を過ごした
・勉強になった
・よく行く場所の違う面からの知識が広がった
・知的好奇心を満たすことができた
・とてもおもしろかったです。役立つ information ありがとうございました。
・これが初めてなのでこれからもっと詳しく勉強していきたいと思いました
・将来に向けての参考になった。
・知りたいとおもっていたことが、少しだけ理解できたので、これからにいかしたい。
・英語を話す機会が増えたので励みになり、今後も会話力を伸ばそうと思う
・普段出会わないようなクラスメイトに出会うことができた。
・色々な方がおられ刺激になる
・体がすっきりした
・日本語との関係が面白かった。ぼけ防止。
・生活が豊かになった
・独語の再確認に役立つ
・良い歌に出会えて幸せな気分になれた
・自己満足、楽しい
・アメリカ映画の中の黒人への視点がかわりました
・日常とは違う世界にひたることも大切だと思いました
・知識が深まった。より映画を楽しめるようになった

図表 12　講座の続きを聞きたくなった

	人数	%
そう思う	411	81.9
どちらとも言えない	41	8.2
そう思わない	0	0
無回答	50	10.0
合計	525	100

図表 13　関連したテーマを聞きたくなった

	人数	%
そう思う	395	78.7
どちらとも言えない	47	9.4
そう思わない	0	0.0
無回答	60	12.0
合計	502	100

図表 14　講座の内容は面白かった

	人数	%
そう思う	425	84.7
どちらとも言えない	26	5.2
そう思わない	1	0.2
無回答	50	10.0
合計	502	100

図表 15　講座の進め方に工夫がなされていた

	人数	%
そう思う	401	79.9
どちらとも言えない	42	8.4
そう思わない	5	1.0
無回答	54	10.8
合計	502	100

図表 12 は、このたびの受講により講座の続きが聞きたくなったかについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 411 人（81.9%）だった。

図表 13 は関連したテーマを聞きたくなったかについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 395 人（78.7%）だった。

図表 14 は講座の面白さについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 425 人（84.7%）だった。

図表 15 は講座の進め方に工夫があったかどうかについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 401 人（79.9%）だった。

以上の 4 点から、公開講座はおおむね好評だったと考えても良いだろう。

図表 16　講座を知ったきっかけ

	人数	%
大学からの郵便物	248	47.2
Web サイト	143	27.2
知人を通じて	75	14.3
新聞折込チラシ	50	9.5
その他	35	6.7
新聞記事	9	1.7
市内電車の広告	3	0.6
facebook	2	0.4

図表 16 は公開講座を知ったきっかけについてたずねた結果である（複数回答可）。これをみると、ＤＭ（大学からの郵便物）が 225 人（44.8 %）と最も多く、Web サイトが 135 人（26.9%）、新聞折込が 87 人（17.3%）と続いている。なお、「その他」の自由記述には次のようなコメントが記されていた。

・募集要項
・受講講座をさがしていた
・大学内で
・学内のポスター
・老師から聞きました
・富山学習ネット
・大学にあった受講生募集冊子
・授業で
・前回に続いて
・病院に置いてあったチラシ
・学内ポスター
・親から
・ＣｉＣの書棚
・継続
・チラシ
・講師からの紹介
・市の広報

・講師の紹介
・大学内の掲示
・Email
・同窓会からの案内
・〇〇先生から

＊

以下では、公開講座で企画してほしい内容についてたずねた結果である。

【教養・趣味を重視した講座】

・漆
・木工
・日本の伝統文化に親しめる講座
・漢詩を本格的に学べる講座
・今まで受けた講座の発展的内容
・芸術系、ものづくり系
・スケッチ、イラスト
・SNS, 3D プリンター
・歴史の最新研究情報（特に日本史の条件で、定説に変化のあったもの）
・物作り（つくえ、いす）
・キッド、木工
・書道
・油絵
・教養、本質的もの
・美術関係
・洋画
・食育等
・俳句
・古典文学を読み解く
・英会話
・料理
・和、洋、中の料理、お菓子
・iPad の活用
・和菓子作りの基本から応用
・薬膳料理、豆腐作り、和菓子作りの基本から応用
・生涯学習として役立つ講座
・片づけの仕方、家事に関して役立つ情報
・本講座のような体験型を希望
・富山の食文化を学ぶ講座
・歴史
・和風料理
・和菓子講座以外に、発酵食品の講座も興味あります
・古文書解読
・洋裁講座
・料理・栄養
・体験、実習できる内容のもの
・歴史（日本史）、数学、天文学 etc.
・美術など
・木彫、版画、クラフトなど
・工作（ものづくり）
・ギターなど（楽器）
・ヨガ・ピラティス
・映画の講座
・歴史（日本の江戸～明治）
・心理学的なこと
・哲学・ヘーゲルについて
・音楽関連、外国の文化について
・楽しみながら体を使うこと
・他の音楽に関する講座
・西洋絵画と歴史
・芸術や文化の理解
・音楽理論
・英語検定
・演劇、映画
・現代科学の水準を素人に分りやすく
・詩、哲学、心理学
・躾の方法
・気象学、地政学
・ヨガ、歴史
・実践的な心理学
・分りやすい法律・歴史、豆知識
・社会学、法律
・地域文化を知る講座
・登山、トレッキング関連
・富山に関する文化
・高山植物、自然観察
・地震、呉羽山断層帯、自然災害、気象災害
・中部山岳の大山地形ー例えばー
・アジアの中の日本、憲法、近代史
・フィールドワークを含む講座
・山歩き、自然を知る
・山歩き、自然観察
・登山、自然観察
・映画、美術鑑賞
・健康になる体験講座
・ＰＣ利用の年賀状作り

・料理、旅行等
・数学
・薬用植物の栽培、富山の歴史
・薬用植物の殖やし方
・農業講座
・深層水、富山の名水、ふるさと再発見
・モノづくり的なものがあればよい
・身の回りの自然を取り入れた講座
・薬草、薬膳関係
・植物の交配
・音楽に関するもの（今回のも含みます）
・社会学、哲学、歴史
・気象学、心理学、地政学
・「戦後史と私」みたいな講座
・親子でできる小学校前の子供ができる講座
・山歩き
・芸術文化部での写真・撮影の講座
・タブレット等使いこなせるようになるための講座
・西洋美術史（イタリア、ルネッサンスについてなど）
・ピラティス、家庭菜園
・映画講座
・韓国語
・芸術（美、造形、写真、音楽、歴史（日本、アジア））
・フラワーアレンジメントやアロマなどのものがあっても良いと思う
・古典などの解読講座
・年賀状をＰＣで作る
・薬膳とか発酵食とか
・旅行に行った時に実際に活用できるコトバを学ぶ
・ピラティス、経済入門
・とんぼ玉、デッサン（平日夜）
・植物に関するもの
・美術・自然など
・韓国文化についての講座
・山歩き、火山としての立山、富山の自然
・歴史講座（幕末から維新にかけて）
・ドイツ語会話（初級）、イタリア歌曲を歌おう
・音楽に関する
・フランス歌曲、イタリア歌曲
・ヨーロッパ美術・芸術を学ぶ講座
・文学書を原著で読むような講座
・音楽（楽典）、ソルフェージュ（基礎）
・文章
・簡単なトラベル仏会話
・リラックス効果のある講座、ものづくり・・観察
・タブレット端末
・上手な写真の撮り方
・洋菓子教室
・ワイン、日本酒の講座
・世界の宗教の比較、移民の歴史、人種などの差別・偏見等々
・県内の歴史（立山信仰、北前船等）に関するもの、ヘルン文庫

【資格取得を目指す講座】
・料理（自然の物をつかったもので）
・ＴＯＥＩＣ
・英検、TOEIC　etc.
・医療事務
・宅地建物取扱主任資格
・英検　１級講座
・社会福祉士、精神保健士、音楽療法
・カラーコーディネーター・インテリアコーディネーター
・TOEIC
・TOEIC
・フランス語ヨーロッパ共通資格試験のための講座
・仏検上級（準一級など）
・福祉、ＰＣスキル
・日本語教育能力試験に役立つような講座
・中国語検定対策　３級以上
・英検１級講座、ライティング講座
・簿記、プログラミング、ＦＰ
・ネイル講座
・IT ストラジストなどの IPA の資格が取られる講座
・第２の人生のために、仕事に役立つ資格をとりたい。
・簿記やＦＰなど会計関連
・ＴＯＥＩＣ対策、仏検対策
・フードコーディネーター、カラーコーディネーター
・EXCEL

・睡眠学、ＯＡ関係

【語学を充実させる講座】
・ドイツ語
・中国語入門の夜の部
・英会話
・英語
・韓国語をもっと学びたい
・ネイティブによる講座
・フランス語関連
・古今和歌集、新古今和歌集
・日常会話レベルの英語、初めての韓国語等
・英会話、多読
・英会話
・英語講座
・ロシア語
・イタリア語、スペイン語
・イタリア語
・短いコメント英語
・フランス語、英語
・英語
・中国語、スペイン語、韓国語
・韓国語
・留学生の講座（韓国語）
・朝鮮語
・スペイン語中・上級
・ドイツ語
・初心者向けの語学
・ラテン語入門
・仏語会話
・フランス語読解や会話に特化した授業
・フランス語講座を平日夜に増やして頂きたい
・ドイツ語
・タイ語
・スペイン語、イタリア語等々
・英会話、仏会話の時間を増やして欲しい
・フランス語講座
・英語
・英語
・初歩の英語・フランス語・ドイツ語など
・日常会話
・スペイン語など
・英会話
・英会話
・ライティング（英語）の講座
・英語
・英会話
・英語、フランス語
・通訳ガイド
・英語
・スペイン語（県内にない）
・入門も作った方がよい
・韓国語入門も作ってほしい
・英会話
・ドイツ語
・ドイツ語講読
・英会話
・ビジネス英語
・もう少しだけ易しいフランス語
・フランス語
・英語
・英語、フランス語
・仏語の様に上級コース、時事英語、在日年数の少ない講師によるコース
・アメリカ英語の講座が多いようですが、是非イギリス英語の講座も設けて下さい。
・英語のカンバセーションカフェ、日本文化を英語で語る講座
・ベトナム語の入門講座
・中国語
・インターネットを利用した英語講座
・ドイツ語
・話せる韓国語
・韓国語の小説を読む
・韓国語上級
・英語関連
・英語の講座がもっと多ければいいと思った。（初心者向けなど）
・引き続きハングルを学べる講座
・ロシア語、韓国語か中国語
・中国語の入門
・インターネットを活用した英語
・中国語
・会話が中心の韓国語（平日夜）
・英語・中国語
・ハングル入門
・英会話
・英文ライティング
・フランス語
・簡単な日常会話が出来るようなもの

・ラテン語入門
・芸術にふれられるような講座、音楽、絵、文化
・ラテン語（初級）（基礎）
・英語でフランス語を学ぶ（中級～上級）
・仏語が簡単な日常会話
・中学英語程度で自己表現を目標とした講座
・フランス語の作文
・外国語会話
・英会話

*

以下は、自由記述欄に記入された内容である。

・今回も先生方、学生方に大変お世話になりありがとうございました。新しいチャレンジでとても楽しかったです。来年も楽しみにしています。
・日程がきついと思います。
・後期にもしてほしい。
・毎年楽しみにしています。来年も受講できたらよいと思います。
・きっちり2時間で終わるプログラムにしてほしい
・ビジュアル的なプログラミングについて知ることができ面白かった。MS-DOSからMacやWindowsへの変革を見てきたので、それがプログラミング言語の世界でも起ころうとしているように見えて、今後プログラミングのインターフェイスがどのように進化していくのかが楽しみだ。また、仕事だけをしていると、視野が狭くなると実感できた。今後もこのような講座を通じて色々なことを学びたいと思います。
・キッドが大変参考になりました。
・CADについて関心をもって勉強できた。大変楽しみました。
・ありがとうございました。
・久しぶりに楽しく学ぶことができた。機会があれば、他の誰かに教えたい。仲間を増やしたい。本日は休日にもかかわらず、ありがとうございました。
思ったより、時間がタイトな所があった。
・たまたまエンジン01に来て講座の存在を知り気をつけてWebを見ていたので受講できました。特に私は他県出身ですので、知らないことも多い。もう少し広告の方法を考えては。
・17:30のスタートは時間的に仕事を終えて来ると厳しいです。18:00からのスタートになると有難いです。
・旅行の企画もあったら良い。
・大変よかった
・木彫希望します
・今回の講座で成長を実感できた。ありがとうございます。
・少人数で雰囲気もよく、楽しく学ぶことができました。
・講座の進め方を工夫されていて、とてもよかったです。平音がむずかしかった。
・受講生の顔がお互いにわかる様な机のレイアウトにして頂きたい。教室形式⇒コの字形式。
・学生さん対象の授業をもっと公開して頂けるとありがたいです。
・夏休み期間が長いのが残念に思います。
・初めて参加しましたが、とても楽しく勉強できました。
・今回初めて受講しました。先生が教材を受講生に合わせて準備して下さったので有意義に受講することが出来喜んでいます。後期もぜひ受講したいと思います。
・今回は受講生も多く先生か私達にあったような内容だったのでとてもよかった。もう少し長い期間あればいいと思います。
・最初少しわからなかったが、慣れてくるともう少し回数が増えるとうれしいです。2時間は「あっと」いうくらい過ぎました。ありがとうございました
お茶を習っておりまして、床の掛け物が読めるようになりたいと思い参加しました。初めはむずかしかったのですが、だんだん読めるようになり楽しくなりました。ありがとうございました。
・今回は和歌でわかり易かった
・少し読めるようになってきたので、これからも変体仮名に親しんでいきたいと思います。回を重ねるごとに楽しく学ぶことが出来ました。お世話になりありがとうございました。
・初め読めなかったけどだんだん読めるようになって楽しかった
・〇〇先生の授業のファンです。いつも興味ある古文を選んできて下さるのでとても集中して

講座を受けることができる。また先生のご説明もとても楽しい。次回も是非受講したい。
・全くわからなかったTOEICについて知ることができました。ありがとうございました。
・とても楽しい時間でした
・今回受講できて本当によかったです。先生のお人柄に、ものすごい知識や職人の技に魅了されました。こんなに素晴しい内容の講座はなかなかないと思いますので本当にありがたいです。これからもぜひ受講させていただきたく思います。粒あん4回と、どら焼き2回さっそく作りましたが、自分で作ったものは喜びもおいしさもひとしおでした。先生ありがとうございました。〇〇さんもありがとうございました。
・たいへん楽しくためになる講座でした。先生のお話もおもしろく、〇〇さんにも親切に教えていただきありがとうございました。お茶を習っていまして、先生がよく手作りのお菓子を出してくださいます。私もそれに近づきたいと思い参加しました。「そんなことまで話していいの？」というようなプロのアイディアやヒントまでお伝え頂き感激しています。ぜひ全部作ってみます。次回にはたくさん質問できるよう頑張ります。できればもう少し涼しい時期に、毎週ではなく隔週だとありがたいです。
・和菓子作りは初めてで知らないことばかりでしたが、とても分かりやすい、楽しい講座でした。材料はとてもシンプルですが、素材と工程、手間で味が変わるという和菓子のむずかしさを体験でき、とても有意義な時間でした。ありがとうございました。
・KNBだったかに先生が教えておられることを知り、その年は終了していて今年は是非習いたいと思い参加しました。洋菓子よりも和菓子が好きで、小麦粉よりたくさんの種類のある米粉を使っておいしいお菓子ができ、日本の文化に改めて、深さを知りました。プロの先生に直に惜しみなく教えて頂けて大変うれしく思いました。家に帰って、練習しても次から次へと疑問が出てきたりして奥の深さも感じています。葛まんじゅう、家でできる最中の皮の作り方が知りたいので、次回お願いできますでしょうか？
・和菓子講座では季節を変えて実施してほしい。練り切りがあったらもっと良い
・出来れば10月以降の涼しい季節に受講できれば助かります。（小豆は足が早いので）
・年間を通して月ごとの和菓子作りなどがあれば季節感も出て良いかと思います。毎回材料など準備をして来て頂いているので講座の進行状態も良く、大変良く助かりました。ありがとうございました。ぬれ甘納豆など作ってみたいです。
・もっと年間の回数を増やしてほしい。季節ごとの和菓子作りの教室を開講して欲しいと切望。
・お菓子は難しいと感じていました。おはぎは母からの伝授があり一年に何度か作っています。“あん”については本格的に作り方を知り、とてもよかったです。今回までに2度蜜漬を作りました。家族にも大変好評でした。生活の中にとり入れていける日本人のスイーツを又習いたいです。
・１回２回終わるのが遅かった。16時なら15:55終了をめざして講座を運営してほしい。
・はじめての和菓子作り、新鮮でした。なかなかない経験でした。その場で試食できたら、作りたてが食べれてよかった（毎回あればいいと思う）
・十分に準備がされていて、限られた時間で多くの体験ができたと思います。リラックスした雰囲気と巧みな話術で楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。“つぶあん”作りました！！和菓子が高価な訳（理由）が判明しました。
・先生２人の掛け合いがとても楽しかった。すべてとてもおいしかったです。お２人ともプロだと感じました。母や祖母が作ってくれたように、まず、おはぎが作れる女性になりたいです。家でまた作ってみたいと思います。本当にありがとうございました。
・金沢での和菓子講座も盛んなのでコラボされるのも如何でしょうか（歴史のある講座も）
・今回この講座をはじめて受講しました。４回がとても短く感じるくらい楽しく勉強になりました。本当に勉強になりました。ありがとうございました。講座中に家で復習で作ることができなかったので絶対にチャレンジしてみたいと思います。先生の説明もたいへんわかりやすかったので初心者の私も親しみをもつことがで

きました。（これからも、来年も）ぜひ続けていただきたいです。可能であれば、月１回とか不定期（集中講座ではなく）開催してもらえると季節にあわせた和菓子に触れられるかと思いました。（通いやすい気もします）和菓子がますます大好きになりましたし、周りにも自慢できそうで嬉しいです。ありがとうございました。
・先生方のとてもよい雰囲気にこの講座に出席するのが楽しみでした。今まで知りたかったお菓子：水羊かん、かん天、あん作り、本で読んでもわからなかったので本当にありがたかったです。先生の人間味に引き込まれる教室でした。勉強出来たこと心より感謝致します。
・和菓子を家で楽しむための豆を煮ることから始まる和菓子の文化を残したい気持ちが良くわかった。和菓子と季節もあるので射水市の独自のものはあるのですか。又、県内の独自のものは？例八尾には今頃は「白玉」というお菓子が各店ででてきます。春は桜もちうぐいす餅５月には柏もち６，７月は「白玉」、秋にはくりおこわ、冬は福梅となってきます。
・講師の先生方の日々培われた知識と技術にもとづく自信にあふれた姿にふれることができたことが大きな収穫です。
・和菓子講座は今回で４回目を受講させていただきました。受講するたびに講師の先生の和菓子を家庭に普及させたいという熱意を肌で感じ自分で作るようになりました。作ってみて疑問に感じたことは講座中に気軽に質問させてもらえましたし、講義中に専門職のことなどを十分に教えていただき本当に楽しくぜいたくな時間を過ごさせていただき感謝しています。ありがとうございました。
・とても楽しく受講させていただきました。先生のトークも楽しみです。この受講中に粒あんを作り、水ようかん等も挑戦してみました。祖母がいた頃に家で和菓子をおやつに作ってもらっていたことを思い出しました。この後も家庭で作ってみたいと思います。また、次回も受講したいと思います。我家の家族の好きな「こしあん」も覚えたいです。ありがとうございました。
・本語学講座を受講するのに精一杯です。他に余裕がありません。（本当は万葉集や唐歴史も学びたいのですが・・・・）
・語学研修のための海外旅行を計画してほしい。
・前期中級、後期上級は私にとって無理があります。特に当日朝プリントをもらってすぐ翻訳はかなりつらいです。クラスが中級・上級２つに増えたらいいと思っています。
・〇〇先生の講座がもっとあるとよい
・先生が魅力的で、講義の内容も良かった。受講者も全員意欲的で、気持ちの良いクラスでした。
・いつも誠実な授業で充実していました。
・美術について新たな面が知れた
・美術に対する見方が広がった。本当にありがとうございました。
・大変楽しかったです。有意義な時間を過ごせました。会社でこちらの話をしたら認知されていませんでした。もったいないと思いました。大学の通常の授業もお知らせされれば良いと思います。
・英語以外のことも幅広く学ぶことができ世界が広がった。まだまだ上達しなかったのでまた受講したいです。
・とてもためになる講座でした。TOEIC の得点が良くなることを願っています！また同じ講座があれば受講したいです。
・一日に一度も立って歌いません。最後に必ず一回は立って歌わせてほしい。座席の前後が狭くて苦しいのです。言葉の難しい曲が選ばれていたのでは？もう少しオーソドックスなあたりを曲数多くお願いしたい。
・毎回、素敵な時間を過ごすことができました。先生のお人柄でとても楽しいレッスンでした。ありがとうございます。後期も受講したいと思います。よろしくお願い致します。
・とても充実した内容の講座ありがとうございました。次回も出席したいです。
・講座回数が増えて少し忙しくなった（予習、復習が・・・）
・ドイツ歌曲を日本語で歌うことはないのでしょうか。もしそのような曲があったらたまにはいいのでは・・・。
・旅行中の会話を勉強したい
・上級は無理なので、続けてはいきたいのですがせめて中級の名前にして頂きたいです。
・最後の授業で行われた体験発表は、できれば

以前にあったボジョレ･ヌーボーを楽しむ会(そういうことのために始められたものと思う）などで行ってもらった方が良いと思う。
・フランス語初級のテキストを最後まで終わらないで初級の１年間が終了するのではないかと気がかり。複合過去形や半過去形などよくわからないので教えて頂きたい。
・課外授業があればよい。
・フランス語講座は初めてですが、先生の初歩からのペース、段階をよく配慮下さる内容、進め方で楽しく学ぶことができています。テキストも自学補助に生かせるテキストで助かっています。
・今期からフランス語講座のクラス分けが、適確なレベルになっていなかった。従来のようなクラス分けにしてほしい。受講者の意見を充分反映してほしい。市民のための生涯学習であり、運営者の都合優先はいかがなものか。
・ありがとうございました。初めての参加でいまひとつわからないことも多く、今後また来させてもらいたいと考えています。
・発達障害についての講座を前に受けていたのだが、また開いてほしい
初めて参加させていただきました。私には専門的で少し難しいと感じましたが、とても身になる内容でした。参加してよかったと思いました。
･勉強になりました。ありがとうございました。
・今回の講座の継続を希望します。立山カルデラ、新湯の現地見学など
・20 代の若い頃より、立山、剣岳等数えきれないほどの登山経験があったがこの度の講座で立山カルデラ、弥陀ヶ原のなりたちを学び参考になった。85 才の超高齢者となり、登山は困難なるも毎年弥陀ヶ原周辺を日帰りで出かけている。今年も９月下旬～ 10 月上旬に上山を計画している。
・パワーポイントによる紙の資料の文字が小さく読みにくい。
・個人的に・・・富山大学工学部の卒業生です。約 30 年ぶりに五福キャンパスに「通学」しました。2 回目の講義の時は大学生協も利用しました。普段は金沢市で生活しているので 3 回目の講義の時は「つるぎ」を利用して「通学」しました。3 回目の立山野外授業は本当に良かったです。昔の話をしても仕方がないのですが、小６年の立山登山は大雨でしたので、こんなにきれいな立山を見たのは初めての経験でした。ありがとうございました。
・配布頂く資料についてはＰＰＴの貼付はいいのですが小さすぎて文字が読めないものはないように配慮頂ければ幸いです。
・いつも立山周辺の山に登るときに、地獄谷の活動がどうなっているのか知りたいと思っていた。春、一の越、雄山あたりから、雷鳥荘方向を見ると雪が黄色に変色しているエリアが年々広がっている気がしたり、雪の消えたあとハイマツがどんどん枯れていっていることもあってどうなっていくのだろうと毎年心配していた。今回の学習で、火山からの噴出物が厚く積もった過去の状態を目の前に今の変化どころではない大きなできごとがこれからも起こる可能性をまざまざと感じた。またこのような機会があればぜひ参加したい。先生方にはいろいろな疑問に丁寧に教えて頂きありがとうございました。
・内容が語学系に片寄っていると思います。同じ人文科学系でも地理や歴史系分野があれば興味を持つ人達も多いのではないでしょうか。私個人は理系の人間であり、理学・工学関連の題材を取り上げて頂くよう強く希望しています。
・毎回たのしく講座を受けることができました。色々なテーマで考えることができました。Thank you, ○○ I could enjoy and think deeply about Volcano in this class.
・speech の勉強になった。
・コンバセーションカフェは毎年少しづつ趣向を変えながら飽きさせない楽しい講座となっています。
・とても楽しかった。刺激的なクラスで、実験的なことがたくさんできたのがうれしかった。
・とても楽しかった。前向きに料理にとりくんだ。よい経験となった。毎日実験をして英語にする。料理は実験だ。
・Cooking class はよかった。仲間と色々計画できて楽しかった。
・Speaking English is really fun. I'd like to practice more speaking invarious situation. But problem is I'm very busy these day.
・楽しみました。I've greatly enjoyed the class.
・ありがとうございました。面白い講座でしたが、自分自身の準備が足りず反省する事が多

かったです。
・上手く演じられなかった。
・最後の performance がおもしろかった。
・歩き方や呼吸法を教わり、最近歩くことが少なくなっていても、長時間急に長い距離を歩いてもあまり疲れなくなり 3000 メートル以上の所に行ってもぜんそくの心配がなかった。
・FAX で申込むと受理されたのかどうなのか、受講できるのかどうかを早めに教えてほしい。実技だけでなく体の説明もあったので今自分のやっていることの意義がわかって楽しかったです。体のため心のため今後も続けていけたらと思います。先生ありがとうございました。
・後期がお昼時間になり参加できなくて残念です。来年は参加したいので現在の時間でお願いします。数年参加していますが効果が少しづつでてきているように感じました。月に２回がちょうどよいですが少ない月は体調が悪いような気がします。
・入門といいながらも深いお話もおききすることが出来て興味が増しました。
体を動かすことが本当に楽しく、また、先生のおっしゃることがユニークでいつも笑顔でいられました。続けていきたいと思います。
・タイムリーな話題・情報をもりこんでありよかった。
・とても面白かったです。驚くことばかりでしたが、少しでも活用できればと思います。
・ぜひこのまま講座を続けてください。
・時間を午後 6:30 ～ 8:00 とし、終了を 8 時にしてほしい。
・家庭菜園講座をやって欲しい。
・夏休みや春休みにも講座があるとよい。
・来年も続いて参加したいです。
・開催日時については他の講座とダブらないように開催してほしい。体系的（ジャンル別）な講座を開催してほしい。「楽しい薬用植物の育て方・殖やし方」の上級編も開催してほしい。富山の薬草の講座もあれば。
・他の受講者さん達も知識が豊富で、いろいろ教えてくださって勉強になった。植えかえとか初めてだったけど、目の前で見本やってくれてわかりやすかった。
・少人数のグループできめ細かい指導をして頂き大変よかったです。ありがとうございました。
・来年もよろしくお願いします
・回数がもう少し多かったらよい。他と比べると。
・事前にテキストが配られれば、予習できた。
・大変参考になりました。ありがとうございました。
・今回の講座は、毎回合唱、合奏がとり入れられました。先生の講義に加えて参加型の要素が入ったのはとても良かったと思います。講座は、体験が入ることが講義のアクセントになると思うのでこれからも続けて頂きたいと思います。
・貴重な機会を頂きありがとうございました。先生の丁寧な対応に感謝致します。また参加させて頂きたいと思います。
・普通の生活では見る聞く事のできない世界でした。家庭や仕事での人とのかかわりや相手の気持ちをどう理解し、自分と折り合いをつけて生きて行くべきかを考えている中でこの講座と出会い、人の心の感じ方などを改めて考える事ができたと思う。そして音楽が、心に何かしらの作用をすると言う事が実体験として知る事ができ楽しかったです。
・毎回一緒に歌うのが楽しかった。学生に戻ったような気分で毎回楽しみでした。音楽を聞くのが好きなので、日々のストレスや喜びにうまく生かしていきたいです。先生の優しくてちょっとなまりある話が、ふんわりとしていて日々の忙しい生活から少し学生気分を味わえました。ありがとうございました。
・音楽療法（実践の場）の施設見学希望します。
・昨年度前期に続き今年度も受講しました。とても楽しく受けれました。日々の生活に生かせると思っています。
・もう一度初級を受けたかったのに、曜日が木曜に変更されて参加できなくなりとても残念です。
・楽しかったです。皆で流しそうめんや餅つきなど、季節のイベントがあってよかったです。
・たいへんお世話になりました。いろいろ細かくおしえて頂き勉強になりました。
・日常生活において外国語を話す機会はほとんどないので、この講座は大変刺激になりました。今後も自由に話せる講座を開設して頂ければ嬉しいです。講師は受講者が話しやすいように気を配っているのがよくわかりました。外国語に

ついてはフランス語にも興味があります。充実した講座があれば受講したいと思います。
・英語コンバセーションカフェの授業をこれからも続けて受講したいと思っています。ぜひ来年度も開講して頂きたいと思います。実践でその都度ネイティブのアドバイスを受けられるのでとても有意義なクラスだと思います。
・このコースは conversation がメインであり、参加者が可能な限り英語で話す機会が与えられ“話したい”という希望はある程度満たされるコースであると思う。基本的に参加者のレベル努力に depend している。（２年前から参加して英語の web サイトを毎日読む様になったのは自分としては大きい）もう少しテーマの設定、それに対しての講義的な内容が加味されるといいと思う。講師からの連絡メールが英語の為 writing 練習もできる点はなかなか他ではできない。それに応じて仲間とも英語でメール可能になった。
・〇〇先生のクラスを何度か受講させて頂きました。とても充実したクラスで先生の人間力にもひかれて楽しく学ぶことができました。感謝申し上げます。学生時代に〇〇先生のクラスを体験できたらよかったと思います。とうぞ今後とも地域の大学として地域に住む社会人に向けて学びの場を設けて下さいますようようよろしくお願い致します。
・10 月より〇〇先生のディスカッション講座に参加させていただきました。英語で自分の関心あることを語り又他人の考えにコメントすることは”英語＋知識”が必要で私には難しい内容でした。でも、教科書ではない人の意見を英語で聴き、英語で話すことでコミュニケーションのツールとしての言語“英語”を学ぶ最良の機会になったと思います。〇〇先生や意欲的で快活なクラスメイトに出会うことができ本当に良かったと思います。今後もこの授業があると良いです。本当に。
・ステップ１があるのだから、ステップ２はもうすこしレベルアップして欲しい。
・前回の講座に比べてレベルが下がっていたのであまり向上できなかった。教科書がやさしすぎた。でも先生が一生懸命楽しくなるように工夫して下さるのが伝わってきて、宿題もていねいに見てくださったので、とてもありがたかったです。
・中国関係（文化、語学、経済など含む）歴史。若い人達も受講してほしい。今後の日中のため隣国同士の交流が重要。中国語講座で中国人同士の会話を聞く機会があれば良いと思います。
・講義内容もとても濃く、私たちも喜んでおります。今後もぜひ先生の講義を受講したいと思います。
・上級の為レベルが高かったですが、努力する機会を得られて有益でした。目標が明確になってよかったと思っています。継続します。
・今後も非常勤の先生のクラスを続けてほしい。〇〇先生、〇〇先生は発音や discussion を指導できる数少ない指導者である。
・今回２回目の受講でやっと少しわかってきて面白くなってきた。TOEIC の教科書よりも最後にしたインターネットの TED のディクテーションが面白かったです。難しかったですがやりがいがあり、自分の弱点がよくわかりました。先生のお話やおすすめの本など日常生活でもとても参考にさせて頂き有難かったです。アドバイス指導も丁寧にして頂き具体的に悪いところがわかりました。以前と英語の聞こえ方が違ってきたように思えます。今年は久々に TOEIC 受験しようと思っています。次回も可能な限り受講したいです。ありがとうございました。
・高岡の方にも朝鮮語の講座が１～２有れば良いと思います。
・公開講座の語学の水準がよくわからない（試聴できないので受けてみないとわからない）。
・この講座がずっと続くと良いです。
・修了証書やシールは必要ありません。
・英語に対する勉強意欲が大変湧いてきた。
・TOEIC というものにふれることができて新鮮で楽しかったです。
・駐車場の完備、多様な講座をより多く開催願いたい。
・学ぶ機会や友人を増やす機会を与えていただき感謝しています。文字に関しての複数の講座があればうれしいです。
・金曜日の韓国文化講座を復活して下さい。
・今年の４月から実家に帰りますので、富大の講座を受けることができませんが、受けてみてよかったです。これからもロシア語の学習を続けていこうと思います。

・このままずっと続けたいです。
・日常生活のいろいろなことから離れ、２時間みっちり自分の体と向き合うことができ、とても貴重な時間となりました。先生の言葉に集中して、体と対話し、終わった後は、いつも体も心もすっきりと爽快感が味わえました。２週間に１度の講座でしたが、できれば週１回月４回開いていただけるともっと体の調子がよくなるのでは･･･と考えています。いつも２時間ずっと言葉のあったかシャワーをかけてくださった〇〇先生、本当にありがとうございました。
・体が硬く、姿勢が悪い私でも熱心に指導していただき感謝しています。体もだいぶん柔らかさがでてきて運動することが楽しくなりました。毎日体をほぐすことで、カゼをひかず健康にすごせています。〇〇先生のお話も前向きでためになることが多く楽しく受講できました。今まで継続的に続けることが苦手でしたが、先生の上手なご指導のおかげで、毎日することの大切さがわかり続けられています。次回もぜひ続けて受講したいです。
・筋肉や呼吸についての専門的な説明があり、それがピラティスの動きとどうつながっているのかを分りやすく教えてくださった。折々の話題にもふれ、参考になることが多かった。一人一人の体の状態や動きをとても丁寧にみてくださりアドバイスも適切で、とてもよかった。
・解剖学的なことを踏まえ、筋肉の使い方などを細やかに教えていただけましたので、単なる運動ではなく頭で理解しながら身体を動かす貴重な時間になりました。はっきり姿勢と呼吸の改善につながったと思っております。また、先生の明るく前向きなお人柄に毎回励まされました。ありがとうございました。
・レベルアップしました。大変ありがとうございました。
・昼間の講座を増やしてほしい。
・どうして水曜日夜の韓国語講座が無くなったのか理由を知りたい。参加していた講座が閉鎖されたのが今回で２回目なので大変困惑しています。
・同じ時間なら次回も参加できたのですが残念です。また機会があれば受講したいと思います。ありがとうございました。
・語学の楽しさを実感しています。違う世界が広がっている！下手でもさらに深めていきたいと思います。
・大人になっても勉強できる機会があり、とてもうれしいです。先生の授業が楽しくて授業がある日が楽しみでした。
・先生の心あたたまる授業に好感がもてました。ありがとうございました。
・先生のお人柄と熱心な授業にヤル気がとても湧きました。とても楽しい授業でしかもわかりやすかったです。ぜひ続けたいと思います。
・授業の中で先生の生の中国の習慣や今どきの考え方や言葉を知ることができ、本当に楽しかったです。ありがとうございました。
・親類が韓国に留学していたので旅行の為知識をえる為受講しました。ありがとうございました。
・毎回宿題をするために、自分のまわりのできごとを英語で説明するための表現を考えたり、海外で積極的にコミュニケーションがとれ、自分の人生がより豊かになっていると感じている。また、より深く知りたいという好奇心、自分の足でさがす行動力、自分の生活の中でも積極性が増している。また、ＴＶや雑誌など英語でインパクトのある表現に敏感に反応、その意味や背景についても考える思考回路になっている気がする。クラスメイトが皆生き生きと活動、学習している。〇〇先生の自由に考えさせてくれる広い範囲でのアドバイス（どの分野でも深い説明をもらえる）。アート、心理学、文学、生理学ｅｔｃ
・〇〇先生の授業は自発的に勉強しなくてはならないのでとても鍛えられます。大人になってからはそういう機会が少なくなるのでとてもありがたいと思っています。スタッフ登録しているボランティア団体で海外からのお客さまに対応する時も臆することなく話せるようになりました。とても感謝しています。
・〇〇先生の授業は自発的な勉強をうながすので、毎回とても楽しみにしています。来期も受講したく、また、よろしくお願いいたします。
・初めての機会でしたがとても楽しく受講できました。音楽的な知識も多少ふえたようにも思えました。なかなか外国の歌を歌うことがなかったので頭と体を使って楽しかったです。
・楽しく受けられました。ありがとうございま

した。１．復習に時間がかかり過ぎるとその日の中心教材にかける時間が少なくなってしまう。２．１日に１回最後は立ちたい。３．最終日、うたいたい好きな曲を選んで発表しては？
・午前は 10:00 ～ 11：30 帯が希望です
・受講料がもう少し安い方がよい
・生徒の雑談に引っ張られ過ぎないようお願いします。（時間が限られています）
・手軽に楽しく語学を学ぶ機会となり、自分にとってはとてもよかった。講座の曜日、時間も良く、このまま続けていただけたらと思う。
・買ったテキストを最後まで学びたいです‼無料ならいざ知らず、購入したものを途中で終わるプログラムはおかしいと思います。切に願います‼
・仏（初）、丁寧な仕組みで楽しく（理解できたかどうか別として）勉強させて頂きました。来年も同じ講座を続けたいと思っています。
・フランス語初級を１年間楽しく学ばせていただきました。私達のつたない質問にも先生が一生懸命答えてくださって嬉しく思いました。ありがとうございました。
・地元富山を日本や世界に発信できる知識を得られる講座
・語学はマンネリ化しがちになるので、できるだけいろんなスタイル（内容）の講座ができると良いと思う。例えばレベル別だけでなく、教養（文化）も学べるものがあれば楽しく学べると思う。
・テキストの文字が小さいのでもう少し大きい方が良いと思います。
・時間的に平日の日中が多いようで参加しにくい面もあります。仏語の講座はたまに映画もありとても楽しめました。
・今までＳＦ映画は見たことがなかったのですが､面白そうなので「スター･ウォーズ」や「アバター」を見てみたいです。
・今まで思い続けていたことに違った面から思考することができた。人の立場の真実からきちんと物事を理解するようにしていきたいと感じた。英語にも興味が持てたので、機会を見て字幕の聞き取りをやってみたいと思った。ありがとうございました。
・普段の生活とは違った分野に触れることができて新鮮だった。知らなくて気づかなくて過ぎていくものの多さにおどろきました。
・映画の見方をいろいろ教えていただきありがとうございました。興味はあってもなかなか見る機会のなかったアメリカ映画ですがこのように視点を変えて見ていくことで見てみたいという気持ちになりました。英語のリスニングの勉強にもなりますし今後にぜひ生かしたいと思いました。
・映画が好きで講座に参加させて頂き楽しく受講出来ました。色々な物の見方、考え方、感じ方、とらえ方があるとつくづく思いました。
・昨今問わず、映画には人種に対する差別がみられるとは知りませんでした。あくまでエンターテイメントという娯楽で楽しむだけでなく、そこにアメリカ社会問題などを背景にしているということをふまえて、今まで見てきた映画を見直してみようと思いました。
・ありがとうございました。
・先生と一緒に映画を１本見て感想を話し合う講座（鑑賞会）もあればよいと思います。開かれた大学の印象を強く抱きました。市民と学生が共に学ぶ機会が増えればお互いの刺激になって良いと思います。また、サテライト講座も受講したいと思いますが出前型（要望による）講座も積極的に取り入れていただければと思います。

Ⅱ　オープン・クラス（公開授業）アンケート

ここでは、2016 年度における富山大学オープン・クラス（公開授業）の受講生述べ 278 人に対するアンケート調査の結果を報告する（回答件数 203 件、回収率 73.0%）。

図表 17　回答者の性別

	人数	%
男性	137	67.5
女性	64	31.5
無回答	2	1.0
合計	203	100

図表 18　回答者の年齢

	人数	%
20 代	9	4.5
30 代	5	2.5
40 代	7	3.4
50 代	19	9.4
60 代	97	47.8
70 代以上	75	36.9
無回答	0	0.0
合計	203	100

図表 19　回答者の職業

	人数	%
フルタイム	26	12.8
パート	6	3.0
無職	141	69.5
学生	29	14.3
その他	1	0.5
無回答	26	12.8
合計	203	100

図表 20　回答者の最終学歴

	人数	%
高校卒	25	12.3
専門学校卒	30	14.8
短大・高専卒	131	64.5
大学卒	14	6.9
大学院卒	2	1.0
その他	1	0.5
合計	203	100

図表 21　回答者の居住地

	人数	%
富山市	114	56.2
高岡市	45	22.2
その他	39	19.2
無回答	5	2.5
合計	203	100

図表 22　オープン・クラスの受講状況

	人数	%
はじめて受講	41	20.2
2-5 回受講	56	27.6
6-10 回受講	55	27.1
11 回以上受講	51	25.1
合計	203	100

図表 23　オープン・クラスの難易度

	人数	%
易しかった	8	3.9
やや易しかった	12	5.9
ちょうどよい	119	58.6
やや難しかった	41	20.2
難しかった	9	4.4
無回答	14	6.9
合計	203	100

図表 24　性別×年齢

	男性	女性
30 代以下	3	1
	75.0%	25.0%
40-50 代	11	15
	42.3%	57.7%
60 代以上	123	48
	71.9%	28.1%

図表 17 は、回答者の性別をみたものである。その結果をみると、男性が 137 人（67.5％）、女性が 64 人（31.5％）となっており、男性の割合が高くなっている。

図表 18 は、回答者の年齢についてみたものである。30 代以下が 14 人（7.0％）、40 ～ 50 代が 26 人（12.8％）、60 代以上が 172 人（84.7％）、となっている。シニア層の占める割合が高くなっている。

図表 24 は、回答者の性別と年齢をクロスした表である。「60 代以上・男性」「30 代以下・男性」が高い比率となっている。

図表 19 は回答者の職業についてみたものである。多い順に無職 141 人（69.5％）、フルタイム 26 人（12.8％）、パート 6 人（3.0％）、となっている。何らかの職業を持つ者が 32 人（15.8％）となっている。

図表 20 は回答者の最終学歴についてみたものである。多い順に大学・大学院卒が 145 人（71.4％）、短大･高専卒が 30 人（14.8％）となっている。高学歴傾向にあることが読み取れる。

図表 21 は回答者の居住地についてみたものである。富山市 114 人（56.2％）、高岡市 45 人（22.2％）となっている。

図表 22 はオープン・クラス受講回数についてたずねた結果である。多かった回答は、「2 ～ 5 回」56 人（27.6％）、「6 ～ 10 回」55 人（27.1％）、「11 回以上」51 人（25.1％）である。「はじめて受講」は 41 人（20.2％）となっている。

図表 23 はオープン・クラスの難易度についてたずねた結果である。「ちょうどよい」が 119 人（58.6％）となっており、良好な受講状況だったとみられる。なお、「やや難しかった」という回答は 41 人（20.2％）となっている。

図表 25　受講による効果

	人数	%
リフレッシュの機会になった	110	54.2
一人より複数で学んだ方が効果的	84	41.4
知識を活用する機会が増えた	64	31.5
自分の成長が実感できた	59	29.1
知り合いが増えた	38	18.7
普段の生活に役立つ	37	18.2
その他	21	10.3
活動範囲が広がった	13	6.4
仕事に役立つ	32	15.8

図表 25 はオープン・クラスを受講したことによって生まれた効果をたずねた結果である（複数回答可）。「リフレッシュの機会になった」110 人（54.2％）、「一人より複数で学んだ方が効果的」84 人（41.4％）、「知識を活用する機会が増えた」64 人（31.5％）、となっている。

「その他」の自由記述は次の通りである。

・ロシアへの知識が深まり楽しい。
・知見が増える。
・普段、直接話を聞くことができない経営者等の話を聞けたこと。
・塑像を学んでいるので、特に実感のともなう指導に感謝です。非常に良かったです。まだ少し授業がありますがよろしくお願い致します。
・未知の技術を習得することができた。
・資格試験に役立つ
・規則正しい生活。めりはりのある生活。将来への目標･目的の設定。家族とのコミニュケーション。講義内容について。
・韓国のリアルタイムのニュースを題材にした勉強法（聞き取り）は初めてだったので良かった。
・知らない知識、いろいろな新しい情報を学べてよかった。
・学生の皆さんの発表（意見）を聞いて、違う年代の視点からの意見を聞く機会があってとてもおもしろく参考になりました。
・授業がわかりやすく、教授の人柄が、とても素晴らしい。

・素晴らしい教授に知り合えた。
・新しい技術を少し身に付けることができた。
・私はオープンクラスの参加を社会での自分の立ち位置を確認する、あるいは考えることのプラスになるためと思っています。今回の科目も意義があるものでした。
・知識が増えた。知らないことばかりだった。
・現代社会の問題、課題を学ぶことができました。
・知識が増えた。より深く知る事が出来た。
・読書量が増えた。
・今の社会心理学を学べ興味がました。
・ボケ防止
・パス・ディペンデンシーとは如何だろうかが学べた。
・マクロと政治の関係を知ることができた。
・異なる分野の知識を得ることができた。

図表 26　講義の続きを聞きたくなった

	人数	%
そう思う	152	74.9
どちらとも言えない	34	16.7
そう思わない	10	4.9
無回答	7	3.4
合計	203	100

図表 27　関連したテーマを聞きたくなった

	人数	%
そう思う	166	81.8
どちらとも言えない	22	10.8
そう思わない	7	3.4
無回答	8	3.9
合計	203	100

図表 28　講義の内容は面白かった

	人数	%
そう思う	171	84.2
どちらとも言えない	18	8.9
そう思わない	7	3.4
無回答	7	3.4
合計	203	100

図表 29　講義の進め方に工夫がなされていた

	人数	%
そう思う	144	70.9
どちらとも言えない	46	22.7
そう思わない	4	2
無回答	9	4.4
合計	203	100

図表 26 は、講義の続きが聞きたくなったかについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 152 人（74.9%）であった。

図表 27 は関連したテーマを聞きたくなったかについてたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 166 人（81.8%）であった。

図表 28 は講義の内容が面白かったかどうかをたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 171 人（84.2%）であった。

図表 29 は講義の進め方に工夫があったかどうかをたずねた結果である。「そう思う」と回答したのは 144 人（70.9%）であった。

図表 30　ＯＣを知ったきっかけ

	人数	%
大学からの郵便物	115	56.7
Web サイト	41	20.2
知人を通じて	41	20.2
その他	19	9.4
新聞記事	9	4.4
facebook	17	8.4

図表 30 はオープン・クラスの存在を知ったきっかけについてたずねた結果である。多い順に大学からの郵便物 115 人（56.7%）、知人を通じて 41 人（20.2%）、Web サイト 41 人（20.2%）、となっている。

「その他」の自由記述として以下のようなコメントがあった。

・国際交流会事務局にパンフがあった。
・直接窓口へ。
・2015 年度は Web サイト、2016 年度は銀行待合室チラシ
・直接窓口で。
・新聞のチラシより Web

・cic
・広報とやま
・パンフレット
・広報

以下は、自由記述の内容である。

・オープン講座の受講可能講座をもっと増やしてもらいたい。
・同じ講義を受けている学生が、部屋の変更など親切に教えてくれた。今まで自分が学んできた国文法を違うところから学べて大変おもしろかった。続き又は同様の講義があれば知らせてほしい（実施してほしい）。自分が学生であった頃よりもっと知りたい気持ちが大きくなっていて（老年になった今だから）とても楽しい。
・授業中の資料の朗読やレポートの提出などに若干戸惑いがある。
・後期も引き続き受講を希望します（西洋古典語）。来年はラテン語も受講してみたいです。夏季は良いのですが、冬期は日没が早いので５限の授業は、帰りの車の運転がつらいです（やむをえませんが）。授業終了後も毎日、個別に懇切ていねいに教えていただき、大変感謝しております。
・難解なところもあったが面白いところもあり、もっと勉強しなければと思いました。受講する学生が多く、出欠の確認に時間をとられて（学生の声が小さすぎ）、少し時間がもったいない気がしました。出欠のとり方に工夫が必要では？図書館を利用させてもらっていますが、毎回入口での氏名提出がやけにわずらわしい。また、貸出冊数が５冊に制限されており、10冊にしてほしい。
・難解なところもあったが面白くて興味をひかれるところもありました。概論なので「広く浅く」という面がありましたが、もう少しつっこんだところを聞きたいと思いました（それは特殊講義でということでしょうが）。〇〇学は理解するのが難しいので、学生にわかりやすく説明するのは大変だと感じました。そのため、進行がかなり遅れてしまったのもやむをえないと思いました。後期は他の先生の授業も受けてみようかと思っています。
・もう少し詳しく学びたい。時間不足の感。
・計数処理、理解に役立ち感謝しています。
・担当教員の交替は、スピーディーに行って欲しい。
・MBA講座を昨年に引き続き２年目の受講をいたしました。実際に実業界で活躍されている方々のお話は臨場感にあふれ、とても活き活きとした内容で、毎回大変興味深く聴講させて頂きました。昨年はこのMBA講座についてWEBサイトで知りました。今年度も受講したいと思い定期的にWEBサイトを確認しておりましたが、なかなか見つけられませんでした。講座開設の告知が遅かったように感じます。せっかく広い講義室ですので、もっと告知方法を工夫すれば受講生も増えるのではないかと思います。また、個人的なお願いですが、可能であれば欠席した回の資料を頂く機会があれば嬉しかったです。総じて講義にには満足しております。ありがとうございました。
・オープンクラス受講者も、参加中はヘルン・システムを使用できるようにしてください。
・先生の指導が生徒（私自身の事）への配慮がなされ、理解しやすく、たのしく作業が出来ました。又、学習の場の適当な緊張感があり、学生への指導が横で観られ、思った以上の成果を感じました。
・オープンクラスは大変よい制度です。お陰様で、60歳を過ぎてから新しい世界を知ることができました。学生も私達社会人も学ぶことに対しては皆evenです。熟達した教師から学ぶことができるのは大変幸せです。感謝申し上げます。
・科目に対して説明が不充分。タイトルで選択したが、全然関係のない内容だった。
・学生にわかりやすい授業です。データの読み方、考え方など、学生達の今後に役立つと思われます。業務の都合でなかなか参加出来ませんが、いつも楽しみにしております。
・私には難しいレベルでしたが、聞くことの大切さがわかり有意義なクラスでした。先生が文法をわかりやすく解説してくださるのが、とても勉強になりました。
・この「古文書学実習」は、中世が古文書なので、この他に近世の古文書学があればいいと思います。ぜひ検討下さい。
・私の仕事経験を掘り下げて学びたいのですがオープンクラスに入ってないので学べないです。

・もう少し発言の場、ワークがあれば良い。
・後期に又、実施されるなら、是非受けたいと思います。
・動画、スライド等を活用した方が好ましい。
・今後も関心のある講座があれば受講したいと考えています。
・補助資料等、多くもらっております。受講生として大変助かります。今後も受講を希望するつもりです。よろしくお願いいたします。
・初めて受講するので、オープンクラスがどのような感じなのか、とても不安でした。オープンクラスを受講されている方々と交流できる機会があれば情報交換などしてみたかったです。利用できるオープンサロンのお部屋は、ランチをするのに活用させてもらいました。素敵なお部屋でよかったです。
・近代文学　夏目漱石の講座があればと考えます。
・今回、初めてオープンクラスを受講しました。学生の皆さんが一生懸命学ぼうという姿勢が感じられてとても良い刺激になりました。良い授業でした。受講させていただきありがとうございました。
・前半…イギリスの新聞、後半…文献多様な資料を読み、いろいろ考えさせられた。よい機会であった。
・講義内容は、今、社会で注目されている「発達障害児」の受講選択しました。講師の〇〇教授はレジュメの解説に加え、臨床医師として実際の治療状況 etc、貴重な経験談もあり、具体的で内容の濃いものでした。今回の受講で得た知識を基に今後、障害児に触れ合う機会があれば積極的に活用したいと思うと同時に、周囲に対しても障害児に対する理解を深める啓蒙活動を行いたいと思います。
・オランダの歴史について改めて学ぶことが出来ました。長崎、出島、運河程度の予備知識から全く体系的に学ぶ機会を得られたことに感謝します。これからも斯種の機会を得たいと思います。
・Moodle を使った授業、ミニテストなど全てが新鮮で久しぶりに十分予習、復習させられました。斯種の授業受講の機会を増やしていただくことを要望します。
・英語による講義であったが、テーマそのものより、物の考え方・手順について教えられることが多かった。富山大学経済学部で斯種の英語による講義をもっと増やし、一般市民にも開放することにより、富山大学のＰＲにもつながると考えますが如何でしょうか。知人、友人にもＰＲしてゆきたい。
・趣味で中国語を習っていました。友人にさそわれて富大は歩いて 10 分程ですし、受講してみようと思いました。講座の内容は学生が一人、あとは会社を退職された様な人が５人で、先生は社会人を意識されていたのではないかなあと思った事があります。私達はとても楽しく一生懸命勉強しました。成果の方は今一歩というところでしょうか。特に感じたことは、大学は勉強する所だということです。
・主人と一緒に中国語を学んでいます。教授は広域にわたり、資料や配布プリント等にも配慮してくださり感謝したいます。主人共々高齢ですが楽しく学んでいます。若かりし頃の学生にもどって学んでいます。今後ともよろしくお願い致します。
・楽しく受講できました。限られた時間内での授業のため仕方がないのですがもっと深い知識を得たいと思います。受講しつつ自習する事でよりおもしろいと思えました。オープンクラスを受講できる事に感謝しております。ありがとうございました。
・学生に発言させながら授業を進める点が良かった。ハーバード白熱教育のようにすればもっと面白かったのに。
・私は聞き取りが苦手なのでこの講座を受講しました。又、家では韓国の生放送を聞く（見る）機会がないので難しかったけど、毎週番組を見て自分を試すのも楽しみでした。また次の機会にも是非受講したいと願っています。楽しみにしています。受講を続けながら聞き取りが上手に出来るようになりたい。努力しますのでよろしくお願いします。
・講義の資料が配布されたのはよかった。
・もっと多くの人がこの講義のオープンクラス生になってほしいと思った。日本国憲法は今、大変タイムリーな講義であるので。
・充実感でいっぱいでした。素晴らしい授業だと思います。話し合いの進め方、発表能力の向上を肌で感じることができ授業に満足しており

ます。人気テーマに片寄りがが生じ、是正されたら良いと思います。（やむを得ない、仕方がないことかもしれませんが、願わくはです。）現代社会を見つめ、問い直すキッカケになりました。活発な意見のやりとりは感激します。学ぶ喜びを実感しました。返答者が窮した際の先生の措置は絶妙でした。

・貴重な機会を与えていただいたと感謝しています。

・語学を勉強してきて言葉ばかりでなく両国のかかわりについてもよく知りたいと思って受講しました。毎週、身近にある大切な問題について学生のレジュメ発表、先生が説明をされ、関連を説明をされ、関連の話もありました。関心のある事ばかりだったので毎週すごく考えなければならないことばかりだったので話の進み具合が早く、ついていくのが大変でしたが楽しみでした。今回のテーマはもちろん関連したテーマなどずっと聞き続けていたいです。機会を与えて下さい。努力しますのでよろしくお願いします。

・受講生が少しにもかかわらず、学生が遅れて入室するのが気になった。先生が色々な面から国際関係を説かれるのは興味深かったが、資料（毎回配布される）が多過ぎるので読むのが大変だった。

・人文学部の講義に「近世文学概論」「短詩型講義（詩・短歌・俳句・川柳）」のいざないがあったらどうだろうか。文化人類学的講義は如何か。

・原文購読のため、もっとゆっくりと味わった方が良い。活発な意見交換があった方が、楽しく学べると思います。私は再三、促してはいるのですが・・・。正解を求める授業ではないと思いますので、大いに発言されることを期待します。学生さん達の意気込みが伝わってこないのが残念です。「振り返り」はいつもながら懇切丁寧であり、理解するのに役立ちます。質問タイムを今後とも設けて下さい。

・テキストがあればよかった。

・講義の進め方が先生から生徒の一方通行であったが、もう少し discussion を通じて考えを深める様な方式があっても良い様に思った。そのためには（私を含めて）受講生がもう少し予習をし、自分なりの考え方をきちんと持って講義に臨む必要がある。先生は受講生を外に連れ出し富山市内を歩きながら実際の都市景観の講義をされたのは非常に参考になった。

・他の学生の反応が全くわからず、討論できる場もあってもいいような気がする。

・他の学生の意見、考えなども聞きたいと思ったが、発言する学生がいなかった。学生同士の意見交換などがあったらと思いました。

・とても興味深い内容の授業でした。英語ばかりでなく、社会問題への興味や知識も深まり、とてもためになる授業でした。ありがとうございました。

・学生にプレゼンさせるというスタイルはきわめて効果的であったと思う。毎回皆さんの理解レベル、プレゼンレベルを興味深く観察させてもらった。西欧都市の持つ共通項、課題、取り組みをはじめてまとまった形で学習した。とりわけ産業革命以降の急激な人口増加におのおのの街がそれなりの変化をしてきたことと、この１年間に大挙おしよせてきた難民問題が重なって見え、インフラの準備がととのわない内に先行された難民受け入れのあぶなさが垣間見えた。

・学部４年生のゼミに参加できるか。それと同程度の講座があればと思います。洋書購読などにも参加してみたいと思います。

・前に他の先生でとった熱力学は微分公式の羅列であり終わってしまえばほとんど何も残らなかった。〇〇先生は Entropy-Bolfzman 因子ー分配関数 -Gibbs/Helmholtz energy という流れを常に学生に remind させ、なぜ熱力学が化学に必要なのかを極力、数式を排除して量子レベルの統計の意義を主面に出して説明された。detail の所はよくわからないところもあったが講義で Schrodinger equation を 45 年ぶりに再会し、教科書の物理化学（上）（下）をさっそく購入、もう一度基礎から勉強しようと思っています。

・毎回講義内容を全て板書されていた。パワポと違い大変先生に労力がかかるが受講生にはわかりやすく後にノートをみても内容がすぐ思い出される。初回に出された放射線の問題のプリントがその時は全く理解できなかったが１～２ヵ月後には全部理解できたのが嬉しい。長友と平愛理を例として分子のふるまいを説明されたのはわかりやすかった。栗山千明や〇〇先生も話の中におりこまれイメージしやすかった。残念ながらいくつかの anecdote は話が古すぎて私だ

けがおおいに楽しませてもらい学生さんは途方にくれていた。
・制度に感謝いたしております。ただ最大の不満、授業に入る前、着席する机上、床下の消しゴムカス、ティシュペーパー、これを清掃して授業を受けることです。（全授業中ほぼ毎日この状況でした。）私は学年がこんな状況、気にならないのかと観察いたしておりました所、ゴミを手で払いのける、ケシゴムカスの上にカバン、書類を上に授業を受けている、さまざまです。国立大学という最高の環境の中、授業の前後に整理整頓、心身の美学があってもよいのではないかと思いました。図書の貸出､本数の拡大。授業中、質問のチャンスがありますか。可能であれば全授業終了後、90 ～ 120 分の受講時間をいただけないかと思っております。以上誠にありがとうございました。
・学生さん達と同じ空間で学ぶのに喜びがあります。講義は学生が中心であるべきで、現状がベストです。ただ講義室の大きさと人員の関係で、少し狭いのでは？でも研究室ならでものメリットもあり・・・？
・パワーポイントの説明はわかり易かった。自分としてはもう少し経済についての基礎力をつけて受講した方が良かった。力不足だった。
・オランダの近代化、ヨーロッパの中での存在について内容が面白かった。音読を学生にさせた方が良いのではないかと思う。
・富山の良さ、心づかい、豊かさが全国だけでなく、世界に拡がっていることがよくわかりました。より富山が好きになり、もっと知り、楽しみたいと思っています。ありがとうございました。
・ありがとうございました。ゼミ形式の時間、回があってもいいかと思う。
・いつも授業を受けるのを楽しみに行っています。ありがとうございます。70 歳を超えて学生さん達を眺めながら勉強出来るのは感謝しかありません。学生時代に勉強していればと反省ばかりです。学生さんは真面目で親切です。教えてもらいました。心理学受講はしましたが、その時習ったことでもっと知りたいと思ったのが「心の病気」です。脳との関係とか、そして、どうしたら治せるのか、どうしたら、防げるのか知りたいです。最近増えているように思えますが、そんな人にどう対応したらいいのか知りたいです。
・今回は、古代、中世に重点がおかれ、近世、近代の情報がほしかったです。来年度は「西洋の歴史と社会」が前期になればと期待しています。〇〇先生の歴史に関する情報量の多さに感心しました。ありがとうございました。
・講義に使用する機器の不具合があり、その方面のスタッフの支援がもっと必要だと思った。
・ボケ防止
・分からない時等、とても丁寧に応対して下さいました。なんとか頑張って、授業についていくことができました。とても満足しています。
・「論理的な思考力」が身についていないので、自信をなくしました。暗記ではなく「判例」を会得することが大事だと痛感しました。抽象的で分かりにくく、どれが正解なのかよく理解できなくて、悔しいです。
・やや難しい点もありましたが毎回新鮮な驚きと新しい知識を得ることができて学ぶ喜びで満足でき充実した時間だった。
・大学レベルの講義を体験できてよかったです。今後も受講したいと思います。
・近現代史の講座を充実してほしい。
・講義ごとに学生からコメントペーパーを集め、それを次回の導入に使われており、理解を深めるのに役だった。
・本講座において、岩瀬、八尾、新湊の現地視察があり、景観の知識向上に大変有意義であった。ただし、もう少し時間の余裕がほしかった。オープンクラスの受講生が少ないですね。もう少し新聞広告、チラシ等にて広報活動を行った方がよろしいのではないでしょうか・・・。
・学生と一緒に授業を受けることは、一般の講座を受けるのと違い、緊張感を持てる。オープンサロンの部屋があるのに利用している人が少ないと思う。もっと活用させて交流の場が盛んになるといい。
近世社会の成立と展開、東アジアの中の近世日本、近代の胎動、外国人の見た幕末の日本、前近代の日本社会の差別、被差別等授業計画の 9 回以降も聴講したかった。
・授業が始まってから遅れて入ってくる学生が何人もいるので注意力がとぎれてしまう。
・同じクラスの学生さんたちと、もっと交流で

きれば良いと思う。例えば、コンパや合宿などに参加できれば・・・
・4月からまた行きます。
・日本語教育関連科目のオープンクラス科目を増やしてほしいです。
・まだ半分くらいしか終わっていないので、ぜひ引き続きの受講を希望します。
・とても内容の濃い授業でした。ぜひ、来期もこの先生の授業を受けたいと思います。
・できれば、後期はいつも近世の古文書にしてほしい。
・一人の先生に順序よく講義を進めてもらったほうがいい。
・もう少し学べる科目を増やしてほしい。
・新年度には中国語会話、作文を学びたいと思っています。ぜひオープンクラスで教えていただきたくお願いします。
・朝鮮語を長く勉強してきましたが会話がなかなかうまくなれないので、やや難しいクラスですが続けて学びたい。
・単語をもっとたくさん覚えてたくさん話して会話できるようにこのクラスで学び続けたい。
・2限以降の方が都合よい。
・学生の声が小さいのはどうにかならないでしょうか？
・もう数年この講座を受講継続していきたいと思います。現役学生はもっと元気があればと願っています。
・受講させていただきありがとうございました。毎回自分の興味や関心が広がり、充実した学びの時間を過ごすことができました。講師の先生に深く感謝しております。
・わかりやすい講義でした。断片的な知識が次第に結びついていくようで楽しい時間を過ごすことができました。機会があれば再び学ばせていただきたいと思います。ありがとうございました。
・先生には、たくさんの資料を準備いただき、大変役に立ちました。
・「演習」なのでもっと活発に率直な話し合い、意見交換があったらもっと盛り上がると思います。高齢者にとって学生といっしょに学べることは素晴らしく、学びがい、生きがいを感じています。いつも学生さんにエールをおくっています。
・人生体験を振り返る機会がえられた。新しい知識も得られ、学生の皆さんと共に学べたことを感謝いたしております。
・オープンクラスの拡充。
・北陸の業界を詳しく説明され、今後の知識として役に立てたい。
・講師の声が聞き取りにくかった。
・もう少し学べる科目を増やしてほしい。
・楽しく授業を受けられたことに感謝いたします。
・知識が広がり好奇心が刺激され楽しい授業でした。ありがとうございました。
・現役学生の受講者が少ないのが心配だ。社会人として、オープンクラスがあることに感謝している。
・科目選択で地震のことを知りたく受講しましたが、直接関連していませんでしたが、他の面で知識を得ることができ、ありがたかった。
・若い学生さんと交流できたらと思います。
・科目だけで選択しましたが受講してみて難しかったが一部知っていることもありとても興味深く聞いた。
・４年生のゼミ等への参加ができるとよいのですが。

Ⅲ　オープン・クラス教員アンケート

【1】オープン・クラスのＱ＆Ａ集を作成し、担当の先生方にお送りいたしました。Ｑ＆Ａにつき、何かご意見・ご感想などありましたらご記入ください。

・事前にある程度対応がわかり助かりました。
・はじめてのオープン・クラス生受入れでしたので、このＱ＆Ａがあって助かりました。
・今回、休講はいたしませんでしたが、休講する際の措置がよくわかり、助かりました。ありがとうございます。
・オープンクラスの仕組みが端的にまとめられていて、わかりやすかった。
・参考にさせてもらっています。改訂するときは、改訂個所がわかるようにしていただくとありがたいです。

【2】本学学生と一般市民が同じ教室で受講する形態について、何かご意見ありましたらご記入ください。

・学生にとって刺激になり良いと思います。
・授業でディスカッションなどを取り入れた場合は､学生とは異なった観点からの意見があり、学生にとっては視点を広げる効果があったのではないかと思われます。
・あと１回残していますが、これまで出席しつづけたようですし、まじめに聴講していたようですので、特に問題ありません。だだし、専門外の若い学部生を対象にした講義ですので、学生と一般市民では経済学的な知識においてかなりギャップがありそうです。その意味で、満足のいくような講義内容になったのか否か不安があるところです。むしろオープン・クラス出席の一般市民に、そのあたりをアンケートしていただけたらと思います（既に実施しているのかもしれませんが)。
・ディスカッションの際に貴重な意見を提供いただけるので、学生の良い刺激になる。
・オープン・クラス生の学習意欲の高さが、本学学生によい刺激を与えてくれていたと思います。
・一般市民の方がご熱心に勉強されているご様子もうかがえますし､質問もしてくださいます。学生にも一般市民の方にも双方に勉強になってよいと思います。
・受講者の資質や専門性が事前に把握できないので、今回授業の中では、多少浮いていた感がある。受講適格者かどうかは、自己申告でしかないので、そのあたりが難しいと思う。また年明けから、連絡もなく来なくなった。こうなると、単位につながる出席や課題提出などを課す他の学生の手前、受講意識の差もあるので、扱いに困ることもある。
・学生は最後まで学べるのに一般市民は続かないこともあるので、演習形式は難しいと思い、講義形式に改めて授業設定したが、続かず、残念だった。基本は学生中心のつもりなので、やむをえないと思っている。
・熱心な受講生で、学生にとって大いに刺激になっております。
・学びに対する意欲を持った一般の方々が教室に混ざるのは、学生の学びの支障にならない範囲においてならば、有意義な取り組みであると思う。今回の担当授業では、一般受講生の学びに対する真摯な姿勢が、教員の私にとってよい刺激になった。
・毎年のことですが、熱心な市民の皆さんの勉学態度に､学生は刺激を受けていると思います。
・向学心の高い受講者の真摯にテキストや問題

に取り組む姿勢が、学生の学びにもいい影響を与えると思うので、いいと思う。
・一般の方について、テストを受けるかどうか、またはレポートを提出するかどうか、受講初期の段階で分かると少し心積もりができます（そういう方はほとんどいないとは思いますが）。
・今回の受講生は社会人とはいえ、元理学研究科修士課程修了生（物理学専攻）で、修了後も勉学を継続している人です。以前にもこの授業を受講しましたがそのときは途中で止めてしまいました。今回は２度目の受講です。試験以外のほぼ全ての講義に参加しました。一般学生（3年生）と社会人受講生との間の相互作用はほとんどないのではないかと思います。
・学生を意識しての授業内容が、一般市民の方の受講目的に合致しているかわからないこともあり、やりにくい感じがしています。

【３】その他、オープン・クラス全般について、何かご意見ありましたらご記入ください。

・以前は積極的な方が多く、学生に対しても刺激になっていましたが、最近は、学生のレベルについていけないか、ついていけていても反応がない方が多いように思います。少数のオープンクラス受講者のレベルに進度を合わせるわけにもいかず、どうしたものかと思っています。
・積極的な受け入れが望ましいと思います。
・(1) 授業でレジュメを配布するのですが、配布形態がヘルンシステムにアップロード→各自印刷の形をとっています。人数がそれほど多くないことから、オープン・クラス生に関してはこちらが印刷して配布の形をとっていたのですが、印刷物が多いときなどはやはり手間になりました。この点、ヘルンシステム登録まではいかなくても、オープン・クラス生に事前配布（各自印刷）できるシステムがあればありがたいです。(2) もし可能なら、（希望する担当教員は）オープン・クラス生との事前面談等により注意事項伝達の機会を設けられればと思います。といいますのも、今回オープン・クラス生で、学生とのディスカッションに参加したがらない方がおられました。講義が開始した後では「注意」することもなかなかできないままとなっております。この点、事前に授業形態や授業内容について伝達し、オープン・クラス生の希望とマッチングしているかを確認できればありがたいです。
・休講などの連絡手段がよく分からない（基本的に口頭で伝えている）。
・人文学部は多くの受講生を受け入れていますが、人文学部の駐車場、特に車いすスペースにも駐車する方がいます。学部の駐車スペースが限られているため、できる限り公共の交通機関でいらっしゃることを周知していただければ幸いです。
・今回受講して下さった方から、「学外の人間に十分理解できない授業は、オープンクラスとすべきではない。オープンクラスにするなら、一般市民を対象とするような内容を含めるべき。」というご意見を（紳士的に）いただきました。確かに、向こうもお金を払って受講するので、理解できないご意見ではありません。今でも十分ご周知いただいていると思いますが、「理系の専攻科目には、十分な基礎知識なしには理解できない科目や、市民の日常生活と関連する内容を含まない科目もある」旨、十分ご周知いただきますようお願いいたします。また、差し支えなければ当方も、平成28年度前期募集要項の数学科のように、受講希望者に事前相談を求める注を付けたいと考えております。

・今後もひろく広報をお願いします。

【4】オープン・クラスに限らず、本学の生涯学習支援事業全般について、何かご意見などありましたらご記入ください。

・一般の方がどのような内容、講義形態、時間帯などを求めているのか教員への情報提供をお願いいたします。

・予算上の問題かと思いますが、ブルーレイディスク・レコーダーが少ないことやパソコンが教室に設置していないなど、何かと不便を感じました。

・図書館の地域公開制度により、一般の方が利用されています。また、中高生も多数利用しています（生協食堂も同様）。このことは、地域貢献として積極的にアピールできるのではないでしょうか。

Ⅳ　おわりに

○　これまでにみたように、富山大学公開講座、オープン・クラスはおおむね好評だったということが確認できた。今後も、市民のニーズとマッチした講座を提供していく必要がある。

○　公開講座の開講時間について、しばしば要望が寄せられる。「17:30 のスタートは時間的に仕事を終えて来ると厳しいです。18:00 からのスタートになると有難いです」「時間を午後 6:30 ～ 8:00 とし、終了を 8 時にしてほしい」など。働きながら学ぶ市民のためにも、夜間に開催する講座の充実が求められている。

○　夏季・春季休業中は公開講座の開講が一時的に途切れることになるが、継続的な学びの場を求める声がある。「夏休み期間が長いのが残念に思います」「もっと年間の回数を増やしてほしい」「課外授業があればよい」。

○　また、「体系的（ジャンル別）な講座を開催してほしい。上級編も開催してほしい」「ついていくのが大変でしたが楽しみでした。今回のテーマはもちろん関連したテーマなどずっと聞き続けていたいです。機会を与えて下さい」など、系統的な講座も求められている。受講生の学びのステップアップを支援する課題がある。

○　「開かれた大学の印象を強く抱きました。市民と学生が共に学ぶ機会が増えればお互いの刺激になって良いと思います」。公開講座やオープン・クラスの継続により、開かれた大学のイメージが浸透することが望まれる。

○　「私はオープン・クラスの参加を社会での自分の立ち位置を確認する、あるいは考えることのプラスになるためと思っています」。受講生の学びは、社会生活に根ざしたものとなっており、自己アイデンティティを支える要素の１つにもなっているといえる。

○　例年のことだが、受講生同士や学生の交流がほしい、という声がある。「他の学生の反応が全くわからず、討論できる場もあってもいいような気がする」「同じクラスの学生さんたちと、もっと交流できれば良いと思う。例えば、コンパや合宿などに参加できれば・・・」「オープン・クラスを受講されている方々と交流できる機会があれば情報交換などしてみたかったです」「オープンサロンの部屋があるのに利用している人が少ないと思う。もっと活用させて交流の場が盛んになるといい」。

○　現在、受講生の学び・交流の場としてオープン・サロン、アカデミールームが開設されている。いずれも定期的な利用者がおり、好評である。「利用できるオープンサロンのお部屋は、ランチをするのに活用させてもらいました。素敵なお部屋でよかったです」。

○　ＰＲもまた重要な課題となっている。「もっと多くの人がこの講義のオープン・クラス生になってほしいと思った」、「オープンクラスの受講生が少ないですね。もう少し新聞広告、チラシ等にて広報活動を行った方がよろしいのではないでしょうか」。

Ⅲ　論　　集

地域における教育学習活動と大学の役割

藤　田　公仁子
（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門副部門長）

Ⅰ．はじめに

今日、住民の「生活の場」である地域は、大きく変容してきている。そこではまた、教育をはじめ、経済・医療・健康・福祉など、様々な領域で地域課題・生活課題を深刻化させている。そうした課題について正確に状況を把握するとともに、課題解決の方向性を解き明かす学習や教育活動が必要とされている。さらに、学習活動の成果を活かせる形で、課題解決を目指した取り組み・実践活動が必要とされている。

また、近年、個人の学習活動をとりまく環境は大きく変容してきている。何よりも、学習情報・学習内容を入手する手段・方法として、ICT を活用することが急速に普及してきている。ネット社会で提供される多くの情報は、いつでもどこでも入手することが可能になっている。従来の「紙媒体」を利用した情報の入手とは比較するまでもなく、多様なアプリケーションが開発されてきていることから、システムにおけるアクター（行為者）にとって、学習機会の提供機能、レコメンドや情報検索機能、学習したことの成果を活用する「場」としての情報提供機能等は、より便利な「ツール」となってきている、ということができる。

情報を更新する、あるいは他者と情報を共有するという意味でも、今日では ICT を活用して実現する生涯学習プラットフォームは、重要な役割を果たすようになっている。

また、ＳＮＳで構築された人間関係は、職場や地域などで取り結ばれる人間関係とは、その親密性や信頼感などにおいて大きく異なる場合が多い。その意味では、「他者との相互規定的関係」の内実は、教育・学習論の視点からは一定の限界・制約があるものと考える。

この小論では、地域社会の変容や生活課題について確認し、課題解決に向けた「人材育成」を図る関係で教育労働の専門性や地域における大学の役割などについて、論点整理を行いたい、と考える。

Ⅱ．地域の変容と大学

（1）地域社会の変容

地域住民にとって、学習しその学習した成果を実践に結び付け、さらに地域課題・生活課題の克服につなげていくことは、個人としてもまた住民共通のこととしても重要なことである。

ここで地域の変容ということについて若干検討してみたい。

地域については、地理的・社会的・歴史的様々な視点から捉える必要性がある。ここでは簡単に

「人々の生活の場」という視点から考えると、高度経済成長期以降、地域は大きくその姿を変容させた。農村部では産業の基盤である農業生産が大きく変容し、多くの人々が離農し都市部へと移動した。また、週末は農業生産に従事し、平日は農業以外の仕事に就く兼業農家も著しく増加した。高度成長期以降はまた、都市部近郊では野菜、果樹や花卉を生産し、畜産、酪農などを導入して経営規模を拡大する傾向が強まった。しかし、全体としてみれば、農地・労働力・他産業と比較した生産性（収入）を減少させてきた。その結果、現代的課題とされている高齢化が進行している地域では、「限界集落」「消滅集落」と言われている中山間地域も著しく増加している。

高度成長期以降、工業団地や住宅団地が造成された地域も多いが、グローバル化する中で地域の中で多くの労働者を雇用していた企業が撤退する（工場等の閉鎖・海外への生産工場の移転等）ことで大量の失業者を生み出すという事態も生まれている。こうした状況の中で、既存の住民組織や人間関係が弱体化･希薄化する傾向にあり、コミュニティの機能を低下させる、さらにコミュニティそのものが消滅する例も多い。

都市部では、人口の集中が進む中で、都市近郊に集合住宅や団地が形成されることにより、アパート・マンションの居住者が増加し、コミュニティが新たにつくられても、その内実としての人間関係が親密になりにくいという例が多い。もちろん、団地などでは、町内会や自治会を意図的に組織し、コミュニティとしての機能を十分発揮している場合もあるが、地域の機能は歴史的に変容してきたことは否めない。しかし、町内会という、いわばエリア型コミュニティの地域内の組織化された住民組織とは区別して、いわゆる近隣の人間関係が「相互扶助」の機能をもって維持されてきた側面もあった。それは、冠婚葬祭の儀礼に出席･参列、「ご近所付き合い」の「贈る、贈られる」といった相互規定的な関係に基礎づけられている。また、地域に伝統的に継承されてきた「祭り」「伝統的な行事・慣習・集まり」なども、地域の機能を再生産する上で重要な役割を果たしていた、ということができよう。

今日、地域では教育問題として「通学時の見守り」や「防災・減災」、「福祉」などが様々な領域で顕在化しているため、住民同士が協力・連携して対処することが求められており、実際に多くの地域で取り組みが行われている。しかし、コミュニティの機能を喪失させ、著しく低下させている例も多いことが事実として指摘できるのではないか。

なお、2015 年 12 月 21 日にまとめられた中央教育審議会答申[1)] は、これからの学校の在り方とのかかわりで地域との連携・協働が積極的に打ち出されていることが注目される。

（地域学校協働答申）

学校と地域との連携・協働に関連して、これまで、学校の運営に関わって「学校評議員制度」を設置し、「地域学校協働本部」の事業などが実施されてきた。この地域学校協働答申では「コミュニティ・スクールの構想」[2)] をより前面に打ち出し、学校運営は幅広く地域住民・関係者の協力の下に運営する考え方を提示している。

これを大学の役割･大学開放にひきつけて考えた場合、「地域コーディネーター」[3)] の養成といったことも含めて、地域課題・生活課題に取り組む「人材育成」や「地域の担い手を育む」といったことが追求すべき課題として考えられる。

（2）地域にとっての大学

大学が地域とどのように関わっているのか、そして今後どのように地域と関係を構築していくのか、さらに「大学開放」はどのように展開されるべきか、ということにふれてみたい。なお、ここでは、地方国立大学を念頭において述べていく。

地域との共同研究、産官学連携と言われて、現在地域創生に向かって進む日本社会の中で全国の地方国立大学では、地元企業との連携、共同研究開発、行政、企業との人事交流等、各大学が多様な実践を展開している。その中の学習プログラムとしては、多様な地元企業による寄付講座、企業の人材のスキル・キャリアアップを目的とする講座、学び直しプログラムへの期待も大きい。

企業の目指すイノベーションや行政が推進する地域活性化の取り組みなどでは、大学との共同研究が多岐にわたり行われている。最先端の研究内容・技術開発が、企業活動や地域開発政策を策定する上で重要なヒント・方向性を示す役割を果たすこともあり得る。いわば「大学の知」は、企業活動や行政の政策立案などの様々な場面において活用されている、ということである。

こうした「大学の知」が地域で活用されるという場合、「地域」「地方」とはその大学が設置されている行政の範囲に限定されているわけではなく、専門性を持つ研究分野により地域における大学開放の可能性を大きく追求しているということを指摘しておきたい。

現在、多くの地方国立大学が「COC+」の採択事業に取り組んでおり、地域の中で地域課題・生活課題に実践的に関わり、地域課題解決に向けて取り組んでいる。その一つには、地元に就職しようと志向する学生の育成があげられる。こうした事業も地域と大学の関わり方を考える上で重要である、と考える。

Ⅲ．地域の教育課題と教育の専門労働

（1）家庭教育に関する課題と取り組み

地方自治体、NPO 等で取り組んでいる「家庭教育サポーター」･「家庭教育アドバイザー」等（名称は地域によって様々である）について触れておきたい。

地域における教育問題としては多様なものがあるが、今日、家庭教育をめぐって、家庭の教育力の低下と言われ続ける中で、日常的にメディア等でとりあげられる様々な問題が生じている。そこで、「家庭教育サポーター」･「家庭教育アドバイザー」という、子育て支援を担う「人材育成」、「支援する人材の養成プログラム」が社会的に必要とされてきた、ということである。

地域で活動する「家庭教育サポーター」･「家庭教育アドバイザー」は、教育の専門職員ではないが、地域住民の「子育て」を支援するために、自治体主催で一定の知識・技能習得を目指した「教育プログラム」のもと、専門性と経験を要する存在として養成が図られている。

筆者は、社会教育・生涯学習の視点から注目しており、ここで次の整理を試みる。

第一に、家庭教育は、一義的には子どもの親権者である親の教育権に基づいて行われる。「教育の私事性」ということである。

第二に、個人の「教育を受ける権利」と「義務教育」という問題である。周知のように、子どもの保護者は教育を受けさせる義務を負っている。これに対して、子どもは「教育を受ける権利」を有しているのである。憲法第 26 条には「能力に応じて」という文言があるが、それはけっして「テストで計測される学力」に矮小化されてはならない。

第三に、「生存権」の問題である。今日、後でも触れるが、「子どもの貧困」が問題となり、貧困

と教育の関連が指摘されている中で、「健康で文化的な生活を送る権利」を保障するという意味でも、「教育を受ける権利」の内実が問題となる。さらに、国民一般の問題として、「キャリア教育」や「健康・医療・福祉」などとの関連で、「教育を受ける権利」が問題となっている。端的に言えば、厳しい労働環境が恒常的になっている職場条件におかれている場合には、健康を害する可能性が高く、また、病気を予防するための学習プログラム、具体的な対応をすることも困難である、ということである。

さらに現在の社会情況における現代的課題との関わりからすると、以下の点が重視されるべきである、と考える。

第一に、保護者が社会的にどのような労働・生産・生活条件の下に置かれているのか、ということである。企業でどのような条件にあって、どのようなストレスがある中で働くことを余儀なくされているのか、超勤の実態はどのようなものか、有給休暇を自由に取得できる環境にあるのか、等々である。

第二に、家族の機能の問題である。核家族化や少子化とともに、家族の個人化・個別化の傾向が進行している。例えば、日常生活の中の「食べる」という営みの中で、「食卓」が担ってきた家族のコミュニケーションの場である家族だんらんの崩壊、子どもの孤食・個食の実態が増えていること等は、食育分野でも重要視されている。つまり、家族教育の場面で十分機能しなくなったことが「家族の教育力の低下」へとつながっているのである。

第三に、教育の専門労働の問題である。保育士や幼児教育・学校教育の領域の専門労働、さらには、社会教育・生涯学習の専門労働が関わってくる。教育活動の「場」が異なることによって異なる面と、教育という「本質」に共通する面と、両方について理解することが重要である。さらに、相互の関連性について理解することも必要とされてくる。

第四に、子どもの生活や成長を規定する社会的な条件が関わってくる。自然環境は、遊びなどを通じて自然認識を深める、あるいは身体的・精神的成長を実現する上で重要な要素である。また、社会的に提供される遊び道具やゲーム、音楽、絵本なども、子どもの成長を規定する要素である。

次に、行政・政策の担うものについて考えておきたい。教育基本法や社会教育法の条文に「地方自治体及び国は、教育の振興に重要な役割を果たすべきである」と規定されている。行政は、法律に基づき、予算処置をする権限をもっている。その際「合法的」に業務を遂行することが求められる。

また、「子どもの貧困」は、その保護者である大人の「貧困」に規定されたものであり、この間、現代社会の中で貧困の格差を拡大してきた。

子どもを産み育てる中心的世代である 20 ～ 30 代の中で顕著な傾向として、非正規雇用で働く人が多いことが今日の日本社会の特徴の一つとして挙げられる。また、共働きを志向する人が多く、保育所の収容人員をこえて待機児童が多いことも克服すべき課題となっている。そこにはまた、「家族の機能の低下」という側面があることも否定できない。

こうした中で、子育てをサポートしようとするボランティア・ＮＰＯの活動が展開されている地域も多い。しかし、地域によって違いは大きい。

近年「子ども食堂」の取り組みも注目されてきているが、現状として展開されている多くのものは、地域の中で広がりを示しているとは言い難い。また、福祉・教育行政を中心として公的な「子育て支援事業」も様々に展開されているが、ニーズに十分対応できていないのではないか、と考える。

こうした状況の中で、「家庭教育サポーター」・「家庭教育アドバイザー」等の子育て支援の活動

への期待は決して小さくはない。

（2）教育労働の専門性をめぐって

すでに述べたように、「家庭教育サポーター」・「家庭教育アドバイザー」は教育の専門労働者とは言い難いが、実際に活動する際には幼児教育や学校教育、そして社会教育・生涯学習の領域の専門労働と連携・協働することが必要とされてくる。こうした視点から、養成に関わって、以下の点についてふれておきたい。

家庭や地域における教育問題の解決を図ろうとした場合、直接的には問題を抱えている当事者へのカウンセリングで対応できる例もある。「悩み」を聞くだけで当事者の気持ちの整理がなされ問題解決の方向性が示される、ということである。しかし、多くの場合は、様々な要因が複雑に絡み合い、当事者の気持ちの整理や努力だけでは解決することができない、ということが多い。

そこでは、教育や福祉・医療などに関わる多くの関係者との連携、すなわち社会的協働・協同で取り組むことが求められる、ということである。

また、教育という営みは、本来社会的協働・協同で取り組まれるべきものである。そうした基盤の構築こそが「地域の教育力」を形成していくものと考える。

教育の専門労働を考える場合、学校教育について考えられがちである。学校教育では、「先生―生徒」という関係の中で教育について捉えるのだが、それは、「教授の過程」が基本に据えられた考え方になる。そこでは、第一に、知識の習得や学力の形成、といったことが問題になる。教育課程に規定された教育内容に準拠した教育が求められる。第二に、人格の形成、ということが問題となる。それは、教育・教授の過程だけでなく、学級活動や学校行事などを通じた教育実践が重視されることになる。

ところで、先にもふれたが、教育労働について、学校教育の「場」を家庭教育や社会教育・生涯学習の領域に移して考えた場合、当然異なる条件においてその特質を捉えることが必要になってくる。

第一に、知識・学力について考えた場合、そこには学校教育の「教育課程」に対応するものが不明確になる。個人のおかれているライフステージや労働・生産・生活条件によって、具体的な内容は極めて個別的で多様なものが想定し得る。

第二に、「教材」や「学習方法」も多様なものが追求し得る。

第三に、社会的に蓄積された多くの領域の研究の成果を活用し得る。その成果は、論文や著書といった形態から、テレビ番組・新聞記事・ネットなど、今日では多様な形態・方法で発表することが可能であり、広く社会的に普及しているものも多い。

第四に、教育労働の担い手が多様化している、ということが挙げられる。社会教育の領域では、従来、社会教育主事・司書・学芸員といった専門職員が想定され、社会教育主事講習や国家試験等も含めて大学を中心とした養成課程が法律的に整備されてきた。これらに加えて近年では、「コーディネーター」なども位置づけられるようになってきた。また、博物館の展示解説などの場合、住民のボランティアも「専門労働」の一翼を担うようになってきている、ということができよう。

第五に、キャリア教育やＮＰＯなどの領域も含め、公的ないし公共性をもった組織・団体の事業展開が、より重要な役割を果たすようになってきている、ということである。「キャリア教育」の具体的な場面としては、公共職業訓練所やNPOの活動が一定の役割を果たしている、ということ

である。

社会教育・生涯学習の専門職員に求められることに、学習者の学習要求・ニーズに対応して学習計画や学習プログラムを開発することがある。その場合、個人の労働・生産・生活過程に即した、個人の学習活動、すなわち自己教育を想定することが基本となる。しかし、「共同学習」も積極的に位置づけられるべきである。学習活動は継続的に追求されるべきものであり、学習した成果を実践に生かしながら持続的に行われるべきものである。

今日では、社会教育施設や民間教育産業・大学その他が提供している「学習機会」についての情報の多くは、ICT を活用して入手することが可能となっている。また、学習内容に即して考えても、自然科学・人文科学・社会科学の様々な領域の研究成果をはじめ、多様なレコメンド、検索機能により入手することが可能である。

このような学習環境が整えられている中で、学習活動は一見すると本人の主体性によりどのようにでも追求することが可能に見える。しかし、自己の学習活動の到達点を客観的に評価し、学習活動の次のステップを明確にし、そのうえで対応する学習機会についての情報・内容を精査していくということは必ずしも容易にできることではない。そこには社会教育・生涯学習に関する専門労働の「サポート」が有効であるように考える。いわば、学習者への「寄り添い」である。

Ⅳ．今後の地域生涯学習の方向性

（1）「社会参加」の志向

日本社会は「超高齢社会」に移行しつつあるが、これまで 65 才以上の人を「高齢者」と規定してきた。定年制度も、この年齢を基準とすることが多く、年金その他の社会保障や社会福祉の制度・政策なども同様である。確かにこれまでは、65 歳を「高齢者」として労働人口から切り離し、医療や福祉の領域で特別な政策を実施する合理的な条件があった、ということができよう。

しかし、今日では、65 歳以上の人でも身体的・精神的に健康で、企業や行政などの様々な場面で働く能力を保持している人も多い（もちろん、生活習慣病等を発症し通院等の時間を要している人も多いが、前提として、65 歳以上でも健康で労働能力を保持している人が非常に多い、というのが実態である）。

また、日本人の平均余命はこの間男女ともに延長してきており、100 歳を超えてなお健康的に生活している人も増加してきている。

高齢者に対するアンケート調査では、「定年退職後も継続して働きたい」と回答している人が圧倒的に多い。そこには、「支給される年金だけで生活を営もうとすると経済的に苦しい」という実態があり、「将来に備えるために」というように、経済的な将来の見通し・先行き不安がある傾向も否めない。ケースによっては、医療費などの手立ても含めて、自己防衛として継続して働きたい、という希望も多い。同時に、「働く」ということを通して「社会参加」することに重要な意義・生きがいを感じている人も多い。

教育論の視点からすれば、労働・生産・生活過程において多様な「社会参加」をすることこそが個人の成長発達を促進・維持する上で重要な要因である、ということになる。

高齢化社会が進行する中で、近年、認知症についての研究が進み、症状の進行を遅らせる、予防することも次第に可能になってきている。例えば、アルツハイマー型の場合、脳内に蓄積する疲労

物質をより効率よく排出する方法が新たに明らかにされてきている。

また、身体的運動をしながら計算などで脳を働かせることが、認知症の症状の進行を遅らせることが予防になる、と言われるような学習方法も開発されている。脳の働きを活性化させるという意味では多様なものが考えられるが、それを身体的運動と同時に行うことが重要である、ということである。

さらに、「おしゃべり」などで他者と交流することも有効である、と言われ、積極的に学習活動、「集う場」としての居場所づくりの中で展開している事例もある。その実践する機会を公的社会教育施設、高等教育機関で、当事者や支援する家族の学習活動として展開している学習プログラムも増加する傾向にある。

また、以前と比較すると、認知症の患者自身が積極的に発言・行動するようになってきていることが注目される。これまでは、認知症であると診断されると、その途端「物忘れなどが激しいので仕事ができない」という捉え方が強く、本人も診断を受けると同時に働く意欲を失い、周囲も「働く能力がない」と決めつけてしまう傾向が強かった。しかし、患者自身が積極的に自己主張し、様々な場面で活動し発言する、そして、患者の社会復帰の支援を展開するように、「できることから仕事・活動へ結び付ける⇒支えあう取り組み」となってきている、ということが注目される。

さらに、地域で「認知症カフェ」ということで、認知症患者が自由に集い語り合う「拠点」が開設される例も増えてきている。その「カフェ」では健常者のサポートを受けながらも患者自身が運営に積極的に参加参画するようになってきている。

以上のことを踏まえた場合、次の点を確認することができる、と考える。

第一に、病気のメカニズムや症状、そして病気の予防の方法などについて学習することが求められる。様々な疾病について多くの研究がなされ、新しい治療方法が生み出されている。そうしたことについて学習することが必要とされるのだが、その場合、人間の生命体としての特質や健康を保持するシステムなどについて理解を深める、ということも重要である。

第二に、そうした知識の習得とともに、生活の営みの中で、食生活や日常的な運動といった実践を継続的に行うことが求められてくる。

第三に、実践を遂行する上で、他者と社会的な関係を持つことが重要である。他者とふれあい、交流を図り「社会参加」することが、病気対策としてもより人間らしく生きるという意味でも、極めて重要である、ということである。

その解決方法として、公的社会教育施設、高等教育機関、地域による支えあうコミュニティ活動への期待は大きく、その地域活性に関わる地域づくりプログラム開発が進められている。

（2）地域活性化の展望

地域を活性化させる課題には、様々なものがあり、また、様々な領域からアプローチし得る。ここでは、まず 2016 年 5 月 30 日[4] に取りまとめられた「中央教育審議会答申」について検討してみたい。

この答申では、ICT の活用による学習活動の在り方や、学習活動の「認証評価」など、多岐にわたる内容について提言されている。ここでは、この小論に関わることに限定し、「生涯学習プラットフォーム」[5] についてふれてみたい。

「生涯学習プラットフォーム」は、地域で住民に対する「学習機会」を提供してきた、教育委員会、

公民館や図書館･博物館などの社会教育施設、民間教育産業、ボランティア･NPO、大学などがネットワークを構築しようとするものである。「学習機会・学習内容に関する情報が統合されることで、学習者は自立的に」学習機会を取捨選択することができる。自己の学習活動の到達点を踏まえて、次のステップに進むことができる。あるいは、学習した成果を活かすことに関する情報を得ることも可能となる。

このようなシステムが確立した場合、「大学の知」を活用することは、より多様な場面で可能になるものと考える。

次に、大学の教育機能とのかかわりで次の点についてふれてみたい。

これまで述べてきたように、地域を活性化させる上で必要とされることとして、地域の経済力を発展させることが必要とされている。中でも、優れた「労働力」を一定程度確保することは絶対的条件である、ということである。その意味では、現在労働力市場の特徴である「非正規雇用」が４割を超えていることは早急に改善すべき課題である。また、昨年東京大学を卒業した新卒の職員が、恒常的な残業や厳しい労務管理に耐えかねて自殺したことに象徴されるように、企業で正職員として働く人には「長時間労働」が重くのしかかっている。

地域を活性化させるという文脈からすれば、「労働時間」「働き方改革」等で、見直すことにより生じた自由な時間を学習や文化・芸術活動に費やすことで、様々な形で「社会参加・参画」することができるようにする、ということが第一に指摘される。自由な時間を自己の労働能力を向上させることに充てることが、社会的にみれば企業活動や地域を活性化させるうえで重要である。

第二に、労賃水準の問題である。「非正規雇用」の割合が高いことから、労働者の賃金の平均水準は当然低い水準になる傾向にある。支給された「賃金」から、自由に自己教育活動に使用することができる費用、また、文化・芸術領域に限らず、多様な学習領域で使用できるのは必ずしも多くはない、というのが実態である。子どもの教育費の負担も大きい傾向にある。自己の学習のための費用や文化・芸術活動への支出も制約されたものとなってくる。その意味では、日本の企業が蓄積した「内部留保」の３７７兆円を、個人の「賃金」に充てることも必要とされているのではないか。賃金水準の上昇は、地域の市場拡大に直結してくるものであり、地域活性化の一つの条件となるとも言われている。

第三に、地域活性化に関わることとして、多様な地域の発展方向を探る試み・学習と学習した成果の活用、ということについて考えてみたい。今日、「地球温暖化」が進行し、その影響は様々な形で地域に表れている。異常気象による自然災害が頻発する中で、「持続的な発展」を目指すことが必要とされている、ということである。防災教育、自然災害についての学び、より専門的な知識･技術、防災士等の資格取得についても公的な社会教育施設、高等教育機関の中での学び、共助、互助についての学び、地域活動・実践の組織づくりの地域循環型の生涯学習の構築が急務とされている。

第四に、こうした状況の把握と将来展望を切り開くためには、労働・生産・生活に関わって様々な場面で持続的な学習が必要とされてくる、ということである。それは、個人のレベルでの内発的な「志向」として求められる、ということである。また、同時に、企業や行政、地域の社会組織、ボランティア･ＮＰＯなど、様々な社会組織としても取り組むこと、そして個人の学習活動をサポートしていくことが求められている、ということである。そうした学習活動について考えた場合、公民館などの社会教育施設の役割や公共職業訓練所などの役割も期待されるところであるが、大学の果たすべき役割は非常に大きい、と考える。地域住民に対して多様な「学習機会」が提供されるべ

きであり、正規の教育課程にもとづき学生として教育を受けることはもちろん、公開講座や「授業公開」その他のシステムの充実が図られるべきである、と考える。また、大学のキャンパスの中で、大学主催の事業としてだけでなく、行政や企業・社会組織などとの協働により、職場や社会教育施設等の様々な場面を会場として教育・学習活動が展開されることも、今後積極的に追求されるべきである、と考える。また、インターネットを利用して行う学習のコンテンツを開発していくことも、「教育プログラム」の一つの領域として充実が図られるべきではないか、と考える。

「共同学習」ということを考えた場合、様々な場面で、様々な領域の学習をした住民同士が、気軽に交流し、学習成果を確認したり、今後の学習計画を主体的に編集したり、学習成果を活用することについて交流できるような「場」の設定が求められている、と考える。

Ⅴ．結び

今後、情報技術やICTの普及といったことが進行する中で、個人が学習に利用できる条件（コンテンツ、レコメンド、検索機能等の開発）はより拡大していくものと考えられる。また、「グローバル化」の進行は、国内外の「競争」を常に激化させるものとなる、と考える。

しかし、多様な技術開発が進行しても、それが労働時間の短縮、すなわち自由な時間、学習する時間の増加に結び付く、ということに自動的になるわけではない。むしろ、AIによる代替の可能性により、将来的には労働者の失業に直結するという傾向が話題となっている。

地域活性化の課題とのかかわりでは、多様な取り組みとその担い手の育成が追求し得る中で、地域の現状把握やそこに内在する課題について正確に把握するために多様な「学び」が必要とされてくる。そこに大学の積極的なコミットが求められるところである。

また、地域住民にとって自己の「学び」は基本的に自己の労働・生産・生活とのかかわりで個人の判断に基づいて追求されることである。しかし、様々な地域課題・生活課題が多くの住民にとって共通の課題として存在していることから、共通の課題として理解・認識し課題解決に向けた展望を導き出すための学習が必要とされてくる。そこに「地域生涯学習」ということが課題設定されることになり、地域の中で「大学の知」の活用が必要とされるところである。

大学は、地域社会において経済的・社会的・文化的・学術的な様々な領域で重要な役割を果たしている。そうした「社会的存在意義」を改めて捉え直すことも、「地域活性化」を追求する上で求められる。

<注>

1）中央教育審議会答申「地域学校協働答申」（2015年）。

2）コミュニティ・スクールについては、佐藤晴雄「コミュニティ・スクールの可能性」（日本青年館『社会教育』、2016年5月号）などを参照。

3）「地域コーディネーター」については、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『地域学校協働活動推進のための地域コーディネーターと地域連携教職員の育成研修ハンドブック』（2017年）などを参照。

4）中央教育審議会答申「個人の能力と可能性を開花させ全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」（2016年5月30日）。

5）筆者は、「生涯学習プラットフォーム」に関連して、「地域生涯学習ネットワーク」について触れたことがある。参照されたい。拙稿「地域住民の参加・参画型学習活動と大学開放事業プログラムの可能性」（『富山大学地域連携推進機構生涯学習部門　年報』、第17巻、2016年）。

教師の労働環境と子どもの貧困認識

―― 退職・現職教師の世代的対照性を沖縄における10件のインタビュー調査から探る ――

仲　嶺　政　光
（富山大学地域連携推進機構生涯学習部門准教授）

1．問題

いま、子どもの貧困が教育研究の領域でも各種メディアでも、広く問題とされるようになっている。子どもの貧困問題は、不遇な子ども期・青年期、すなわち学校への就学期間を通しての貧困の「世襲」、世代的連鎖、再生産を導くという事実が問題だとされている。子どもの貧困問題への取り組みは、まず何より教師によってそれが「問題」として認識される必要があり、その上で子ども・若者への対策が実現可能となる。ところが、その際教師は次の２点で乗り越えるべき課題を抱えている。それは第１に、「親の職業や貧富などで子どもを差別しない」という学校の平等主義的なスタンスが貧困問題への認識や取り組みの障壁になることがある（久冨 1993：162-163）。さらに第２に、格差社会が進展する中で教師自身の階層的地位が相対的に上昇し、そのことで底辺の実像が見えにくくなるという現代的問題が浮上してきている。「教員世界は圧倒的に『リッチ』です。かつては地方出身の苦学生が多かった職員室でしたが、最近は奨学金を受けてきた教員は私以外にいない学年もありました。しかも、共働きの多い職場ですから生徒や保護者の生活にどこまでかかわるか、割り切れてしまうという側面はあるように感じます」（綿貫 2012：152）。教師たちはこれらの条件のなかにあって、どのように子どもの貧困を認識しているのか。

本研究は、退職・現職の２つの世代間の労働環境[1)]を比較しながら、かれらの持つ子どもの貧困認識について考察しようとするものである。ここでとりわけ教師の労働環境の比較に着目するのはなぜかと言えば、日本の教師が世界各国と比べて異様に長い労働時間を担っていることに加え、ここ 20 年くらいの間に教師の精神性疾患の増加、および地域・保護者との関係づくりなどの困難化、などといった点において急激な変貌を遂げていることが指摘されているからである（久冨 2017：51-64）。今日の教師たちには、子どもの貧困という他者の切実な生活困難・子育てに配慮した実践を企図するゆとりを十分に確保される必要があるが、その実態はどのようになっているのか。

本研究では、日本全国で最も貧困率の高い沖縄を調査地に選ぶことにした。戸室健作の調べによれば、2012 年のデータでは「沖縄は、この 20 年間、常に貧困率が最も高い地域であったが、近年はその値が急上昇して 34.8％になり、３世帯に１世帯以上が貧困という状況になっている」とされ、さらに子どもの貧困率をみた場合、全国平均 13.8％に対し沖縄では実に 37.5％にものぼるという（戸室 2016：40,45）[2)]。2015 年に沖縄県がおこなった独自調査でも、沖縄の子どもの貧困率は 29.9％にのぼっており（湯澤 2016：67）、全国標準を大きく下回る経済格差、および貧困がもたらす子どもへの影響が浮き彫りとなっている。このような過酷な経済状況がどのように教師の貧困認識に現れ出ているのか、把握を試みていきたい。以下では、本調査の概要を示し（**2**）、教師の労働環境について退職世代の場合と現職世代の場合とをみた後（**3** と **4**）、それぞれの世代における貧困認識を比較し（**5**）考察を加えることにする（**6**）。

2．調査の概要[3)]

表１　インタビュー対象者一覧

	記号	世代	学校種別	勤務時期	インタビュー
退職	Ａ氏	1930 年代前半生	高校	1950 ～ 90 年代	2016.5.5.
	Ｂ氏	1930 年代後半生	中学校	1960 ～ 90 年代	2017.2.7.
	Ｃ氏	1950 年代前半生	小学校	1980 ～ 00 年代	2016.5.24.
現職	Ｄ氏	1950 年代後半生	高校	1980 年代～	2016.8.21.
	Ｅ氏	1960 年代生	高校	1980 年代～	2016.8.23.
	Ｆ氏	1970 年代生	高校	1990 年代～	2016.8.23.
	Ｇ氏	1970 年代生	高校	1990 年代～	2016.8.23.
	Ｈ氏	1980 年代生	小学校	2000 年代～	2016.8.19.
	Ｉ氏	1980 年代生	小学校	2010 年代～	2016.8.21.
	Ｊ氏	1980 年代生	小学校	2010 年代～	2016.8.9.

- **調査期間**：2016 年５月５日～ 2017 年２月７日。
- **調査対象**：沖縄県における３名の退職教師および７名の現職教師あわせて 10 名（小学校４名、中学校１名、高校５名）、機縁法による。
- **質問内容**：対象者の基本属性（学校種別・勤務校歴・性別・生年など）／教師の仕事上のルーティンと多忙化の様子／家庭の生活上の厳しさとはどのようなものか／子どもの貧困をどのように把握・対応しているか、など[4)]。
- **調査方法**：半構造化面接によるインタビュー調査を実施した。インタビューは１件を除きすべてＩＣレコーダに記録し、文字起こしをおこなって分析のためのデータ集を作成した。
- **データについて**：データ集からの引用に際し、**表１**の対象者リストで示した記号Ａ～Ｊを用いて匿名化し、学校名や地域名などの固有名詞には「某」「○○」などの字をあてた。また、読みやすさを考慮し、発言の趣旨に影響が及ばない程度の加除修正をおこなった。
- **調査の担当**：Ｂ氏・Ｃ氏へのインタビューについては仲嶺が担当した。その他についてはすべて芳澤拓也氏（沖縄県立芸術大学）が担当した。

3．「僕を育ててくれました」〔Ａ氏〕――退職世代

まず、退職世代である３人の回想からかつての教育現場の様子を掘り起こしていこう。ここでのポイントは、①地域社会や職場での良好な関係構築、②子どもや若者たちがつかみやすいものとして存在していたこと、および③教師が仕事を進める上で、現在と比べるとゆったりとした労働時間の流れの中にあったこと、が見て取れることである。

①　同僚や地域社会との良好な関係

若くして代用教員となったＡ氏は、その後正教員を目指し教員免許の取得を目指すことになった。周囲の教師たちはそれを応援し、Ａ氏は勉学時間確保にあたり格別な配慮を受けることができた。

▲　**代用教員時代はもう免許もとらなきゃならないし、できれば国費学生の試験〔沖縄復帰前の特別入試制度〕にでも通って……特に某高校では、〔Ａ氏がかつての卒業生であることを〕みな知っていますし、母校に帰った最初の人間であることも知っているから、僕を育ててくれました。いわゆる公務分掌みたいのも、万年宿直やれと、宿直しながら勉強しなさいと。授業だけやればいいと〔Ａ氏〕。**

他方、Ｂ氏の新人教師時代の回想からは、かつては教師と地域社会との間に深く濃密なつながりがあったことを思わせるエピソードをみることができる。Ｂ氏とその同僚たちにあっては、地域の一員さながらに労働や食事をともにし包摂され、互いに信頼しあう関係が築かれていた。

▲ **某中学校。ここはもう、非常に教師と生徒の信頼関係が厚いところでした。地域の人とのつながりも非常に強かったですね。学校と地域のつながりも。……部落の通りを通ったりするとね、畑で仕事している人が声かけるんですよ。「一緒にやってくれ」と言って頼むんですね。はい。一緒にやりましたよ。「じゃあ、１時間手伝いましょうな」と言ってね。〔そのお礼に〕例えばごちそうがあるときには学校に連絡があるんです。「今日うちに来てくれ」と。職場みんなで〔参加した〕。そういうことがいっぱいありましたね。その頃、道から通っているのを見たら、「ちょっと仕事手伝ってくれ」と言ってね。田んぼに入ったこともあるし。その代わり、ごちそうがあるとみんな呼ぶんですよ。職員を。「今日これがあるから寄ってきてくれ」といって。某地域ではそういうのがありましたね〔Ｂ氏〕。**

他方、民間の研究会に積極的に参加し尽力してきたＣ氏もまた、地域からのバックアップを得た経験を持つ。Ｃ氏の実践は、子どもの日記指導とそれを記事にした学級通信の読み合いを軸としていた。それに触発された保護者たちは自主的な勉強会を立ち上げ、大いに盛り上がることになった。

▲ **〔1990 年ごろ〕子どもたちの日記でほぼ成り立っているような学級通信だから、親がものすごく喜んで。自分だけでなくて友だちの声とかが、すごいいろいろ出てきて、親が喜んで、すごい親が結束してくれて。「こんなの初めてもらう」って。なんか、忘れ物が多いとかそういうのはもらうけど、こういう子どもたちの生き生きとした生活を。自分の子どもはこうしてる、友だちはこうなんだ、とか。親との会話がね、すごいできるし。いろいろな問題がありますよね。教育問題。それを自治会みたいなところで話し合おうっていうことになって。親が。ご飯食べて７時半ぐらいから２時間ぐらい、10 時ぐらいまで。それを月いちで。月いちの学習会を親が計画してくれて。「先生と語る会」みたいな。そんなこともできたんですよ。……あっという間に終わって。早く帰らないと大変だよ、明日が、とか言いながら。……そのお母さんがチラシ作って、「配ってくれ」って。〔参加者は〕10 人は下らなかったような気はするけど。10 人よりは多かった時もあるね〔Ｃ氏〕。**

② 子ども・若者との関わり

では、かつての教育現場における教師と子ども・若者たちとの関係はどのようなものだったのだろうか。インタビューでは、戦後初期のころは「生徒指導も、あの頃はない時代ですからね」〔Ａ氏〕という発言があった。このことは、必ずしも学校側の要求する望ましい生徒像が完ぺきに実現し、問題行動が皆無だったことを意味しているわけではないだろう。むしろかつての子ども・若者たちは、現在のいじめなどの学校・教師側が容易に察知・了解することができないような複雑な問題行動や関係性[5)]を見せることが少なかった、と解釈したい。

▲ **結局ね、○○魂という言葉は今言わないんじゃないかなと思うんだな。その○○魂とともに、〔職業高校なので〕実習がひっつきますね。そして某科と某科は実習が……うん、これが某高校の一つのカラーでしたね。年中出ていましたよ、○○魂。今でも言うかどうか。やっぱり実習ですね。……○期生なんか、ご両親の顔もみんな浮かぶしね。えぇ、何人か仲人もしてます。……ご両親とも話し合うし、泊まらせてもらったりもしてね。それで帰りにはお米をもらったり、そんな記憶がありますね。……某高校出身の父兄が一品料理をもって集まる。そこでみんなと話をする。これ、非常に鮮烈に〔記憶に〕残っています。……〔生徒を叱りつけたとき〕午後から生徒が集団で逃げちゃった。……あの頃〔戦後初期〕は、**

高校受験するからとか言って、家へ帰ったら、勉強するって、みんなムラヤァ〔村屋＝役場〕に集まって。そこに顔を出したりしてね、「勉強やってるな」って言って。教えるわけじゃないけども〔A氏〕。

▲ 60年代に〔某中学校に〕来たときは、学校を怠けるという生徒が多かった。金銭せびりとか暴力とかそういうのはあまりなかった。あの頃は、いじめとか金銭せびりとかじゃなくて、集団で学校怠けるというのがあった。……1人ずつ会って話をしてみると、決して悪いあれじゃないんですね。ひんまがった性格じゃないわけ。明るくて素直であると。〔学校をサボっている生徒が〕20名ぐらいいるわけね。森のところにいるわけよ。で、僕は気づかれないように近くまで行って、声かけたらパーッと逃げたわけよね。「待て待て、別に捕まえるために来たんじゃないから待て」と言ったら、待ったんですよ。……言いたいことを何でもいいから言いなさいと、1人ずつ言わせたわけよ。今1番どういうことが望みかと聞いたら、「学校に爆弾が落ちればいい」と言ってるわけよ。学校に爆弾が落ちたらみんな死ぬよと言ったら、「いや、人がいないときに落ちた方がいい」と。何でか、と言うと学校に来ないでいいから、と。学校嫌い。そしてたくさん話をして、色んな話をしているうちに、じゃあ、それは置いといて、自分の将来のことを話そうと。あんた何になりたいのかという話をしたわけよ。そしたら、みんな希望があるわけ。警官になりたいとか色々言うわけ。ああそうか、いいなぁ、夢があって、という話になってね。で、その夢を本当に実現するためにはどうした方がいいか、という話をしたわけ。……それを実現したいな、そのためには、やっぱり勉強した方がいいな、みんなと交流もあった方がいいし、身体も鍛えた方がいいし、頭もちょっと磨かんといかんし、という話になって。あとは、じゃあ学校来ると。……そういうことがあったりして。で、みんな先生方も、子どもたちのね、気持ちに立ち返って、心に響くような指導をしようという話になっている。それから随分良くなるという〔B氏〕。

▲ 〔1990年代初頭〕すごいよかったんですよ。〔某小学校〕最後の学級。本当に。すごくいい学級で。子どもたちも。楽しかったです。あの時は。今もう30代になっているんですけど、クラスの子ども同士で結婚している人もいるんですよ。子どもができて、「孫見に来て」って言われて。見に行って。で、結婚式も7月にやるから、「先生絶対来てよ」って。そんなこととかね。たまには来たことありますね。みんなで。卒業して。酒持って。なんか一升瓶持ってから。今でも食べてますね。〔酒〕カメがあったの。で、5升くらい入れてつっこんであるけど。いつ飲みにくるのかなぁって。楽しかったです……やっぱり対校長との、いわゆる日の丸君が代押しつけたり週案〔提出を〕押しつけたり、厳しい時代の学校だからこそ、なんか子どもを大事にして、親も連携して、みたいな。意識的に組み立てたような気がする〔C氏〕。

高校受験に備えた勉強を集団で取り組む、「○○魂」に包まれた校風の形成、あるいは授業エスケープを可視的でまとまりのある集団でおこなう、それに対し「心に響くような指導」が成立する、保護者の顔が見える関係が構築できる、そして卒業後も私的で良好な交流が持続する――どれをとっても教師にとって歯ごたえや達成感を味わうものだっただろうことが想像できる。退職世代教師の回想の中には、学力形成や非行のあり方、ひいては広く人間関係のあり方が個々バラバラな状態にされた現在に比べるとその関係性の芳醇さがいきいきと伝わってくるものがある。中でもB氏の説諭は時代的性格を感じさせるものである。というのも、とりわけ1960年代以降、伝統的な職業の世代継承がゆらぐ中で中学卒業後の進路選択は多くの若者にとって避けることができない重要な課題となっていた（木村・松田2011：29-30）。授業を集団エスケープした生徒らは来たるべき進路選択にあたり勉学が不可欠であること／怠学が不利益をもたらすことについて、それぞれ大きな説得力を実感し行動を改めていった。B氏は、説諭に際して生徒らの怠学の深い理由――教育の職業的意義の希薄化（本田2009：86-88）や、学校の持つ画一主義的・能力主義的な抑圧からの解放を求めることなど、様々なものがありえただろう――には直接触れずに（「それは置いといて」）、つまり生徒との一定の距離感[6)]を保ちながら自らの人生設計と社会的自立にむけて取り組むよう諭し励

ますことに成功しているのである。

③　ゆとりのある仕事ぶり

続いて、退職世代の勤務状況についてみてみよう。インタビューでは、退職・現職世代ともに勤務の多忙さが述べられている。その意味で教師の仕事は常に「忙しくなければならない」（久冨1990：69）性質を持つものなのだろう。その忙しさの質は退職世代の場合どのようなものだったのかを振り返ってみよう。

▲　**教務主任時代。これはね、もう教頭補佐で、明るいうちに家に帰ったことないですよ。〔一般の教師は〕夏休みなんか顔も出さないで給料もらってたんだから。みんな。今はもう、ちゃんと研修届やらなにやら〔出さないといけない〕。その反動ですよ。昔は甘えすぎた。教員がね。……教務というのはね、結構雑務ですからね。入学試験の総采配をしたり。教頭と教務主任が勤務時間を超えて、薄暗くなるまでやりましたよ。……〔昔は〕時間があったと言えるかもしれませんね。そういうの〔雑務〕はないから、教材研究だけ。学期末テスト、中間テストが終わったら、試験時間は午前中でしょ。今は午後も授業やっているというじゃないですか。ね、午後もね。あの時は、午後は採点とか、場合によっては〔企業との〕親善バレーボールをやったり、そんな交流をやって。えぇ、そんなのありますよ。そんな印象に残っていますからね。ところが今、そんなに〔忙しく〕なっちゃって。あの頃は暇があったから〔生徒指導に〕出かけていけた〔Ａ氏〕。**

▲　**年代によって違うと思うんだが、最初の 1960 年代はじめの頃は、８時出勤で、一応勤務は５時まで。あとはもう部活。某中学校にいる間はずっとバレーやってました。だいたい、部活は冬でしたら６時半まで、夏は７時半まで。……普段こう、何か早く学校引きあげて。あの頃は部活はそんなにまで盛んじゃなかったのでね。だいたい５時半ぐらいで終わったんですよね。部活は〔Ｂ氏〕。**

▲　**もう、授業がいつもあるからね。担任以外したことないから、もう忙しくない時ってないですね。特にね、夏休みなんか。今がもっとひどいですけど、夏休みに研修が入ってくるという。夏休みゆっくりしてたのに、それが段々崩れていった。〔1980 年代終わりごろから 1990 年代初頭にかけて〕学力向上の波が襲ってきたころからですね。前は研修もね、自分で自主的な報告をすればいつでも休めた。研修として。これは全くなくなりましたね。自宅研修が全く無くなった。こういう言葉自体も無くなった。旅行しても、旅行したものが教材だという見方をしていたんですよね。教師が楽しむだけじゃなくて、旅行することで視野を広げて子どもにあたることができるんだから、どんどん行きなさい、自宅研修しなさい、みたいな感じがグラッと変わった。急激に。こういうの認めない。残念な方向にどんどん行きましたね〔Ｃ氏〕。**

Ａ氏は自身の教務主任時代こそ多忙な毎日を送っていたが、一般に教師の間で時間的なゆとりがあって生徒指導に時間を割くことができたと述べている。また、Ｂ氏における多忙内容は「部活」であった。確かに部活顧問は、次第に教師の多忙内容に数えられるようになり、顧問教師の責任問題も浮上するようになってきていた（中澤 2014：128-129；2017：49）。しかし、Ｂ氏からは今日の教師の世界に広がっている学力向上対策や膨大な書類雑務についての言及がなかった。また、Ｃ氏は在職中を通じて週案提出をきっぱりと断り、管理職による執拗な提出要求をはね返してきた。さらに、習熟度別学級編成の導入に対してはその弊害を危惧し反対し続けた。ここにみられるような自由裁量や自律性が個々の教師の中に存在しえていたことは注目してもよいことだろう[7)]。加えて、教師の間では「休む」ということに倫理的抵抗感が強く、特に現在はその価値が大いに再認識され発想の転換がなされるべきであろう（浅野 1993：84）。また、教師の自主研修の裁量拡大も重要な

課題となっていることがうかがえる[8)]。

④　90年代までの変化：退職世代は過渡期を経験している

ここまでの流れだけをみると、歴史的過去は順風満帆な教師人生・教育実態のみが強調されるにとどまる。しかし退職世代は、**表1**の勤務時期にみるように80年代または90年代の教育現場の変貌を経験しているものである。実際、A氏の言う「〇〇魂」は過去のものとなり、B氏においてはいじめ問題や保護者とのトラブル対処が顕在化し、C氏は教育実践を進める上での困難を味わうことになった。退職世代が退職近くに至るまでのその過渡期的な様子についてもみてみよう。

▲　**座学では居眠りしているけど、実習になると目の色がかわってイキイキする。ところがね、それが時代とともに、高校入試というものが全入に近くなって、高校へ行けるのが当たり前になったら、その実習さえもちゃんとやらない子どもが出てきたという教師の嘆きはありますよ。後の時代から。……これは若い教員が言っていた。以前の子どもらは実習になったらイキイキしたのにね、今の子は実習の時にもぼんやりしてちゃんとやらん〔A氏〕。**

▲　**〔1980年代、某中学校に〕着任する前に教育委員会から呼ばれて行ったら、実は今某中学校で、生徒の行動がね、思わしくないことがちょっとあると。だから、そういうところを気をつけて力入れてくれんか、というのがあって。そしたら、理由がわかってきたんですね。いじめがあるということで。いじめと金銭のせびり。だから、嫌で〔学校に〕行かないと。怖いと。……〔1990年代〕親と教職員とのいさかいというのかな。私が〔間に入って〕教師の代弁をし、お母さんの代弁をするのも良くないから、やっぱり一緒に会おうということで、話をした……まぁそういう風にね、おだやかに、ゆっくり考えながらあれすると、ちゃんと解決策というのはあるんだと思う。そういうのはしょっちゅうあったね。〔話し合いを〕校長室でやったり、その家庭でやったり〔B氏〕。**

▲　**〔1990年代半ば〕塾がどんどん押し寄せてくる頃……「先生は知らないけど俺達の間にはランクがあるんだぜ」って。だんだん学級が壊れてきて。……〔2000年代〕某小学校では、今まで一度もなかったことがあった。これ〔学級通信の子どもの作文を〕全部実名で出しているのよね。すごい殴ったり蹴ったりというのも実名で出したわけ。色んな問題が解決できた。学級会とか、それからＰＴＡとかの集まりで、学級の問題はみんなの問題だから、ということで子どもたちも話し合うけど、お母さんたちも話し合ってね。そうやって、実名で出すことは何も問題なかったんだけど、某小学校に来て最初の年、「先生、実名で出すのはやめて下さい」って。私が聞かなかったから、私抜きのＰＴＡ総会みたいなの開いて、「Ｃ先生のこれは問題じゃないですか」って。「書かれたお母さんがどんなに傷ついていると思いますか」みたいな。言われた子の方が傷ついているんだと思うけど。色々言うけど伝わらない。裁判みたいだったよ。〔子どもの名前を〕隠していたら、これは誰かって追求して、また子どもにトラブルが起こるよっていう話を色々したら、「そうだよ」っていう人がいっぱい出てきて、結局はそういう〔実名掲載をやめるという〕決着にならなかったわけ。最終的にはね。ずっと〔教員を〕やっていて、すごい学級も作られて、問題だった学級が最終的にはすごく良くなって、というのが私のあれ〔実践パターン〕だったけど、これはちょっときつかったね。お泊まり会とか、毎年１回子ども主催の〔行事〕をやったんだけど、このクラスだけはできなかったね。親が教師を段々と全面信頼しない、軽く見はじめている。横のつながりをいっぱいつくろうとすればするほど、何か知られるのが嫌だという感じ。そういうのを私が崩してワーッとやろうとするから余計なんか面倒くさい〔C氏〕。**

このように退職世代にあっても教育実践の困難化がみられるわけだが、それはとりわけ2000年代まで勤務していたＣ氏の場合に先鋭的にあらわれているといえるだろう。現在、子どもの作文の

実名掲載･学級内での公表は実践的機微が不可欠となっている。例えばいじめ被害を受けた子を「仕返し」から守り、なおかつ加害側の議論参加・意見表明を保障するためにも、匿名からはじめるという段階的手法が必要になる場合がある（原田 2001：124-126）。従って、実名の掲載を徹底して貫き通すこと自体は必ずしも万能なやり方ではなくなっているのかも知れない。また、C氏が述べているように、現在は保護者のプライバシー意識の高まりや教師への信頼性の低下などが子どもの生活リアリズムを追究する生活綴方実践とぶつかる時代に入っていることが読み取れる。しかしここで重要なのは、C氏の実践スタイルが2000年代以前まで子ども・保護者双方に受容され、十分効果をあげるものだった事実（「色んな問題が解決できた」）にあるように思える。

4.「最近はもう自転車操業じゃなくて一輪車操業だね」〔D氏〕——現職世代

現職世代になると状況は別世界の様相を呈する。以下では現在の教師の労働環境についてうかがっていこう。

① 労働時間の長さ

現職世代は、明らかに出勤時間が早まり、また退勤時間も遅くなっている。D氏の場合は「早朝講座」のために7時15分に出勤し、学校が機械警備の時間となる8時に退勤している。授業の合間の空き時間は教材研究とは「別の雑用」をこなさねばならない。夏季休暇は「全くって言っていいぐらいとれてない」。またI氏の場合、子どもとの対話時間を確保するために6時半には出勤し、時に8時を超えて退勤するケースなどがあり、1日に14時間学校にいることもある。あるいは「とっても忙しい。一旦明日のものをおうち持って帰って」〔J氏〕教材研究に取りかかることもザラである。現在の教師たちはとにかく時間がない。しかもそれが充実した教育労働時間とはかけ離れたものとなっている点に重大な問題がある。

▲ **自分自体が学ぶ時間がないし、子どものこと考える余裕もなくなっちゃうし。〔時間がないと感じるときは？〕子どものためにならない研修させられてるとき、子どものためにならない話し合いをさせられてるとき。学テ対策と、あと、学校訪問の対応。そのための資料作り、対外的なものの資料作りですね。〔例えば週案づくり。〕週案なんてもう時間かけてられないです。週案5分で書かなくちゃ。……午後8時におうちついてご飯食べてるっていうのは、久しくないです〔H氏〕。**

② たてつづけの研修

現職世代教師たちの多忙内容をもう少し詳しくみてみよう。まず筆頭にあげられるのは各種研修の多さである。インタビューでは、初任研・2年研・3年研・10年研と続いていることの大変さが確認された。「学校現場で10年って言うともうベテランなので、すごく重たい仕事についているのに、もちろん〔研修中ということでの〕配慮はなく、初任研みたいにけっこういろいろ研修とか入ったりする」〔D氏〕。もちろんベテランばかりではない。「忙しいです。初任研のときは、研修と授業の忙しさ」〔H氏〕、「初任研から、2年研、3年研まであって。なんか、毎年授業を見せないといけなかったりとかが、とっても疲れるなって思って」〔J氏〕。この他、「週1回の算数ミーティ

ング」「学年会」など校内的業務もまた多忙の１つに数えられる〔Ｉ氏〕。

③　全国学テ対策

沖縄では「学力全国最下位」からの脱却を目指して久しい時間が流れたが、その基本路線は今も変わらない。沖縄県は全国学テ正答率の向上を子どもの貧困対策の一つに結びつけ、「全国水準」への到達具合を数値目標として掲げている（沖縄県 2016：52）。しかしながら、全国学テの正答率向上運動が教育実践の中でどのように取り組まれているのかは問われることはない。またそこでは、全国学テの結果がどのように子どもの貧困対策に結びつくのか、ということは自明視されている。むしろ、沖縄の学力はなぜ「低い」のかを問題視し、そしてどうすればそこから脱却できるのか、ということへの取り組み自体が自己目的化しており、残念ながら沖縄の子どもの貧困問題の解消にまさる優先的課題となってしまっている。もちろん、子どもの学力保障じたいは重要な教育課題の１つであることに間違いはない。また、学力問題は多くの沖縄教師たちの「善意」によって取り組まれ、一定の社会的支持が調達され続けているものだろう。しかし現在の学テ対策の中には、テスト結果を上げる授業がよい授業、などという「学力テスト神話」がひそんでいる。全国学テの結果とは、現実には「教育実践の成果以上に、経済要因と連動した生活基盤に大きく左右される……『学力低下』や『学力格差』はその根もとで『貧困問題』や『経済格差』と密接な連関にある」（岩川 2007：337-338）。現職世代教師は、日常的にくり広げられる学テ対策のむなしさを実感しつつ、しかしそれに多大な時間をかけて取り組まざるを得ない状況に置かれている。

▲　**〔学テ対策は〕わからない子たちのためになってない。とっても無駄だなって思うんですけど、学テで、落ち込みどころがある単元を何回もやる。意味理解じゃなくて。膨大な時間を費やして、データを出すんですよ。県平均と学校平均がどれだけ違うとか。そのことをひたすらやってます。だから子どもの前にいなくて、パソコンの前にひたすらいます。……この問題は解けた、て思うし、教師もそのときにはこの問題はできたって思っちゃうんですね。けど、やっぱり意味理解の部分では多分できてない。その時間がほしい、ほんとにそれだけなんです、ほんとに〔Ｈ氏〕。**

▲　**〔学テ対策は〕ひどいです。私思うんですけど、学力テストって６年じゃないですか。だけど、学力テスト対策とか到達度テスト対策できついのは５年だと思いました。５年の後半はずっとプリントとか。５年の担任が一番つらいと思います。……５年生はもうキツキツの状態でやっていて、朝の時間の読書をプリントに変えたり。授業も１時間学年で揃えて、過去問を問いておく。ほんとに毎日採点とかしてて〔Ｊ氏〕。**

④　地域・保護者との関わり

既にみたように、退職世代は地域・保護者との良好な関係を維持してきたものだった。しかしこの実践的利点は現職世代では大幅に後退している様子がうかがえた。地域社会は、教育問題の解決に向けて結束する存在から、格差社会の論理によって分断された様相へと変貌しつつある。

▲　**〔某地域では〕大学の先生とかもいるし、お医者さんとかもいます。……でもけっこうアパートも多いです。なんか、一軒家は少ない気もしました。一軒家のところは、とっても豪華できれいな一軒家に住んでる感じですね。〔学力格差はある感じが〕します。やっぱり裕福なところはけっこう勉強も力入れてた**

んで、習い事とかもやってる子も多かったです。塾、公文とか、算盤から。でもやっぱり貧困、なんかとっても厳しいなっていうところの家庭は部活も入ってない、習い事なんてしてない。で、学力もそんなに高くない。……要保護とかいたんですけど。ほんとに靴の底とかも抜けたり、ぱかぱかしながら歩いてたり、ちょっと洋服とかもすごく気になって。……この子本当にランドセルも破れてたりしたんですよ。あと、靴とか。一応お母さんに連絡入れて、今、靴底こうやってぱたぱたしてる状態なんで、買えませんかとか連絡入れて、一応分かってくれるお母さんだったので、よかったんですけど。……母子家庭でした。だからとっても差がある気がします〔J氏〕。

保護者との信頼関係の樹立も難しくなりつつある。「何かあったときに、保護者は担任に相談せずにすぐ学校にぽんと電話してくる。まぁ、学校に電話してくるんだったらまだいいですけど、すぐ教育委員会に言ったりとか」〔D氏〕。あるいは「〔保護者同士のつながりは〕強いとは思わないです。すぐ怒鳴り込みに来るって感じですかね。まず話しようとかじゃなくて、絶対おかしい！って、そういう目で見てる感じがしますね」〔H氏〕。

このような「通報・怒鳴り込み」の背後には、保護者自身の生活困難・子育て上の苦悩があることも多いだろう（今関 2009：48-51）。F氏によれば、保護者からの電話には子どもの家出の相談や、教師にかまわず「ずっと話し続ける保護者」の姿がある。またG氏は遅刻・欠課・欠席など「勤怠に関わること」は親自身の多忙が重なってうまく連絡・コミュニケーションがとれない状況もあると述べている。そして実際、F氏・G氏がそれぞれ口をそろえて述べていることは、「生徒のことは学校で見てほしいという雰囲気があった」「〔子どものことは〕学校の先生に任せたいっていうようなところが、あるような感じがしますね」という印象であった。これは各生徒の諸問題を教師が丸がかえせざるを得ない関係性に他ならず、先のB氏説諭のなかにみられた「一定の距離感」を支える基盤が崩れつつあることを見てとることができよう。

ＰＴＡ活動の様子にも格差と貧困が影を落としている。E氏は「ＰＴＡ会長が毎年変わるような形だったので、〔活動に〕一貫した方向性っていうのがなかなか組めなかったり、結果としてＰＴＡ活動が停滞していたので、やはり母子家庭、父子家庭が多いので、なかなかＰＴＡ活動に参加できる絶対数が少ない」と述べている。G氏もまた、「厳しい学校とかは、あまり〔ＰＴＡの行事に〕集まったりしないっていうことが、はい。ありますね。多分、なかなか仕事が休めないっていうのがあるんだと思いますね。全部が全部、正社員ではないと思うんで。多分、有給とかでもなくて」。授業参観も同様である。「授業参観率とか、こういうの全く違いますね。色んなところで沖縄の貧困の影響がでてきてるなって感じていて」〔Ｉ氏〕。

ところで、子どもの生活現実を知る重要なきっかけの一つに家庭訪問がある。「家庭調査票上は母子家庭だけど、あ、お父さんがいるなとか、そういうのは気づきますね」〔H氏〕、「家庭訪問で、とってもおうちが荒れてるとか、なんか気になりました。」〔Ｊ氏〕。ただ、おそらく教師の多忙化とそれによる業務整理によるものと思われるが、家庭訪問がなくなりつつある、という声があった。「振り返ると、家庭訪問が無くなったという変化がある。家庭訪問でいろんな情報がわかることがあったが、無くなっている」〔F氏〕、「〔家庭訪問は〕行かないですし、時間もない」〔Ｉ氏〕。だが、次のC氏の指摘にみるように、家庭訪問の時間を確保することは子どもの生活実態を知るきっかけとして重要なものである。

▲ **〔家庭訪問は〕絶対大事ですよ。やっぱり親子関係とかきょうだい関係とかって、子どもの貧困もそうだけど、子どもの家庭での位置とかね。親がどんなふうに育ててるとか、机とかも有るのか無いのかとか。で、**

なかなか宿題してこないとかいったらやっぱり定位置がなくて、机が無かったりするとか。そういうのをわかってあげてると、「じゃあ、もうおうちに帰る前に学校でやって帰ったら？」みたいな、そういう声かけもできるし。「先生ちょっと仕事があって残るから、やるならやってもいいよ」みたいなことを言ってあげたり。やっぱり家庭の事情をわかって子どもを理解してあげるというのはとっても大事だなと〔C氏〕。

⑤　子ども・若者たちの変貌

現在は、かつてよりも子ども・若者の姿がつかみづらく、そしてかれらがより生きづらくなっている点も指摘しておきたい。先に退職世代A氏・B氏の回想にみられたような集団エスケープは現職世代の中にはもう見当たらない。むしろ現在は個々バラバラにいじめや不登校などの問題が教師を悩ませる時代となっている[9)]。

▲　今、不登校になってるの、まぁ不登校になってるって言っても、結局保健室登校をしている生徒と、全く来れなくなってる生徒と分かれるんですけども、こう、精神的な問題、それから病気、規律性障害でした？それで、今ちょっと来れなくなって〔E氏〕。

▲　某高校なんですけど、やっぱり、携帯とかネットがずっと流行りはじめて、ネットでのいじめっていうことで、もう、割と普段からにこやかにしていて、友達関係も作っているような子が、裏でネットのいじめだったり、教師の誹謗中傷とかだったりっていうのをやっているので〔E氏〕。

▲　某高校への赴任のときには、〔生徒〕一人ひとりの重みがあった。経済的な厳しさ、メンタル面のゆれ、心のケアの必要〔F氏〕。

▲　ちょっと貧困とは離れるんですけど、親の期待感から来る苦しさを感じている子はとってもいて、やっぱり塾通いだとか、特に受験も控えていたりだとか。そしたら、あの子、塾〔のこと〕でお母さんにめっちゃ怒られてたんだよとか、そういうものを聞いたりとか。なんか、最近とってもイライラしてるんだよ、って弟いじめてたんだよって。何でかなっていったときに、いっつもお母さんがなんか、冷たいって言ってたよ、みたいなことも聞いたりとか〔I氏〕。

5．貧困認識の世代間比較

続いて、退職世代と現職世代の貧困認識がどのような構図になっているのか、それぞれみていきたい。まず、退職世代であるA氏・B氏・C氏の場合である。

▲　その頃どうだったんだろうな。そういえば、授業料未納をひっぱって、授業料未納を掲示に書きだして、やったことがあったかな。そして、期日を間に合わないで納めた人を、後で墨で消すっていうのが、あったような気もするが、どうだっただろう。今言うね、新聞で言う、それなりに私も〔貧困の記事を〕見ますよ。でもそんなに、あんまり知らないな。……家庭訪問をしたけども、貧しさよりも、一頃某高校は退学者が多い時代があってね。入学した生徒の半分くらいは消えて行っちゃうようなクラスがあったような気がする。しかし貧しさと言うのが新聞で出たような気はしないな。貧乏の話、ちょっと弱いかな。ピンと〔こない〕ですね〔A氏〕。

▲　〔貧困は〕はい、ありました。これは、古ければ古いほど貧困は多かった。今の時代よりも。某中学校に行っ

た頃は、あの頃学校に出る金といったら教科書代と、あるいは何か実習をするものは実習の材料代とか、それからＰＴＡの会費とか、義務教育だからそんなにたくさんはお金は出ないのよね。それでもビン集めをする生徒が多かった。某中学校にいるときの校長の提唱で、毎日ビン一本学校に持ってくる。〔月に〕24 ～ 25 日ぐらい学校に出るわけよね。24 ～ 25 本ぐらいビンを持ってくることになる。で、ビンを買い取る業者を１ヶ月に１回呼んで、ビンをとってもらう。誰がいつ何本ビンを持ってきたというのが記録されているから、お金あげるわけですよ。ビン代。今度はお金あげた日に農協さんが来るわけです。で、個人個人の通帳を作って貯金をする。それを貯めて修学旅行の費用にするとか、高等学校に行って授業料にするとかいうのがありましたね。〔1980 年代〕そういう子どもについては、役所を通して民生委員に連絡をとって、生活保護が該当するかどうか、というようなこともありましたね。役所と連携して。何名かそれを、親が生活保護を受けてなんとか高等学校に行ったという子どももいます。それから、そういうものに該当しないで、高等学校に行けなかった子どももだいぶいますよ。それから、私が勤務する以前の時代では〔貧困な人たちが〕もっとたくさんいたよ。とにかく〔高校進学者は〕少なかったです〔Ｂ氏〕。

▲ 〔2000 年代に勤務した学校が〕荒れた。荒れた時期が多くて。割と大きな某地域の市営住宅があるんですよ。ダーッと。あの子たちが来るんですよね。団地からも来る。貧しさもね、ハンパじゃない貧しさ。不登校で、１軒の家に何人も、おじさんからおばさんからみんな住んで、生活が苦しそうな感じの子もいましたね。ちょっと格差があったような気がする。そういう、市営住宅のおうちの子なんかも、お母さんが働きに出てね、なかなかおうちの子どもを見れないとか。そこはやっぱりものすごい貧困の子もいましたね。……その時思ったの。私自身が福祉につなぐことをわかってない。教師が。大変な時に、「ここに相談したら」っていう、そういうことを知識を少しでも持っていたら、あの子もう少し救われたんじゃないかなと思って。指導の中身でなんとかしようというのばっかりあって。〔教育実践の。〕そうそうそう。「この子なんとか学校に来させよう」とか。この子をイキイキとさせることで救っていると思ってたんだけど、根本的には何も解決できなかった。あ、そうか、福祉につなげる、児童相談所とか民生委員とか、そういうこととの連携の大事さっていうのをあそこで学んだ。それから、〔2000 年代後半〕某小学校のときは民生委員の方とか、一緒に行くようにしたり、民生委員の方とお話したり、退職して民生委員になった先生もいらっしゃるから。相談して、おうちに行ったりすることをするようになったんだけど。やっぱ教師はちょっとその辺がね。貧困対策の中に、プラットフォーム、沖縄に出てくるんだけど、そのプラットフォームっていうのは、子どもたちをどこにつなげていくかっていう。こういうことは今の教師にはできないなと思って。忙しくて……〔３人に１人が貧困というデータについて〕ほとんどの教師は実感しない。服だって安く買えるしね。みるからに貧困という格好してくる子はいなくて……実感としては10 人に１人。クラスに３人いるかな、みたいな。おうちがすごい汚れて、ゴミがあちこち散らばっていて、そういう見るからにこの家は大変だな、というのは３人ぐらいかな。だから３人に１人というのはちょっと〔Ｃ氏〕。

Ａ氏にとって子どもの貧困問題は「あまり知らない」「ピンとこない」問題であり、むしろ中退問題のみが印象に残っている。そこには、中退が貧困と関連している可能性についての認識をうかがうことはできない。また、Ｂ氏においても子どもの貧困問題は比較的過去に顕著なものだったと受けとめられている。Ａ氏・Ｂ氏両者とも、沖縄戦による壊滅的な打撃を受けた後の戦後窮乏・復興期の学校生活を体験していることが、現在の相対的貧困に対する認識にまさる戦後初期的・絶対的貧困像の印象の強さに影響を与えているものだろう。またＣ氏は、教育実践の力で子どもの諸困難を乗り切る姿勢を長く貫いてきたが、後に考えを改め「福祉につなぐ」必要性を実感することになる[10)]。退職世代にとっての子どもの貧困問題は、他の同時代的な教育問題群と比べいまだ顕在化せざるものだったと言ってよいだろう。

他方、現職世代の子どもの貧困認識はこれとかなり異なっている。ここでは、かれら教師たちの

目を通してあらわれる子どもの貧困の実態を見ていくことにする。

① 昼食費が捻出できない

給食のない高校段階になると、お金がなくてお昼ご飯が食べられない若者たちが目立ちはじめる。皆がみな「弁当箱パッと見て、色とりどりの野菜とか」〔D氏〕が入った食事にありつけるわけではもちろんない。ここで重要なことは、お金がないことが居場所の喪失につながることである（阿部 2011：118）。ランチタイムに食事をすることが「当たり前」の雰囲気の中、食事を用意できない場合はそこに居づらくなる、そのような若者たちが図書館などに放逐されてしまう、という問題が出ていることが指摘されている。

▲ **やっぱり弁当見て、買い弁……200円ぐらいとかで買えるんですよね。お母さんのいない子で、お昼はもう食べない。お金がないから。お昼は節約のために食べてないんだとか、あるいはほしくないという言い方をして、教室から離れてみんなが食べてるその時間は図書館行ったりとか〔D氏〕。**

▲ **これだけしか食べてないなとか、食事やお弁当を見たりする。何か気が付けば担任に伝えている〔F氏〕。**

▲ **図書館係をしている先生が、しょっちゅうお昼ごはん〔の時間〕になったら図書館に来る生徒がいるってことで、最初は本が好きかなって思って見てたんだけど、よくよく話とか聞いてみると、この、食事代金がないっていうことで。だからお昼は食べずに図書館にいるっていう子がいたっていうお話してましたね。〔1人で？〕個別なので、喋ることができたのかな、集団……でも何名かいつも図書館にはいたって言ってたので〔G氏〕。**

② 通学費が捻出できない

通学のためのバス賃が捻出できない問題が指摘されていた。E氏によって紹介された事例では、片道1,000円ほどかかるバス賃を「自分のアルバイト料で出している」のだが、足りなくなると通学ができなくなる。「すごい真面目な子で勉強も出来るんだけど、月に1回2回必ず休むんですよ」。また、G氏によれば、遠距離の通学路を徒歩で通うことで節約しているケースがあった。「バス賃がなくて、朝も1時間、帰りも1時間かけて歩いて」。

③ 医療費が捻出できない

虫歯の治療ができないことも子どもの貧困問題のあらわれとしてよく指摘される。「う歯〔虫歯〕の罹患率は所得の連続的勾配にしたがって悪化する、言い換えると所得格差が健康状態の社会的格差になっている」（武内 2016:71）。D氏は「よく〔貧困と虫歯の〕相関関係があるって言われるじゃないですか、最後に〔歯科医に〕行くっていう。〔生活が厳しい子が〕クラスで一番虫歯が多いですね」と述べている。また、「特にとてもこんなところが違うんだって気づいたのは、虫歯が、去年某小学校は6年生2人だけが虫歯で、あと全員〔虫歯がない〕。で、この二人も虫歯なしになったので〔治療状況に学校差＝地域差が大きい〕」〔I氏〕とも言われている。

④　授業料・校納金・部活費用などが捻出できない

子どもの在学中はどうしても学校に現金を納入しなくてはならない機会が出てくる。授業料や校納金の滞納、部活のための費用捻出不能、などの様子が現職世代教師たちの目にとまっている。「〔校納金が払えないのは〕校内に30～40名はいると思います。丸々１年間滞納しているとか、丸々２年滞納してるっていう子も２～３人ずついますので。普通に１回分をその場その場で払えていないっていうのは、50～60人になりますかね。１割ぐらいがそのときにさっとお金が出ない」〔Ｅ氏〕。督促の際は生徒への心理的配慮がなされる場合もある。「生徒には言わずチャンスをみて保護者に伝えるようにしている」〔Ｆ氏〕。「生徒も多分、居づらくなると思うんですよね、しょっちゅうしょっちゅう〔督促〕なので。……何かしら徴収金に関しては気を使います」〔Ｇ氏〕。

部活動への参加が疎外されている様子もうかがえた。「金銭的な余裕がないから部活に入れなかったりとか、っていうのがあって」〔Ｅ氏〕。「部活が盛んじゃないですね。先生とか部活もさせたいけど、バイトする子どもたちが多くて、部活盛んじゃないですね。だから、放課後静かな感じが」〔Ｇ氏〕。「やっぱり貧困、なんかとっても厳しいなっていうところの家庭は部活も入ってない」〔Ｊ氏〕。

沖縄でよくある慣行だが、クラスでオリジナルＴシャツをつくることがある。現職世代教師たちには、この出費に対する懸念と配慮もみられた。

▲　**家庭の事情が異なることを考えると、学級Ｔシャツを作るようなことは、あまりやりたくないのだけど、某高校では生徒の希望で学級Ｔシャツを作ることになった。この場合、保護者から「聞いていない」と言われて、親子間のトラブルになることがあるため、私の方から先に保護者にメールを打って連絡をいれていた〔Ｆ氏〕。**

▲　**学級Ｔシャツとかあるじゃないですか。私は賛成ではないんです。２校目３校目はやっぱり厳しかったので、こういったのも作らなかったので。某高校に来てからはみんなどのクラスも作ってるんですよ。私は厳しい家庭の子もいるから、どうかなと思って。別に体育着でも私はいいと思って話したんですけど、でも生徒たちは作りたいって言って。だから大多数作りたいって言って、あえて体育着とかにした場合、ひとクラスだけポツンと、それもなって思って、今年は作りはしたんですけど。学級でＴシャツをつくるとか、何かするってときには、ちょっと足踏みします〔Ｇ氏〕。**

⑤　服装・身なりの清潔さを維持できない

服装・身なりのあり方もまた貧困が目につきやすいものである。「アイロンかけられてないとか、制服が。とか、ちょっとやっぱり不潔、制服が毎日もしかして洗われてないかな、とか」〔Ｄ氏〕。「制服にアイロンが掛かっていなかったり」〔Ｆ氏〕。

▲　**しらみが駆除がされない。ずっと１年生から５年生になっても、この子のしらみ駆除をやってくれない。家庭ですかね。だからもうこの子ってみんなばれてしまっていて、これがいじめに。……マットも出来ない、プールもできない。で、なんとか担任はシャンプーとかで対応したりするんですけど、なかなかなくならない〔Ｈ氏〕。**

⑥　留年・中退・進学辞退など学費が捻出できない

留年や中退は貧困だけが原因ではないのかも知れないし、原因そのものがつかみにくい性質がある。しかし、はっきりとお金がないという理由で学校生活をまっとうできなかった、とする言及があったことは注視すべきことである。「校納金も全部完納して退学するんですけど、これがもうずっとずっとたまってて、〔学校を〕辞めたいんだけども、これが未納のため、手続きが進まないとかそうした状況がありました。学力も厳しかったですが、多分、家庭がとても厳しい状況で、勉強に集中できる環境じゃなかったっていう印象が強いですね」〔G氏〕。さらには大学入試に合格した後に入学金などが支払えないことが発覚し、進学を断念せざるをえないというやるせないケースがいくつも紹介された。

▲　**毎年いるんですよ。１人、２人。校長名で〔入学辞退の〕謝罪の手紙を書いて、申し訳なかったですって。……それが必ずいるので〔D氏〕。**

▲　**やはり生活保護世帯が多いということと、父子家庭、母子家庭が多いということ。だから、３年前に担任してたんですけど、大学合格したけれども、入学金が払えずに辞退。入学できなかったっていう生徒がいて〔E氏〕。**

▲　**大学に決まった子がいたんですよ、県外に。学校推薦で。まぁ、いい学校だったんですけど、結局学費が工面できないということで、流れたっていう事例もありましたね。……報告が進路部からあったんですけど、「それ以上深いことは聞かないで」っていうふうにおっしゃってたので。いろいろな背景はあったんだろうなと思いますね〔G氏〕。**

⑦　ひとり親世帯に生活困難が集中している

現職世代の教師達の多くが、ひとり親世帯のしんどさを実感している点も特徴的であった。とりわけ、教師にとって「母子家庭」というキーワードは貧困を認識する際の重要な指標になっているようにみえた。

▲　**これ〔貧困〕はもう、実感してます。……週刊誌に沖縄の貧困っていうのがいくつか記事があって。貧困家庭であるがゆえに、早婚、早く結婚して、旦那が働かないとか暴力をふるうということで、結局母子家庭になってしまったりとか〔E氏〕。**

▲　**両親が不在で、祖父母に育てられていた生徒がいた。母子家庭や父子家庭は多かった。もちろん頑張っている家庭もある。しかし、自分の生活で精一杯の家庭もあった〔F氏〕。**

▲　**保護者がひとり、お母さんだけど、ここ〔沖縄〕ではなかなか働いても収入が得られないっていうことで、県外に行っている。で、そこから仕送りをしてきてるらしいんですけど、それも少なくて、結局ここに残ってるきょうだいでアルバイトをしないと生活ができないということで。……結局この子は、朝５時半ぐらいにコンビニ、朝の時間帯やって、学校に来て、そして学校が終わった後、また夕方からのシフトに入るってことで、どうしても疲れも出るし、学校をだんだん来なくなってきたって、そういう事例もありましたね。……〔別の事例で〕母子家庭だったり。きょうだいがいるじゃないですか、お姉ちゃんが**

出したときの書類のときには両親揃ってたけど、妹のときにはお母さんだけになってるとかもあったので、ちょっとやっぱり気にしてしまうんですよ。だから、私は何かしら徴収するってときには、そうとう気を遣います〔G氏〕。

▲ **母子家庭のところ、ここはもう、逃げて出てきて。……もう朝と夜が全然逆転しちゃってて、全然もう学校に来れないところがあった。あまり学校来れてないんですよ。楽しくないんだと思います〔H氏〕。**

6．結論

以上にみてきた世代間比較の諸点（勤務時間・多忙感・貧困認識）をまとめたのが**表2**である。既に述べてきたことだが、今日の教師がますます多忙な状況になりつつあること、それは勤務時間の長さの中に示されていることが指摘できる。また、そうした中にあっても、現在の教師たちは子どもの貧困認識を深化・具体化させている様子もみられた。だが、C氏が「こういうこと〔福祉との連携〕は今の教師にはできないなと思って。忙しくて」と述べているように、今日の教師の多忙内容は子どもとのふれあい・関わりあい――それは子どもの貧困への取り組みを実践する上での基礎的な条件となるものだろう――を疎外する方向へと追いやっている。教師が教育の仕事に自信を持って取り組み、なおかつそれが十分な達成感を得られるような労働環境をどう構築するのか、という重要課題がある点は強調しておきたい。

▲ **いつまでたっても自信が持てない職業だと思います。よくわかんないけど、ＰＤＣＡやりなさいって言われることとか。制度的なものが自信のなさにつながってると思うんですけど。……働き方がまだ今分かってないんですよ〔H氏〕。**

また、今日の教師の過酷な労働環境にも関わらず、子どもの貧困という生活現実の方は過去よりも具体的で生々しい認識となっていた点は注目される。筆者は、調査に先立って「今日の超多忙化の中にあって、教師たちの子どもの貧困認識は退いているのではないだろうか？」などというやや短絡的な予想を持っていたのだが、それは実際とは大きく違った。教師たちには子どもの貧困がかなりの程度見えている。これは沖縄における子どもの貧困の深刻さを思わせる事実でもある。

子どもの貧困問題は、時代を問わず常に存在するものなのだろう。しかし近年の教育現場ではそれがはっきりと問題として浮かび上がってきていて、なおかつ教師らの間で関心も高まっており（盛満 2017）、学校で表面化する子どもの貧困に対し何らかの対応や工夫もなされているようになってきている（高石 2016：227-232）。従って今後重要なのは、教師がどのように子どもの貧困問題に取り組んでいくべきなのか、ということの論議の広がりと充実にあるように思える。今こそ教師が正面から子どもの貧困問題に本格的に向き合う時代にさしかかっている。そのためにも、教師のゆとりある労働条件の整備を急ぐ必要がある。

表２　退職世代・現職世代の対照性

	記号	勤務時間	多忙感	貧困認識
退職	A 氏	教務主任時代、明るいうちに家に帰ったことはなかった。勤務時間を超えて、薄暗くなるまで。しかし早い人は４時ごろからすすっと帰っていた。	現在の教員は大変。以前は夏休みなんか顔も出さないで給料もらっていた。今はその反動がきている。昔の教員は甘えすぎた。いろいろきついこともあったが、今のように時間にがんじがらめのようなことはなかった。	授業料未納者を掲示に書きだしたことがあった。収めた人は後で墨で消す。今で言う、新聞で貧困をそれなりに私もみるが、あんまり知らないしピンと来ない。
	B 氏	８時出勤で勤務は５時まで。その後部活の指導があり、冬は６時半まで、夏は７時半まで。ただ新人時代は５時半ごろには帰宅。	部活指導のため、時代に関わらずずっと忙しかった。	貧困はあった。しかし時代が古ければ古いほど貧困は多かった。今の時代よりも。私が勤務する以前の時代ではもっと貧困な人びとがたくさんいた。
	C 氏	出勤は７時 30 分の時もあるが８時をメドに。帰りは７時とか７時 30 分とか。	忙しかった時期は夜の夜中までバタバタ。その頃お金がないのにお手伝いさんを雇って夜のご飯を作ってもらっていた。授業がいつもあり、担任以外したことないから、もう忙しくない時はない。	市営住宅にはものすごい貧困の子がいた。福祉につなぐ必要があるが、今の教師には忙しくてできないだろう。貧困の割合は 10 人に１人程度だと認識されている。
現職	D 氏	早朝講座を担当しているので７時 15 分くらいに出勤。帰りは８時まで学校にいる。忙しいときは土日も出勤する。	最近はもう自転車操業ではなく一輪車操業。空き時間は授業の準備よりも雑用処理が多い。十年研などは重たい仕事である。夏季休暇は全くというくらいとれていない。仕事は本当に増えてきている。	経済的に厳しいっていうのはゼロではない。アメラジアンや外国籍の子、虫歯が多い子、アイロンのかかっていない清潔でない服装、買い弁または昼食抜き。
	E 氏	週２回早朝講座があり７時 30 分に出勤、それ以外は８時頃出勤。帰りは６時、７時ぐらい。	校内研・校外研が増えているので夏休みも２週間ぐらい研修がある。初任研と免許更新が重なるとまるでプライベートがない。	生活保護世帯、母子・父子家庭。校納金を滞納する生徒、部活に入れない生徒。
	F 氏	―	雑務が多くて時間がかかる。公文書類が多かったり、書類に沿ったデータが必要だったり、「調査」や「○○研究」のようなものがある。	母子・父子家庭。頑張っている家庭もあるが、自分の生活で精一杯の家庭もあった。生徒のことは学校でみてほしいという雰囲気。昼食抜き。
	G 氏	７時 40 分ぐらいに家を出て、８時から８時 10 分出勤。	特に４～５月までが忙しい。５月までびっしり行事等が入ってくるし三者面談とかも並行してやっている。	欠課時数や中退が多い。家庭がとても厳しい状況で勉強に集中できる環境じゃない。母子家庭。校納金の滞納。昼食抜き。子どものことは学校に任せたいという雰囲気。部活が盛んじゃない。
	H 氏	６時 45 分に家を出て、７時 40 分に出勤。子どもたちを帰してから職員室に戻るのがだいたい４時。帰りは７時、８時ぐらい。	自分自身が学ぶ時間がなく、子どものことを考える余裕もないため、いつまでたっても教師として自信が持てない。学テ対策、学校訪問など。子どもの前にいなくて、パソコンの前にひたすらいる。	徴収金がずっと未納の子がいる。ひとり親世帯、若い親の世帯、きょうだいが多い。
	I 氏	５時半に起き、６時半には出勤。７時半から子どもと対話。４時に授業が終わり、６時半ごろに終業。しかし遅いときは８時半まで。	学年でやる作業がとても多い。今学校が算数に力を入れているので週一回ミーティングがあって、その一週間、教材づくりなどに時間をとられて、退出が８時を超えるときも。学年会がほぼ毎日ある。	生活が厳しいのは、団地とか古いアパートなどに住んでいる子たち。貧困を感じるのは、虫歯の治療状況や保護者の授業参観率、進んでいる地域とそうでない地域の格差が大きい。
	J 氏	７時に自宅を出発、40 分少々かけて出勤、８時前には学校に到着。低学年担当だが６時間目まで勤務する。	いつも１学期が忙しい。学級開きやネームプレート、学級通信の作成など。初任研から、二年研、三年研まであって、毎年授業を見せないといけないことが、とても疲れた。	裕福なところはけっこう勉強に力を入れるので、習い事とかもやってる子も多かった。塾、公文、算盤。とっても厳しいなっていう家庭は部活に入ってない（用具が買えない）、習い事なんてしてない。で、学力もそんなに高くない。要保護とかもいた。

注

1）調査時点における退職・現職という世代区分の仕方はもちろん便宜的なものではある。しかし結果的には1990年代後半に訪れる階層的分断による貧困問題の再浮上（上間2009：151-155）や各種の教育荒廃、国家による教師・学校への攻撃（久冨2017：132-133,139-143）がなされるようになるという時代変化をめぐっての対照性をある程度は映し出すものとなっているように思われる。

2）最近発表された2015年度における日本全国の子どもの貧困率は13.9％とされている（厚生労働省2017：15）。

3）本調査研究は、科学研究費助成事業を受けた共同研究「沖縄における貧困と教育の総合的調査研究」（研究代表者上間陽子、課題番号26381136）の成果である。

4）質問項目の作成にあたり、山崎鎮親（2014）による教員調査研究の調査項目を参考にした。

5）現在の子ども・若者たちの間では、相互の人間関係・ポジショニングをめぐって多大なエネルギーが注がれるようになっている（長谷川2013：132-139）。教室内で形成されるカースト構造は、「なぜだかよくわからないけれど強い立場にいる児童生徒と、なぜだかわからないけれど弱い立場にいる児童生徒のような関係性」（鈴木2012：64）、あるいはまた、「現代のいじめは典型的な『いじめっ子』やガキ大将だけが起こすものではない……どの子が『いじめっ子』であり、どの子が『いじめられっ子』となるのかは、児童・生徒の日常の行動系列から予測できなくなっている」（森田・清永1994：56）などの指摘にみられるように、現代の子ども・若者の人間関係のありようは了解不能性が高くなっているのが特徴的である。

6）**1．**で先行研究を引用する形で触れたように、貧困の真の深刻さは、教師にとってヴェールに遮られたままとなりやすい（例えば本インタビュー調査では、「生活保護受けてるんですね。お母さん。若いんですけど仕事しないんですよ。汗水流して働くことにもう全くもう〔無頓着〕」「むしろ先生たちの中では、要保護とかの方がお金持ってるね、みたいな話はありました」という厳しめの回答が現職世代教師の中にみられた）。山崎鎮親によれば、教師の世界では、子どもの貧困や低学力といった経済的・文化的な「不足」が、「素朴・純粋・幼さ」というポジティブな像へと読みかえられる構図が過去にあっても現在の格差社会下にあっても存在していることを明らかにしている（山崎2014：355-356）。これは教師の持つヴェールの一形態として理解することができよう。ただ、本文でみたような、生徒とのある種・ある程度の距離感を持ち得る教育関係自体は、教師が教育実践を円滑に進める上での重要な条件の1つでもあるように思える。

7）例えば今日では週案提出が当たり前のことになっているものの、かつてはこれを教育現場への過剰な管理・自律性への侵害と受けとめる主張があったことは記憶にとどめておく必要があるように思える。「週案にみられる問題は、問題自体としては教師の実践におけるオートノミィと学校における教師集団の計画、それをとおしての学校のオートノミィの形成という基本的課題をふくみつつ、現象としては、きわめて管理的な今日の学校教育の体質的病理を示しているのである」（稲垣1976：140）。

8）勝野正章は、夏季休暇中に「学校として研修を計画することもありますが、学校全体の方針が重視されすぎて、個々の教師の主体的な研修の余地がほとんど残らないとしたら、これも問題でしょう……そのような研修が子どもたちの利益になるものかどうか、根本的なところから検討できる自律性が必要だと思います」と述べている（勝野2014：19）。

9）このような個人化された状況は教師間の関係についても同様にあらわれている。「若い頃、20代30代の頃って、やっぱり耳に痛いことをしっかり言ってくれる先輩たちがいたんですよね。これはだめだよ、Dさんとか。今少しその辺が減っているっていう気がするんですよ。だからまぁ、私みたいなのをうるさいなぁみたいな、あまりつきあいたくないな、ていう存在かも知れないなと思うんですけど、そういう意味で、違うとかおかしいとかって言う時にきちんとこう言える、退職するまでそれは言い続けようかなと思ってます」〔D氏〕。

10）例えば次のようなケースは貧困問題を解決に導くというよりも貧困を顕在化させない対応と言える（盛満2011：285-287）。「『先生、お金貸して下さい』って言うのよ。びっくりして。『そんなことはできませんが』って言って、もう、貸さないから、『これで何か子どもにおやつでも』って一万円あげたの。〔本当は〕何十万か貸してほしかったんだろうけど。『私ができることはこれだけです』って言って。最後やっぱりね、また赤ちゃんが生まれて、水道も電気も切られたって、引っ越していった」。後にC氏は福祉との連携に取り組

むようになっていく。

参考文献

阿部彩（2011）『弱者の居場所がない社会――貧困・格差と社会的包摂』講談社現代新書。

浅野誠（1993）「『休』を『教える』――『休』にとまどう学校のために」全国生活指導研究協議会編『生活指導』459、1993年8月。

原田真知子（2001）「『悪ガキ』たちとともに」全国生活指導研究協議会常任委員会編『暴力をこえる――教室の無秩序とどう向き合うか』大月書店。

長谷川裕（2013）「いじめの理論――社会学的視点からの原理的考察」教育科学研究会編『いじめと向きあう』旬報社。

本田由紀（2009）『教育の職業的意義――若者、学校、社会をつなぐ』ちくま新書。

今関和子（2009）『保護者と仲よくする５つの秘訣――子どもの生きづらさ、親の生きづらさに寄り添う』高文研。

稲垣忠彦（1976）「週案と教師のオートノミィ」『季刊教育法』総合労働研究所、19、1976年4月。

岩川直樹（2007）「顔を奪うシステム――全国一斉学力テストの忌まわしき作用」岩川直樹・伊田広行編著『貧困と学力』（未来への学力と日本の教育８）明石書店。

勝野正章（2014）「夏休みを前にして、Wさんへの手紙」教育科学研究会編『教育』かもがわ出版、822、2014年7月。

木村元・松田洋介（2011）「高度成長期の社会と教育」橋本紀子・木村元・小林千枝子・中野新之祐編『青年の社会的自立と教育――高度成長期日本における地域・学校・家族』大月書店。

厚生労働省（2017）「平成28年度国民生活基礎調査概要」（2017年6月27日発表、p.15表10）http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/dl/16.pdf〔2017年7月30日閲覧〕

久冨善之（1990）「教員文化の社会学・序説」久冨善之編著『教員文化の社会学的研究＜普及版＞』多賀出版。

――――（1993）「学校から見えるヴェール一重――教師・学校にとっての生活困難層」久冨善之編著『豊かさの底辺に生きる――学校システムと弱者の再生産』青木書店。

――――（2017）『日本の教師、その12章――困難から希望への途を求めて』新日本出版社。

盛満弥生（2011）「学校における貧困の表れとその不可視化――生活保護世帯出身生徒の学校生活を事例に」日本教育社会学会編『教育社会学研究』88。

――――（2017）「子どもの貧困に対する学校・教師の認識と対応」教育と医学の会『教育と医学』2017年3月。

森田洋司・清永賢二（1994）『新訂版いじめ――教室の病い』金子書房。

中澤篤史（2014）『運動部活動の戦後と現在――なぜスポーツは学校教育に結び付けられるのか』青弓社。

――――（2017）「顧問教師の戦後と現在――なぜ教師は部活動にかかわるのか」『季刊教育法』エイデル研究所、189、2016年6月。

沖縄県（2016）『沖縄県子どもの貧困対策計画』2016年3月。http://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/kodomomirai/seishonen/kosodatec/documents/okinawakenkodomonohinkontaisakukeikaku01.pdf〔2017年7月30日閲覧〕

鈴木翔（2012）『教室（スクール）内カースト』光文社新書。

武内一（2016）「子どもの健康への影響」松本伊智郎・湯澤直美・平湯真人・山野良一・中嶋哲彦編著『子どもの貧困ハンドブック』かもがわ出版。

高石啓人（2016）「教師の貧困家庭対応研究――子どもの権利保障に着目して」子どもの権利条約総合研究所編『子どもの権利研究』27。

戸室健作（2016）「資料紹介　都道府県別の貧困率、ワーキングプア率、子どもの貧困率、捕捉率の検討」『山形大学人文学部研究年報』13。

上間陽子（2009）「貧困が見えない学校――競争の時代区分で見る学校から排除される子ども・若者たち」湯浅誠・冨樫匡孝・上間陽子・仁平典宏編著『若者と貧困――いま、ここからの希望を』明石書店。

綿貫公平（2012）「『中学校と地域』の自分史――一九九八～二〇一二年」竹内常一・佐藤洋作編著『教育と福

社の出会うところ――子ども・若者としあわせをひらく』山吹書店。
山崎鎮親（2014）「教師からみる子どもたちの学校体験：『他者化』の視線を中心に」長谷川裕編著『格差社会における家族の生活・子育て・教育と新たな困難』旬報社。
湯澤直美（2016）「沖縄子ども調査結果に関する考察」『沖縄子ども調査　調査結果概要版』（沖縄県からの業務委託により一般社団法人沖縄県子ども総合研究所が 2015 年 10 月～ 11 月にかけて調査を実施）2016 年 3 月 25 日。http://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/kodomomirai/documents/okinawakodomotyousagaiyouban.pdf〔2017 年 7 月 30 日閲覧〕

Ⅳ　委　員　会　等

◇公開講座専門委員会

●第１回 地域連携推進機構生涯学習部門公開講座専門委員会

開催日時：平成 28 年 10 月 28 日（金）10：30 ～ 11：40

開催場所：事務局　大会議室

議　　題 (1) 平成 28 年度公開講座事業報告について

(2) 平成 29 年度公開講座事業計画について

●第２回 地域連携推進機構生涯学習部門公開講座専門委員会

開催日時：平成 28 年 12 月 20 日（火）16：30 ～ 18：45

開催場所：事務局　大会議室

議　　題 (1) 平成 28 年度公開講座事業報告について

(2) 平成 29 年度公開講座事業実施計画について

◇北陸地区社会貢献系専門委員会

●平成 28 年度北陸地区国立大学連合協議会社会貢献系専門委員会

開催日時：平成 28 年 12 月 19 日（月）14:00 ～ 15:20

開催場所：金沢大学　サテライト・プラザ

議　　題 (1) 平成 28 年度まちなかセミナー実施報告について

(2) 平成 29 年度社会貢献系専門委員会事業計画について

◇全国会議

●全国国立大学生涯学習系センター研究協議会と文部科学省との意見交換会

開催日時：平成 28 年 7 月 11 日（月）15:00 ～ 17:10

開催場所：文部科学省生涯学習政策局会議室

議　　題　文部科学省からの行政報告、協議会からの報告、意見交換

●第 38 回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会

開催日時：平成 28 年 9 月 26 日（月）～ 27 日（火）

開催場所：香川大学幸町キャンパス（当番校：香川大学)

全体テーマ　地域と協奏する大学　～地方国立大学法人の地域貢献～

１日目

記念講演、フォーラム「教育・学習を軸とした『大学の地域連携』」（パネルディスカッション）、総会、全体会

２日目

分科会、全体会（分科会成果報告、全体討論会）

◇富山大学生涯学習推進懇話会

日時　平成 29 年 3 月 10 日（金）9:58 ～ 11:33

場所　富山大学事務局　大会議室

主催　富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

趣旨　富山大学生涯学習推進懇話会要項に基づき、学外有識者から意見を聴き、多様化・高度化する学習状況や地域のニーズに対応した効果的な学習事業を提供し、生涯学習事業をより円滑に推進するとともに、その実施状況について評価を受けるため開催する。

出席者

委員

齋藤　幸江　（富山県教育委員会生涯学習・文化財室長）
山﨑　弘一　（富山県民生涯学習カレッジ学長）
中西　　彰　（富山県生涯学習団体協議会会長）
松井　治伸　（日本放送協会富山放送局局長）
中道　文夫　（富山市市民学習センター所長）
水野　　清　（北日本放送（株）常務取締役業務本部報道制作局長）
勢藤　和弘　（（株）北日本新聞社取締役編集局長）

富山大学

遠藤　俊郎　（学長）
鈴木　基史　（地域連携推進機構長　理事・副学長（地域貢献担当））
森口　毅彦　（地域連携推進機構生涯学習部門長）
藤田公仁子　（地域連携推進機構生涯学習部門副部門長）
仲嶺　政光　（地域連携推進機構生涯学習部門准教授）
平野　茂一　（研究振興部長）
蔵川　一正　（研究振興部社会貢献課長）
日水　　栄　（研究振興部社会貢献課係長）
藤井　秀春　（研究振興部社会貢献課主任）

1．開会の辞

富山大学地域連携推進機構の生涯学習部門長、森口毅彦氏より、以下の挨拶があった。

地域連携推進機構生涯学習部門は、前身である生涯学習教育研究センターの開設から数えて 20 年の節目を迎える。先日は開設 20 周年記念式典と、映画監督の本木克英氏を講師に招いて記念講演会を行った。この 20 年間で大学が果たすべき地域貢献の役割はますます大きくなっており、生涯学習の在り方も変わってきている。今後の生涯学習活動の充実に向けて忌憚のないご意見を賜りたい。

続いて、地域連携推進機構長、理事・副学長の鈴木基史氏より、挨拶があった。

2．出席者の紹介・資料確認

3．座長選出

富山県民生涯学習カレッジ学長の山﨑弘一委員が座長に選出され、挨拶があった。

4．議題

(1) 平成 28 年度生涯学習部門事業・活動報告について

(2) 富山大学生涯学習の在り方についての評価と提言について

議題（1）において、森口生涯学習部門長より、生涯学習部門平成 28 年度事業の概要について報告があった。

続いて、仲嶺准教授より、公開講座の実施状況とオープン・クラスの受講生アンケートの結果についての報告、「富山大学と富山県立小杉高等学校との高大連携事業」「北陸 4 大学連携まちなかセミナー」の実施報告があった。

藤田生涯学習部門副部門長より、「富山大学サテライト講座」の実施状況、講師紹介等の実績、「生涯学習部門受講生オープンサロン・アカデミールーム」について説明があった。

森口生涯学習部門長より、生涯学習部門開設 20 周年記念事業、「富山大学市民講座 2016」「キャリアデザイン講座」の実施報告と、平成 29 年度事業計画についての説明があった。

議題（2）において、藤田生涯学習副部門長より、次年度へ向けての取り組みとして、アカデミールームの設置やリピーター向けの講座設定について説明があり、生涯学習成果活用のための新しい取り組みの方針が示された。

6．閉会の辞

遠藤俊郎学長より、以下の挨拶があった。

今、大学がどうあるべきかがとても問われている。今日は皆さま方からいろいろなご意見を頂いた。平均寿命が非常に長くなり、より豊かな生活を求めてさまざまなことを考える時代になっている。一言で言うとそれが生涯学習になるのだが、多様性のあるものをどう生かしていくのか、皆さまとご相談しながら、より良いものを目指していきたいと思う。

生涯教育もスポーツも、文科省の所管である。生涯教育はスポーツと似ているところがあり、いかに参加型で、かつ教えられることを楽しみながら、自分もそこで何を発揮するかが問われていると思う。生涯教育はこれからも大きな課題となるが、またよろしくお願いしたい。本学のメンバーが一生懸命頑張ってくれていることは学長としてよく分かっているし、大学が過渡期に何をすべきかを模索していることも事実だと思う。また、皆さま方のお知恵を拝借しながら取り組んでいきたい。

意見交換

⑴　平成 28 年度生涯学習部門事業・活動報告について

（勢藤委員）　ダイレクトメールは、どのような方々を対象に送っているのか。

（大学側：仲嶺）　基本的に公開講座や公開授業の受講者である。サテライトに来ていただいた方々には直接、プログラムやチラシのようなものを送っている。

（大学側：藤田）　本学の事業に参加した方に名前と住所を書いていただいている。サテライト講座の場合、1 回参加した方でも案内を差し上げるようにしている。

（勢藤委員）　延べ人数でどれぐらいか。

（大学側：日水）　公開講座であれば、過去 3 年ほどの受講生にお送りしているので、600 ～ 700 人ではないか。リピーターの方も多いので、実数ではその程度だと思う。オープン・クラスも 300 ～ 400 人は送っていると思う。サテライト講座は毎年 600 ～ 700 人の受講生がいるので、リピーターを合わせると恐らく 400 人は送っているのではないかと思う。

（山﨑座長）　サテライト講座は 8 学部 8 人の講師でやっているが、会場があふれ返るほど受講生が集まっている。400 人ほどしかまいていないのに、それだけ集まっているということか。

（大学側：藤田）　公開講座も同様、A4 判のチラシを出しているので、それを見て参加される方がとても多い。

（水野委員）　どこに置いているのか。

（大学側：藤田）　人の集まる所を中心に、県民カレッジにもご協力いただき、市民学習センターにも置いていただいている。

（勢藤委員）　富山市の受講生が際立っている。

（大学側：藤田）　県民カレッジの高岡地区センターなどにも置かせていただいている。ただ、冬季や雨の日は、足を運びやすい近場の人が中心になっていると思う。従って、講師紹介事業で大学が出向く形で、いろいろご協力させていただきたいと考えている。

（山﨑座長）　県民カレッジは県内 4 地区にセンターを持っており、全てにチラシが置いてある。その他にも「とやま学遊ネット」があり、連携講座については全て登録して情報を流している。

（中西委員）　ダイレクトメールについていえば、今までの参加者の範囲内ということだった。新規開拓は難しいのだろうが、大学で把握している以外のところにもダイレクトメールが届くように工夫されてはどうか。

それから、新事業のキャリアデザイン講座は２校で実現したという話だったが、その成果と、生徒や担当教諭の受け止め方を伺いたい。次年度以降、打ち合わせをする学校を増やす予定はあるか。

（大学側：森口）　成果は正直なところ、つかみかねている状況である。取り組みが始まったのが遅かったこともあり、打ち合わせが８月ごろになった。８月ごろは高校では既に年度内の予定が決まっている状況で、新規で実施することがなかなかできなかった。そういう状況で、別の行事とのタイアップの形で、南砺福野高校と高岡南高校の２校で実施させていただいた。

南砺福野高校では、いろいろな職業の方を招いて話を聞く「進路セミナー」の中で時間を頂いた。大学の先生の仕事はこういうものであるという紹介だったため、目的が少しずれていたので、その点ではわれわれがやりたかったことがなかなかできなかった。それでも、高校生の皆さんは興味を持って聞いてくれていた。ただ、それがわれわれの望むとおりに、富山大学への進学に結び付き、最終的に地域に定着してくれるかというと、成果としては計りにくい面がある。この辺も今後の課題であり、やりっ放しではいけないと思うので、高校生の皆さんがどのような形になっていくのかということを計っていくような指標も考えなければならない。

来年度は、高校を中心に回ることも考えている。高校生の皆さんに話をすると同時に、保護者にもそのような話をして理解を頂き、将来の進路について家族で話し合うことによって、進路に関して地元志向が出てきて、将来的に地域活性化にも結び付く取り組みになっていくのではないかと思う。来年度はもっと力を入れて、新しい視点で活動を進めていきたいと考えている。

（大学側：鈴木）　その点では、COC+ で学生の地元定着を推し進めている。県内の学生が減っている中で、地元に定着させることは非常に難しい。他県に行った学生に戻ってきてほしいと思うのは当然であると同時に、富山に残る学生の多くは、富山大学のみならず富山県の高等教育機関を出た学生が中心である。

一方で、今は地方創生が叫ばれている。東京で大学の定員を増やすな、なるべく地方の大学に入れさせろという動きがある中で、われわれ富山大学としては、どのような分野が得意で、どのような特徴のある先生がいるのかをよりアピールし、理解してもらわなければならない。偏差値での輪切りではなく、富山大学は入りやすいけれども他の大学よりも良かったということもある。そのようなことも含めて理解を進めることが大切である。

従って、キャリアデザインでは、この大学に入ったら、このような進路に行くことができるということを広く伝えていくことが非常に重要である。県全体として、地方創生の問題として考えていかなければならない。その一つとして、生涯学習部門も高校に出向いて、いろいろな選択肢を勧めていかなければならない。富山大学でも名古屋受験や関東受験を進めている。こ

れはいいことでもあるが、逆に非常に難しい面もある。だから、地方の国立大学の役割は非常に難しいところがある。

（2）富山大学生涯学習の在り方についての評価と提言について

（松井委員）　今の大学は本当に忙しいというのが率直な感想である。私の大学時代、先生たちは何をしていたのだろうと思うと、適当に学生に教えて、あとは自らの道を歩むというある種の象牙の塔に入っていたのではないかという感じがあり、非常に隔世の感がある。

幾つか思ったことがあるので、まとめて言う。オープン・クラスは大学生と一緒に学ぶというものだったが、人数を見るとどうしても１クラス１人から数人になると思う。一般の方々が大学へ行きたいというのは、きっと学生時代の気持ちを味わいたいという理由もあるのではないかと思う。その点で、現役の大学生と触れ合う機会を作ることが、大学生にとっても非常に刺激になるのではないか。単一の集団にいて、大学という限られた空間にいて、キャリアを積んだ年配の人やいろいろな仕事をしてきた人といろいろ話してみることはとても重要なことではないかと思う。

従って、いろいろな形で来られた方と学生が話せる機会を、授業の中でもいいのでつくっていくことはお互いの刺激になって良いのではないか。公開講座とオープン・クラスの違いは、恐らくそこにあるのではないかと思う。学生にとっても有用な授業を進めることは難しいと思うが、そのようなことを行ってはどうかと思う。

二つ目に、NHK の番組「ブラタモリ」と「探検バクモン」が人気である。両方とも大変ためになった気がして、しかも面白く、敷居が高くなくて、知的好奇心を満たしてもらえる。これは、まさに大学の役目と同じだと思う。その点で、大変かもしれないが、例えば富山にはこういう魅力がある、こういう知られざる所がある、知らないけれども聞くと面白いといった講座を開いてはどうか。富山にこだわるのであれば、タモリさんが番組でやっているようなフィールドワークも含めてできないものか。このときは先生方の力だけではなかなか難しいので、場合によってはいろいろな事業所や自治体、企業などとうまく連携すると面白い講座ができるかもしれない。世界遺産のプログラムも拝見したが、あのように例えば神通川を回るような形の講座があってもいいと思った。大学の知的な財産も生かしつつ、地元とも連携しながら、地元の魅力を掘り起こすことができるのではないか。

三つ目に、先生方の中に 50 年後、100 年後のことも考えて研究している方もいていただきたいと思っている。今の大学のことを分かっていないと言われるかもしれないが、だからこそ言いたい。今の時代をどう生き残るか、今の時代をどうレイアウトしていくかを考えることも大事だが、だからこそ 50 年後、100 年後のことを見据えて、自分の研究を貫き通す先生方が何人かいてもいいのではないかと思う。かつての象牙の塔のようなことをしろとは言わないが、このような時代だからこそ、そういう先生方の存在は尊いのではないか。

これらの取り組みについては、本当に頭が下がる思いである。皆さんが一生懸命取り組んでいることが地域の活性化にもつながるだろうし、われわれマスコミもきっちりと伝えていかな

ければならない。その点で連携をぜひさせていただきたいと思う。

（山﨑座長） オープン・クラスに関しては、公開できない科目もたくさんある中で、公開できるであろう科目のうち半数以上を目安にして、前後期計800科目で実施している。

また、県民カレッジでは、高校の授業を開放して、共学講座というものを地区センターで開いている。希望がとても多く、大学の授業とは全く違うが、毎年1000人程度が受講している。学生と一緒になって、たまに学生をしかってみたりしながら、お互い良い影響を与えながら学習していると聞いている。

（中道委員） 富山市の市民学習センターでは、富大や県民カレッジと同じように生涯学習の授業を行っている。当センターは、富山市に在住あるいは勤務している方々を対象にしており、定員で約4100名を募集している。今年度は3368名で、約8割に達している。一番の問題は、活動を市民や県民に知らせることがとても難しいということである。ただ、富山市には広報誌があり、特にお年寄りは必ず読まれるので、当センター受講者の86.4%は広報を見て応募したと言っている。だから、当センターでは広報誌だけでPRしていて、多くの方に来ていただいている。

最近の傾向を見ていると、完全に高齢者の方が中心で、平均年齢は70歳である。しかし、39年前の初年度は平均年齢が50歳で、20～30代のサラリーマンも知識を得るために来ていた。今は最高齢で96歳の方が来られているが、その方に聞いても「人生の楽しみである」と言っている。

大学からも講師に来ていただいており、大変魅力があり、人気講座がたくさんある。当センターの講師は161人いるが、6分の1は富大の先生方である。その中で、特に歴史関係はとても人気がある。もう一つ富山大学の先生方にお願いしているものに、郷土の環境に関する講座がある。しかし、講座の中に「これから」「未来」という言葉を入れた途端に受講者が減った。70代以上の方に「未来」や「これから」のことを言われても、私たちに関係ないと言われて困ったという話を聞いた。そのような中で、聞くことを楽しみにしておられる。

受講者は減ってきているが、当センターでは郷土を学ぶという大きな目的があるので、来ていただいた先生方には申し訳ないと言いながら、一生懸命お話ししていただいている。しかし、毎年ずっと来ている受講者には「楽しい」と言っていただいている。富山大学の先生方が当センターでやっている講座には相当な人数が来ているので、大変素晴らしい連携をさせていただいているが、募集の難しさをとても感じている。

（山﨑座長） 講座の時間帯の問題もあると思う。日中であれば、どうしても高齢者中心にならざるを得ない部分があると、県民カレッジを見ていて感じている。土日開催がいいのではないのかという話もしている。その中で、公開講座とオープン・クラスを初めて受けた人が3割近くいることは評価できるのではないか。必ずしもリピーターが多いわけでは決してないという気がした。

（齋藤委員）　昨年と比べて幅広く開講されていて、受講者のニーズに応えていると思った。初めて参加される方が28％で、新しい受講者も開拓していて本当に素晴らしいと思う。

それから、高大連携やキャリアデザイン講座もありがたく思う。アンケート結果を見ると、富山、高岡の受講者が多いので、遠くの市町村からも受けたいという方が増えるように広報を工夫するといいと思った。キャリアデザイン講座では成果をつかみかねているということだったが、富大も数十年前と比べるといろいろな形で生涯学習の展開があるし、COC＋で県内学生が地元に定着するようになればいいと思っている。この後ももう少し検討されるということなので期待したい。

（勢藤委員）　私もこれだけ多くの講座が用意されていることに驚いた。私たちが大学に入った頃は「鬼仏表」のようなものが配られて、どの教授が鬼で、どの教授が仏かというのを見ながらコマを埋めていた。その点で、公開講座も受けてみないと講座の生き生きした感じが伝わってこない。公開講座もオープン・クラスも、私たちからすると随分堅い印象がある。サテライト講座などは随分いいチラシがあって、中身に関心を持てるので、公開講座などももう少し面白い紹介の仕方ができればいいと思う。

まちなかセミナーなどは選挙制度や憲法、民主主義など時事性があっていいが、できれば公開講座にも現代性や時事性が織り込まれた紹介があると、行きたい気持ちが強まると思う。

若い人がなぜ東京へ行きたがるかというと、東京でしか見られない興行があるからなどという理由が多いが、興行であればお金を出せば行ける。本当に求めているのは、コアな趣味の友達や会話が弾む仲間であり、富山県内ではなかなか見つからない。東京に行くと、ものすごく細かいニッチ（隙間(すきま)的）なジャンルでも愛好者がたくさんいて、そこで好きなだけ話をすることで自分が解放されるという魅力が大都市圏にあると思う。

できれば、そのような隙間的な分野でかなり専門的な内容でも人々が集まり、若者に限らず交流できる機会やオープンサロンのような場があるといい。一方的に聞く座学だけでなく、終わってからも先生が入って、学んだことをぶつけ合ったり、好きなものについて語り合ったりできるような時間・空間を提供できるといいのではないか。

高校生に伝えるときも、座学で終わるのではなく、終わってから先生や学生が、大学の会話はこんなに大人なのか、こんなにいろいろなことを知っている人がいるのかということを感じられる場をつくれば、大学生活に夢を持って来てもらえると思う。そのような時間・空間をうまくコーディネートできる先生がいるといいのではないかと思った。

（水野委員）　世の中は働き方改革といわれ、大学の先生は全て結果や効率を求められている。大学だけはそういうところから除外されなければならないのに、そういう現実を見ると非常に同情する。生涯学習部門も、もう少しめりはりを付けて、絞るところは大胆に絞っていった方がいいのではないか。大学はまさにポピュラー化、スター化が進んでいる反面、知の権威でもある。このようなアンチテーゼ主義の時代なので、そういう部分がなければ今のままでは日本の将来は不安である。その点でもう少し絞り込んで、人気商売の部分は人気商売に徹し、アカデミズ

ムにしかできない部分とのめりはりをはっきり付けて、そのいずれも同じ富山大学というブランディングをして、その中で構成していくことが必要である。

例えばＥテレで放送しているマイケル・サンデルの「白熱教室」のような講義を動画サイトに上げて、富山大学から発信し続けていけば、先生が毎週出ていく必要もない。さらに、アンケートを取って、資料を作って、役所に出すという手間をできるだけ省くことも求められる。私どもメディアを活用する部分と、直接学生と一緒に取り組む部分のめりはりを付けて、年ごとに各カリキュラムを分けてやった方がいいのではないか。

（中西委員）　サテライト講座のサテライトは「衛星」なので、七つ、八つあってもいいような気がする。一つだけでは、地球にとっての月ぐらいにしか見えない。通常、県内を大ざっぱに４地区に分けるが、各地区にそういう拠点が必要ではないか。既存の学校やカレッジセンターが幾つかあるので、それらを利用してはどうか。現在、８学部１人ずつが担当しているということなので、講座を充実させることを考えてもいいのではないかと思った。

（山﨑座長）　本日、皆さま方から頂いた貴重なご意見が今後の大学の生涯学習事業の円滑な推進と拡充の参考になれば幸いである。

V　事業報告資料

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門平成 28 年度事業

① 公開講座

幅広い年代の一般市民を対象に，多様なテーマで，数多くの講座を開催している。本学の教育・研究の成果を広く社会に開放するとともに，体系性のある独自のカリキュラムを開発・提供することにより，地域社会の文化水準の向上に資することを目指している。

② オープン・クラス（公開授業）

各学部及び教養教育が開設している授業を一般市民にも公開している。高度な生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに，学習機会を広く地域住民に提供し，本学と地域社会との連携を深めている。

③ 高大連携

覚書に基づき，富山県立小杉高等学校の生徒を本学の正規授業へ受入れている。修了した生徒には高等学校から単位が認定されるなど地域の教育機関との連携を深めている。

④ まちなかセミナー

北陸にある国立大学４校が連携して行っている。自大学の教員をコーディネーターとし，他大学の教員を講師に迎え，一般市民を対象としたセミナーを開催している。

⑤ サテライト講座

富山駅前 CiC にて，一般市民を対象に８学部の教員がそれぞれ講師を担当し，年８回の無料講座を開催している。

⑥ 生涯学習部門開設 20 周年記念講演会

生涯学習教育研究センター設立から数えて 20 年の節目を迎えるあたり，記念式典及び講演会を開催した。

⑦ 富山大学市民講座 2016

８学部１研究所を擁する総合大学である本学の研究者たちが，交代で１つのテーマについて体系的・学際的に紹介していく無料講座（３回シリーズ）として，読売新聞北陸支社と共催で開催している。

⑧ キャリアデザイン講座　【新規事業】

若者の地元定着率向上を目指す COC+事業の一環として，県内高校生に地元の大学への進学，地元の企業への就職を意識し，富山で働き暮らしていくことのイメージを持ってもらうことを目的に実施している。

⑨ その他

- 講師紹介・生涯学習相談

学外からの講演会・研修会等のための講師派遣依頼に応じて，本学教員の紹介をおこなっている。講師の選定とともに，企画段階でも学習（研修）プログラム作成に協力している。

- 地域との連携

富山大学と地域との連携を一層進め，地域課題について相互理解を深めるとともに，各自治体等と協働して事業を企画・実施している。

- 生涯学習部門受講生オープンサロン及びアカデミールームの整備

オープン・クラス，公開講座の受講生の方などが，自習・相談・休憩できるスペースとして，オープンサロン及びアカデミールームを整備している。

富山大学公開講座実施状況一覧

平成29年3月10日現在

開設年度	講座数	開設時間数	募集人員	延受講者数	修了者数
	講座	時間	人	人	人
平成元年	5	109	275	91	52
2	3	53	115	97	71
3	3	55	125	125	75
4	5	95	165	160	92
5	7	110	180	152	122
6	12	173	360	256	165
7	12	211	320	278	228
8	9	121	270	287	220
9	13	176.5	430	302	260
10	13	168.5	355	284	255
11	13	178	360	308	261
12	16	192	472	353	324
13	38	443.5	1,013	575	528
14	43	526.5	1,045	542	497
15	44	528.5	808	708	660
16	36	418	645	571	526
17	43	574.5	776	518	476
18	68	1,063	1,177	878	814
19	68	987	1,198	774	726
20	78	1,151.5	1,474	999	856
21	80	1,297	1,226	934	826
22	74	1,204.5	1,290	847	741
23	81	1,306	1,344	885	777
24	86(3)	1,425.5(37.5)	1,434(58)	1,003	895
25	74(3)	1,356(27)	1,112(36)	691	576
26	71(8)	1233.5(140.5)	1095(90)	659	452
27	71(7)	1,168(69.5)	1,237(112)	678	595
28	70(1)	1,311.5(12)	1,057(15)	707	612

( )内は、中止講座の講座数、時間数、募集人員数

平成28年度公開講座一覧

平成29年度3月10日現在

◆教養講座

□は後期分

No.	ジャンル	講座名	実施責任者	開設期間	受講対象者	開設時間	募集定員	受講者数 男	受講者数 女	受講者数 計	修了者数	備考
1	教養	心のはたらきを考える-心理学的アプローチ	黒川 光流	4/23～7/23（13:30～15:00）	一般市民	15	30	10	19	29	17	
2		変体仮名を学んで『古今和歌集』を読もう	樋野 幸男	4/20～7/20（18:00～20:00）	一般市民で、変体仮名を学びたい方	12	15	4	11	15	12	
3		マルセル・プルースト『失われた時を求めて』をフランス語で読む（前期）	中島 淑恵	5/7～7/30（14:45～16:15）	中級以上のフランス語読解力をお持ちの一般市民の方	15	10	3	3	6	6	
4		身近に広がる美術の世界（前期）	隅 敦	4/12～7/26（19:00～20:30）	一般市民	22.5	16	3	3	6	6	
5		数式ソフトウェアの基礎ーRを利用して見ようー	松山 淳	4/12～6/7（18:05～19:35）	これから数式処理ソフトを使ってみたいと思っている方	12	15					中止
6		弥陀ヶ原火山のいまを知る	渡邊 了	4/22～11/5（12:50～14:20）（14:30～16:00）（8:00～18:00）	一般市民	16	20	13	6	19	19	
7		韓国文化と最近の韓国動向（前期）	仲嶺 政光	4/15～9/23（15:00～16:30）	一般市民	9	10	1	4	5	4	
8		韓国を知ろう(前期)	仲嶺 政光	4/9～9/24（10:00～11:30）	一般市民	22.5	10	2	10	12	9	
9		韓国を知ろうステップアップ(前期)	仲嶺 政光	4/11～9/26（19:00～20:30）	一般市民	22.5	10	0	7	7	7	
10		韓国、その言語と文化（前期）	仲嶺 政光	4/12～9/27（15:00～16:30）	一般市民	22.5	10	2	7	9	9	
11		韓国、その言語と文化ステップアップ（前期）	仲嶺 政光	4/6～9/28（19:00～20:30）	一般市民	22.5	10	1	7	8	8	
12		音楽はこころとからだを癒す-音楽療法の視点	黒川 光流	10/8～12/10（13:30～15:00）	一般市民	12	30	5	18	23	21	
13		映画でひもとくアメリカ文化-『国民の創生』『グリーンマイル』『スター・ウォーズ』『アバター』を中心に	赤尾 千波	H29.2～3	一般市民	5	50	4	10	14	11	
14		フランスの短編小説を読む	中島 淑恵	10/8～H28/1/26（14:45～16:15）	中級以上のフランス語読解力をお持ちの一般市民の方	15	10	3	4	7	7	
15		韓国文化と最近の韓国動向（後期）	仲嶺 政光	10/21～H29/3/3（15:00～16:30）	一般市民	9	10	1	5	6	3	
16		韓国を知ろう（後期）	仲嶺 政光	10/1～H29/3/4（10:00～11:30）	一般市民	22.5	10	1	9	10	9	
17		韓国を知ろうステップアップ（後期）	仲嶺 政光	10/3～H29/2/27（19:00～20:30）	一般市民	22.5	10	1	7	8	7	
18		韓国、その言語と文化（後期）	仲嶺 政光	10/4～H29/2/14（15:00～16:30）	一般市民	22.5	10	2	8	10	8	
19		韓国、その言語と文化ステップアップ（後期）	仲嶺 政光	10/5～H29/3/2（19:00～20:30）	一般市民	22.5	10	1	7	8	7	
計19講座（教養講座）						**322.5**	**296**	**57**	**145**	**202**	**170**	

◆語学講座

	ジャンル	講座名	実施責任者	開設期間	受講対象者	開設時間	募集定員	受講者数 男	受講者数 女	受講者数 計	修了者数	備考
20	語学	朝鮮半島のことばを聴く，読む（初級Ⅰ）	和田 とも美	4/14～7/14（10:30～12:00）	一般市民	19.5	10	0	6	6	6	
21		韓国語によるスピーチ(中級)	和田 とも美	4/14～7/28（10:30～12:00）	一般市民	22.5	10	0	9	9	7	
22		ロシア語（初級・中級）(前期)	中澤 敦夫	4/7～7/21（18:30～20:00）	入門のロシア語を学んだ方	22.5	20	4	4	8	7	
23		中国語はじめての一歩（会話中心の中国語初級）	藤田 公仁子	4/15～7/29（13:00～14:30）	一般市民	22.5	15	3	3	6	5	
24		中国語さらなる一歩（会話中心の中国語準中級・中級クラス）（前期）	藤田 公仁子	4/4～7/25（19:00～20:30）	一般市民	22.5	15	7	5	12	10	
25		Cours de français (Niveau moyen)	中島 淑恵	5/12～7/14（13:00～14:30）	中級程度のフランス語力をお持ちの一般市民の方	15	10	0	7	7	7	
26		ドイツ語会話（初級ステップ2）	ヴォルフガング・ツォウベク	5/12～6/30（17:30～19:00）	一般市民	12	12	4	6	10	10	
27		英語ディスカッションを通じたコンバセーションカフェ ＃7	仲嶺 政光	4/7～9/8（15:15～16:45）	中級レベル以上の一般市民や富山大学生。	13.5	10	1	7	8	7	
28		シチュエーション(場面)に応じて英語で演じましょう～Acting－Fun～＃3	仲嶺 政光	4/21～9/14（14:15～15:45）	中級レベル以上の一般市民や富山大学生。更に、人前で演じることに抵抗のない方や想像力が臨機応変な方が対象です。	9	8	1	5	6	6	
29		英語で料理を楽しもう！ ＃3	仲嶺 政光	4/21～9/14（16:00～17:30）	中級レベル以上の一般市民や富山大学生。更に、料理が得意な方で、料理やレシピを英語で可能な方、そして料理を作っている画像／動画を持参できる方が対象です。	9	6	0	3	3	3	
30		英語TOEIC初級1	仲嶺 政光	4/7～7/21（13:00～14:30）	一般市民	22.5	20	3	10	13	8	
31		TOEIC公式教材とインターネットを使用した米語発音講座	仲嶺 政光	4/14～7/28（13:00～14:30）	TOEIC500点以上の方で、努力して自分の発音を治す意志のある方。	22.5	15	2	5	7	5	
32		初級（ステップ1）中国語（前期）	仲嶺 政光	4/12～7/12（19:00～20:30）	一般市民	19.5	15	0	7	7	6	
33		初級（ステップ2）中国語（前期）	仲嶺 政光	4/13～7/13（19:00～20:30）	一般市民	19.5	15	7	4	11	10	
34		中国語講座 （「聞く」、「話す」中心の上級クラス）（前期）	仲嶺 政光	4/9～7/30（13:30～15:00）	一般市民	19.5	16	5	5	10	9	
35		フランス語初級ステップ1	仲嶺 政光	4/9～7/23（13:00～14:30）	はじめてフランス語を学習される方。フランス文化に関心のある方。	22.5	25	3	18	21	14	
36		フランス語中級（前期）	仲嶺 政光	4/9～7/23（15:00～16:30）	前年度初級フランス語6を修了された方。またフランス語を学習された経験のある方。	22.5	25	4	16	20	14	
37		フランス語上級（前期）	仲嶺 政光	4/9～7/23（13:00～14:30）	前年度中級フランス語8を終了された方。または過去にフランス語を学習された方。	22.5	25	3	7	10	8	
38		朝鮮半島のことばを聴く，読む（初級Ⅱ）	和田 とも美	10/6～H29/1/26（10:30～12:00）	一般市民	19.5	10	0	5	5	5	

39	語学	韓国語によるスピーチとディスカッション （上級）	和田　とも美	10/6～H29/2/2 （10:30～12:00）	一般市民	22.5	10	1	6	7	7	
40		ロシア語（初級・中級）（後期）	中澤　敦夫	10/13～H29/2/16 （18:30～20:00）	入門のロシア語を学んだ方	22.5	20	11	3	14	8	
41		中国語はじめての一歩（会話中心の中国語初級）（後期）	藤田　公仁子	10/14～H29/2/10 （13:00～14:30）	一般市民	22.5	15	3	3	6	6	
42		中国語さらなる一歩（会話中心の中国語準中級・中級クラス）（後期）	藤田　公仁子	10/17～H29/2/13 （19:00～20:30）	一般市民	22.5	15	7	4	11	10	
43		Cours de français (Niveau moyen)	中島　淑恵	10/11～12/13 （13:00～14:30）	中級程度のフランス語力をお持ちの一般市民の方	15	10	1	8	9	9	
44		ドイツ語会話（中級）	ヴォルフガング・ツォウベク	10/13～12/8 （17:30～19:00）	一般市民	12	12	5	4	9	9	
45		英語ディスカッションを通じたコンバセーションカフェ　#8	仲嶺　政光	10/12～H29.1/25 （15:45～17:00）	中級レベル以上の一般市民や富山大学生。	15	10	2	4	6	6	
46		短い言葉で気持ちを表現する英語講座　#6　ーポエムやポスター表現に挑戦するー （日中クラス）	仲嶺　政光	10/6～H29/3/2 （14:00～15:30）	中級レベル以上の一般市民や富山大学生	15	8	0	3	3	3	
47		英語TOEIC初級2	仲嶺　政光	10/6～H29/2/2 （13:00～14:30）	一般市民	22.5	20	2	6	8	6	
48		TOEIC公式教材とインターネットを使用した米語発音講座	仲嶺　政光	10/6～H.29.2/2 （14:45～14:15）	TOEIC500点以上の方で、努力して自分の発音を治す意志のある方。	22.5	15	1	5	6	5	
49		初級（ステップ1）中国語（後期）	仲嶺　政光	10/11～H29/1/17 （19:00～20:30）	一般市民	19.5	15	0	4	4	4	
50		初級（ステップ2）中国語（後期）	仲嶺　政光	10/12～H29/1/25 （19:00～20:30）	一般市民	19.5	15	5	4	9	8	
51		中国語講座 （「聞く」、「話す」中心の上級クラス）（後期）	仲嶺　政光	10/8～H29/1/14 （13:30～15:00）	一般市民	19.5	16	5	3	8	8	
52		フランス語初級ステップ2	仲嶺　政光	9/24～H29/2/18 （13:00～14:30）	前期初級ステップ1修了者、フランス文化に関心をもつ方。	22.5	25	2	14	16	15	
53		フランス語中級（後期）	仲嶺　政光	9/24～H29/2/18 （15:00～16:30）	フランス語初級修了者。また過去にフランス語を学んだことのある方。	22.5	25	4	15	19	14	
54		フランス語上級（後期）	仲嶺　政光	9/24～H29/2/18 （13:00～14:30）	フランス語中級修了者、フランス語中級相当の能力を持つ方。	22.5	25	2	7	9	8	
計35講座（語学講座）						**676.5**	**538**	**98**	**225**	**323**	**273**	

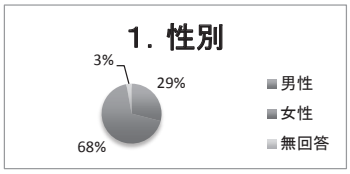
◆体験講座

	ジャンル	講座名	実施責任者	開設期間	受講対象者	開設時間	募集定員	受講者数 男	受講者数 女	受講者数 計	修了者数	備　考
55	体験	親子で楽しむ家庭菜園	高橋　満彦	4/10～10/23 （9:30～12:00）	家庭菜園初心者	25	7	1	6	7	7	
56		ios(Apple)機器の連携と活用	上山　輝	8/26～9/17 （18:15～20:15） （13:00～16:00）	一般市民（パソコン、ダブレッド初級者～中級者）	11	15	3	5	8	8	
57		入門ピラティス　#7 （日中クラス）	仲嶺　政光	4/14～7/21 （16:00～18:00）	健康に関心と興味を持っている一般市民。平成22～26年度に実施した当該講座に参加した方の受講も可能です。（ただし、妊婦の方はご遠慮下さい。体に都合がある方は、前もって医師に相談してください。）そして、全クラスに出席できることが条件です。	14	6	0	6	6	5	
58		ドイツ歌曲を歌おう！（その1）	仲嶺　政光	4/16～8/6 （10:00～12:00）	一般市民	20	30	6	20	26	23	
59		楽しみながら伝える日本の文化・和菓子「基本の和菓子」	藤田　公仁子	6/26～7/24 （13:00～16:00）	一般市民	12	20	3	20	23	22	
60		楽しい薬用植物の育て方・殖やし方　中級編	黒崎　文也	4/22～11/5 （9:00～11:00） （9：00～12：00）	植物の栽培に興味のある方	15	15	8	7	15	14	
61		はじめてのプログラミング	壮合　秀一	5/9～6/6 （18:30～20:30）	一般市民	8	20	4	1	5	4	
62		塑造人体ヌード制作	後藤　敏伸	4/14～6/30 （18:00～20:00）	一般市民	42	12	8	4	12	11	
63		漆と親しむ　ー卵殻で描く白と黒の世界-	齋藤　晴之	4/19～6/3 （18:30～20:30）	一般市民	24	12	3	5	8	8	
64		精密鋳造技法で作る小物	清水　克朗	8/7～9/11 （9:00～12:00）	高校生以上	28	7	7	5	12	11	
65		電動工具を使った、子供のための竹製遊具の作り方教室	堀江　秀夫	5/29 （9:00～11:00） （12:00～17:00）	できれば、自宅や職場近くに竹林がある方 （この公開講座ののち、自分で竹製遊具を作れるように）	7	10	3	0	3	3	
66		高齢者のための屋外家具の設計・制作	堀江　秀夫	5/31～6/26 （18:30～20:30） （10:00～12:00） （13:00～15:00）	60歳以上の高齢者	20	8	3	0	3	3	
67		食文化の現在-ヨーロッパの視点から-	徳橋　曜	10/6～11/17 （15：00～16：30） （14：00～18：00）	一般市民	12.5	10	0	2	2	2	
68		入門ピラティス　#8 （日中クラス）	仲嶺　政光	10/13～2/16 （11:00～13:00）	健康に関心と興味を持っている一般市民。平成22～26年度に実施した当該講座に参加した方の受講も可能です。（ただし、妊婦の方はご遠慮下さい。体に都合がある方は、前もって医師に相談してください。）そして、全クラスに出席できることが条件です。	18	6	0	4	4	4	
69		ドイツ歌曲を歌おう！（その2）	仲嶺　政光	9/24～H29/1/28 （10:00～12:00）	一般市民	20	30	6	20	26	23	
70		テンペラ画	安達 博文	10/17～11/21 （18:00～21:00）	一般市民	30	18	4	11	15	14	
71		テラコッタ頭像制作	後藤　敏伸	10/5～12/7 （18:00～20:00）	一般市民	18	12	3	4	7	7	
計17講座（体験講座）						**324.5**	**238**	**62**	**120**	**182**	**169**	

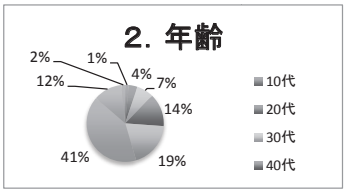
	講座数	開設時間	募集定員	受講者数 男	受講者数 女	受講者数 計	修了者数
総　計	**71講座**	**1,323.5**	**1,072**	**217**	**490**	**707**	**612**

平成28年度公開講座受講生アンケート結果

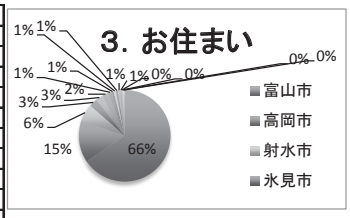
	性別
男性	113
女性	266
無回答	11
合計	390



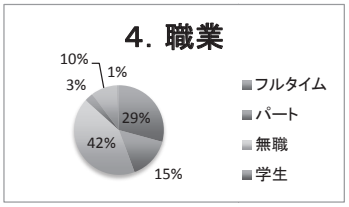
	年齢
10代	6
20代	14
30代	28
40代	54
50代	75
60代	160
70代以上	47
無回答	6
合計	390



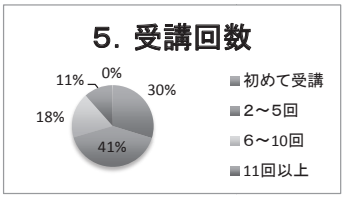
	お住まい
富山市	253
高岡市	57
射水市	24
氷見市	11
滑川市	10
立山町	9
上市町	4
魚津市	3
小矢部市	3
南砺市	3
入善町	3
砺波市	2
黒部市	1
船橋村	1
白山市	1
野々市市	1
無回答	4
合計	390



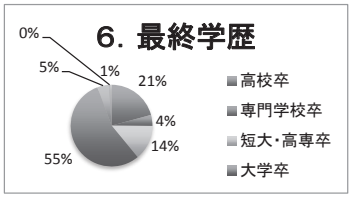
	職業
フルタイム	114
パート	59
無職	165
学生	12
その他	37
無回答	3
合計	390



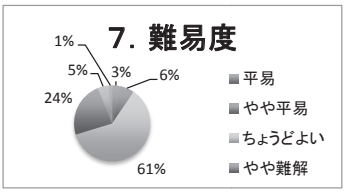
	受講回数
初めて受講	116
2～5回	159
6～10回	70
11回以上	44
無回答	1
合計	390

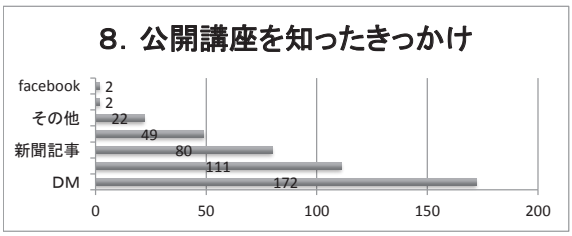


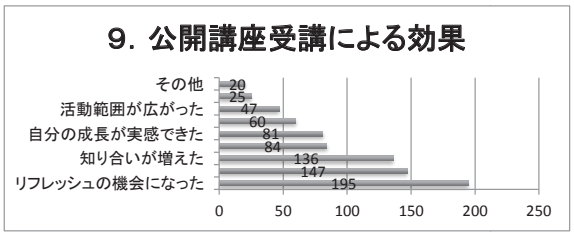
	最終学歴
高校卒	81
専門学校卒	17
短大･高専卒	54
大学卒	216
大学院卒	18
その他	2
無回答	2
合計	390

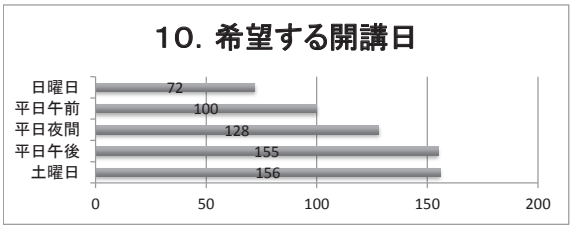


	難易度
平易	12
やや平易	25
ちょうどよい	237
やや難解	92
難解	18
無回答	6
合計	390









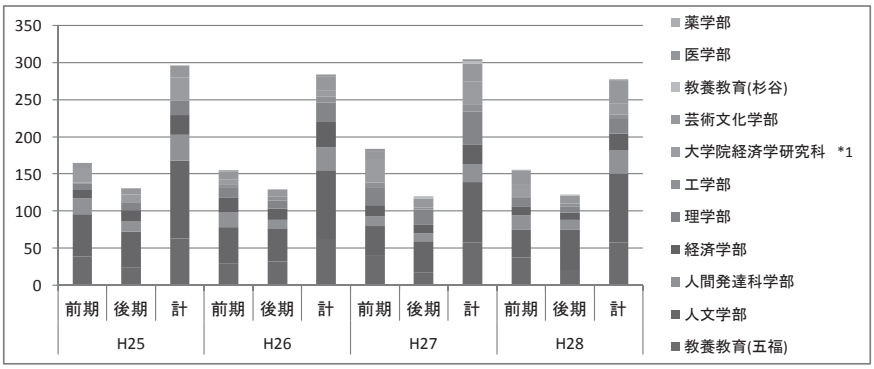
【公開講座アンケート自由記述より抜粋】

① 先生が魅力的で、講義の内容も良かった。受講者も全員意欲的で、気持ちの良いクラスでした。
② 日々の忙しい生活から少し学生気分を味わえました。
③ 久しぶりに楽しく学ぶことができた。機会があれば、他の誰かに教えたい。仲間を増やしたい。
④ 受講生の顔がお互いにわかる様な机のレイアウトにして頂きたい。教室形式⇒コの字形式。
⑤ 今回初めて受講しました。先生が教材を受講生に合わせて準備して下さったので有意義に受講することが出来喜んでいます。
⑥ もう少し回数が増えるとうれしいです。　2 時間は「あっと」いうくらいに過ぎました。／もっと年間の回数を増やしてほしい。
⑦ 季節ごとの和菓子作りの教室を開講して欲しいと切望。
⑧ 語学研修のための海外旅行を計画してほしい。
⑨ フランス語講座は初めてですが、先生の初歩からのペース、段階をよく配慮下さる内容、進め方で楽しく学ぶことができています。テキストも自学補助に生かせるテキストで助かっています。
⑩ コンバセーションカフェは毎年少しずつ趣向を変えながら飽きさせない楽しい講座となっています。
⑪ 夏休みや春休みにも講座があるとよい。
⑫ 体系的（ジャンル別）な講座を開催してほしい。「楽しい薬用植物の育て方・殖やし方」の上級編も開催してほしい。富山の薬草の講座もあれば。／ステップ１があるのだから、ステップ２はもう少しレベルアップして欲しい。
⑬ 普通の生活では見る聞く事のできない世界でした。家庭や仕事での人とのかかわりや相手の気持ちをどう理解し、自分と折り合いをつけて生きて行くべきかを考えている中でこの講座と出会い、人の心の感じ方などを改めて考える事ができたと思う。
⑭ もう一度受けたかったのに、曜日が変更されて参加できなくなりとても残念です。
⑮ 今後とも地域の大学として地域に住む社会人に向けて学びの場を設けて下さいますようようよろしくお願い致します。

○学部別オープン・クラス（公開授業）受講者数の年度別推移

期	H25			H26			H27			H28		
	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計
教養教育(五福)	39	24	63	30	32	62	40	18	58	37	21	58
人文学部	57	48	105	48	45	93	40	41	81	38	54	92
人間発達科学部	21	14	35	20	11	31	13	11	24	19	13	32
経済学部	11	15	26	20	15	35	15	12	27	12	10	22
理学部	9	10	19	14	11	25	24	20	44	12	8	20
工学部	1	0	1	3	5	8	6	3	9	2	4	6
大学院経済学研究科 *1	20	11	31	8		8	32		32	15		15
芸術文化学部	7	9	16	10	9	19	11	12	23	20	11	31
教養教育(杉谷)	0	0	0			0	0	3	3	1	1	2
医学部	0	0	0	2	1	3	3		3	0		0
薬学部			0			0			0			0
合　計	165	131	296	155	129	284	184	120	304	156	122	278

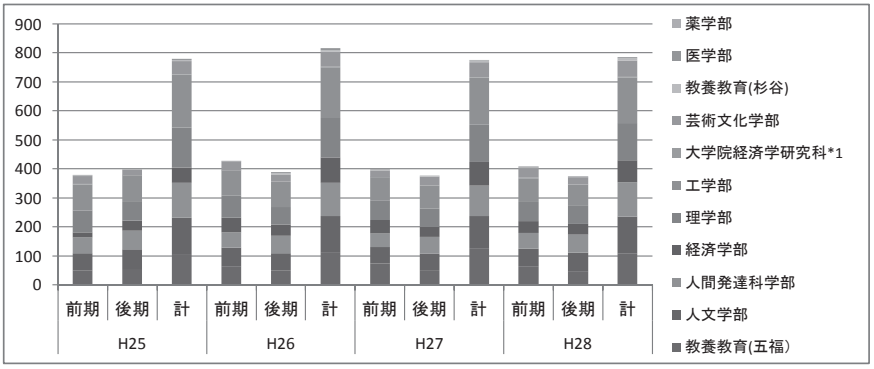
＊1北陸銀行との連携による寄附講義（企業等からの講師派遣による講義）。H25後学期については、インテックとの連携による寄付講義。



○学部別オープン・クラス（公開授業）公開科目数の年度別推移

期	H25			H26			H27			H28		
	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計
教養教育(五福)	49	54	103	65	49	114	75	51	126	64	45	109
人文学部	60	69	129	63	61	124	55	57	112	61	66	127
人間発達科学部	55	64	119	54	60	114	48	57	105	54	63	117
経済学部	18	35	53	49	38	87	45	35	80	40	36	76
理学部	75	63	138	76	61	137	66	62	128	66	63	129
工学部	90	92	182	87	87	174	82	80	162	83	74	157
大学院経済学研究科*1	1	1	2	1		1	1		1	1		1
芸術文化学部	27	19	46	30	24	54	22	31	53	33	24	57
教養教育(杉谷)	2	2	4		4	4	3	4	7	3	5	8
医学部	2	2	4	2	4	6	1		1	3		3
薬学部			0			0			0			
合　計	379	401	780	427	388	815	398	377	775	408	376	784

＊1北陸銀行との連携による寄附講義（企業等からの講師派遣による講義）。H25後学期については、インテックとの連携による寄付講義。



平成28年度　前学期　オープン・クラス受講科目集計

	学部	科目番号	授業科目名	担当教員	受講者
1	教養	2	哲学のすすめ	池田　真治	1
2	教養	4	こころの科学	小川　亮	1
3	教養	5	こころの科学	坪見　博之	1
4	教養	6	こころの科学	石津　憲一郎	1
5	教養	9	日本の歴史と社会	鈴木　景二	2
6	教養	10	日本の歴史と社会	熊谷　隆之	1
7	教養	11	東洋の歴史と社会	徳永　洋介	1
8	教養	12	東洋の歴史と社会	澤田　稔	3
9	教養	13	西洋の歴史と社会	漆間　真由美	2
10	教養	21	言語と文化	樋野　幸男	1
11	教養	24	音楽	大谷　多賀子	1
12	教養	26	現代社会論	橋本　勝	1
13	教養	30	日本国憲法	栗田　佳泰	2
14	教養	34	市民生活と法	橋口 賢一	1
15	教養	37	はじめての経済学	岩田 真一郎	2
16	教養	38	市場と企業の関係	鳥羽　達郎	1
17	教養	40	地域の経済と社会・文化	大西　宏治	3
18	教養	41	地域の経済と社会・文化	根岸　秀行	3
19	教養	43	地球と環境	森　英利	2
20	教養	45	生命の世界	田端　俊英	1
21	教養	55	技術の世界	大路　貴久	2
22	教養	62	朝鮮語B(3)	和田　とも美	3
23	教養	65	日本国憲法	高橋　満彦	1
	小　計				37
1	経済	9	経済学特殊講義 「Russian Studies」	堀江　典生	2
2	経済	14	経済学特殊講義 「Macroeconomics」	モヴシュク　オレクサンダー	2
3	経済	15	日本産業論	松井　隆幸	1
4	経済	16	統計学	唐渡　広志	1
5	経済	21	現代経済入門	山田　潤司	1
6	経済	28	外国書講読Ⅰ	大西　吉之	2
7	経済	30	ファイナンスの基礎	白石　俊輔	1
8	経済	35	経済学入門	堂谷　昌孝・若林　丈靖	2
	小　計				12
1	工	51	生化学Ⅱ	佐山　三千雄	1
2	工	57	電磁気学	川原　茂敬	1
	小　計				2

1	人間	2	児童心理学	姜　信善	1
2	人間	4	社会心理学	佐藤　徳	2
3	人間	11	臨床発達心理学	小林　真	2
4	人間	12	知的障害児の心理Ⅰ	宮　一志	1
5	人間	15	社会的養護	西館　有沙	1
6	人間	29	全地球史	椚座　圭太郎	2
7	人間	31	睡眠学	神川　康子	3
8	人間	35	栄養学	藤本　孝子	1
9	人間	37	国際政治学	池田　丈佑	1
10	人間	38	世界環境地理学	山根　拓	2
11	人間	46	外国語文献講読	根岸　秀行・山根　拓	2
12	人間	47	電脳社会論	黒田　卓	1
	小　計				19
1	人文	1	哲学概論	永井　龍男	3
2	人文	2	西洋思想史	永井　龍男	1
3	人文	3	西洋古典語	永井　龍男	1
4	人文	7	人間学演習Ⅰ	田畑　真美	3
5	人文	8	言語学概論Ⅱ	呉人　惠	1
6	人文	10	音声学I	安藤　智子	1
7	人文	11	言語学特殊講義	安藤　智子	1
8	人文	14	古文書学実習	熊谷　隆之	4
9	人文	15	日本史概説Ⅱ	熊谷　隆之	4
10	人文	16	東洋史概説Ⅰ	徳永　洋介	1
11	人文	22	国際関係論特殊講義	竹村　卓	1
12	人文	24	国際関係論特殊講義	林　夏生	1
13	人文	30	朝鮮語コミュニケーション(会話)	宋　有宰	3
14	人文	32	英米言語文化演習Ⅱ	恒川　正巳	1
15	人文	35	英語史	奥村　譲	1
16	人文	44	ドイツ語コミュニケーション（会話）Ⅱ（1）	ヴォルフガング　ツォウベク	1
17	人文	47	ドイツ語コミュニケーション（作文）初級	ヴォルフガング　ツォウベク	1
18	人文	48	ドイツ語コミュニケーション（会話）Ⅱ（2）	ヴォルフガング　ツォウベク	3
19	人文	52	ロシア言語文化演習Ⅱ	中澤　敦夫	3
20	人文	56	ロシア言語文化特殊講義Ⅱ	カザケーヴィチ　マルガリータ	1
21	人文	58	ロシア文化論	カザケーヴィチ　マルガリータ	1
22	人文	59	生涯学習概論	藤田　公仁子	1
	小　計				38
1	理	3	解析学Ⅰ	藤田　安啓	1
2	理	12	位相空間論Ⅱ	菊池　万里	1
3	理	18	物理数学序論	桑井　智彦	1
4	理	24	光学	森脇　喜紀	1

5	理	32	化学熱力学Ⅱ	鈴木　炎	1
6	理	43	基礎細胞生物学	菊川　茂	1
7	理	53	気象学概論	青木　一真・安永　数明	1
8	理	54	雪氷学概論	島田　亘	1
9	理	55	地殻物理学	楠本　成寿	1
10	理	61	環境基礎生物学B	田中　大祐	1
11	理	63	環境植物生理学	蒲池　浩之	1
12	理	65	環境保全化学	倉光　英樹	1
	小　計				12
1	経済	1	北陸地域経済の持続的成長と地方創生へのイノベーション		15
	小　計				15
1	教養(杉谷)	要項外	英語Va	キタノ　アスカ	1
	小計				1
1	芸術	4	風景論	奥　敬一	1
2	芸術	5	遠近法	辻合　秀一	1
3	芸術	6	イングリッシュ・コミュニケーション中級	B.ウィルソン	1
4	芸術	7	西洋美術史B	松田　愛	1
5	芸術	11	日本美術史B	大熊　俊之	1
6	芸術	14	中国の言語と文化	山田　眞一	3
7	芸術	15	化学物質の世界	村田　聡	1
8	芸術	17	工芸史	大熊　俊之	1
9	芸術	24	工学基礎	長柄　毅一・村田　聡	1
10	芸術	25	映像文化論	深谷　公宣	1
11	芸術	26	中国語読解1	山田　眞一	3
12	芸術	30	立体実習(木彫)2	後藤　敏信	2
13	芸術	33	立体演習B	平田　昌輝	3
	小　計				20
	合　計				156

平成28年度　後学期　オープン・クラス受講科目集計

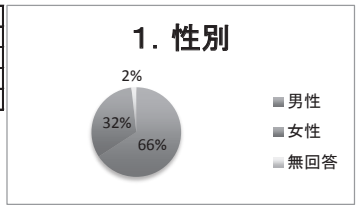
	学部	科目番号	授業科目名	担当教官	受講者
1	教養	2	人間と倫理	澤田　哲生	1
2	教養	6	西洋の歴史と社会	入江　幸二	8
3	教養	15	日本国憲法	神山　智美	1
4	教養	17	市民生活と法	福井　修	1
5	教養	19	産業と経済を学ぶ	酒井　富夫	2
6	教養	22	地球と環境	大藤　茂	2
7	教養	24	生命の世界	若杉　達也	3
8	教養	44	応用情報処理	上木　佐季子	2
9	教養	45	言語表現	佐山　三千雄	1
	小　計				21
1	経済	2	特殊講義 Microeconomics	岩田 真一郎	1
2	経済	9	マクロ経済学Ⅱ	堂谷　昌孝	2
3	経済	11	経済学入門	中村　和之	2
4	経済	22	特殊講義 富山県の主要業界研究	森口　毅彦	5
	小　計				10
1	工	32	フーリエ解析	長谷川英之	1
2	工	46	基礎生理学	中村　真人	1
3	工	51	細胞生物学	篠原 寛明	2
	小　計				4
1	人間	1	心理学研究法	小川　亮	1
2	人間	6	発達臨床心理学	近藤　龍彰	2
3	人間	13	幼児理解と相談支援	小林　真	1
4	人間	19	病弱児の心理･生理･病理	宮　一志	1
5	人間	20	軽度発達障害児教育総論	水内　豊和	1
6	人間	22	司法福祉論	小林　真	1
7	人間	42	生活環境デザイン	神川　康子	3
8	人間	45	都市景観論	秋月　有紀	1
9	人間	52	日本社会史概論	中村　只吾	1
10	人間	54	日本文学研究法	西田谷　洋	1
	小　計				13
1	人文	1	西洋古典語	永井　龍男	1
2	人文	3	哲学講読	永井　龍男	1

3	人文	8	人間学演習Ⅰ	田畑　真美	3
4	人文	9	現代と思想	澤田　哲生	1
5	人文	10	音声学Ⅱ	安藤　智子	1
6	人文	11	言語学概論Ⅰ	安藤　智子	1
7	人文	12	心理学概論Ⅰ	黒川　光流 坪見　博之 喜田　裕子	2
8	人文	15	日本史概説Ⅰ	鈴木　景二	1
9	人文	16	日本史特殊講義	熊谷　隆之	3
10	人文	17	古文書学実習	熊谷　隆之	5
11	人文	18	東洋史概説Ⅱ	澤田　稔	2
12	人文	19	歴史文化特殊講義	徳永　洋介	4
13	人文	20	西洋史特殊講義(1)	入江　幸二	1
14	人文	22	社会学概論	佐藤　裕	2
15	人文	28	社会文化特殊講義	林　夏生	1
16	人文	35	朝鮮言語文化講読	上保　敏	1
17	人文	36	朝鮮語コミュニケーション(会話)	宋　有宰	5
18	人文	37	朝鮮語コミュニケーション(会話)	宋 有宰	5
19	人文	40	英語学講読Ⅱ	奥村　譲	3
20	人文	42	英米言語文化講読Ⅰ	恒川　正巳	1
21	人文	44	英米言語文化講読Ⅱ	大工原　ちなみ	1
22	人文	48	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅱ(1)	ツォウベク　ヴォルフガング	1
23	人文	53	ドイツ語コミュニケーション(作文)初級	ツォウベク　ヴォルフガング	1
24	人文	55	フランス文学史	中島　淑恵	1
25	人文	58	ロシア言語文化演習Ⅱ	中澤　敦夫	2
26	人文	63	ロシア文化論	カザケーヴィチ　マルガリータ	1
27	人文	65	実践ロシア語演習Ⅰ	カザケーヴィチ　マルガリータ	1
28	人文	66	ロシア言語文化特殊講義	カザケーヴィチ　マルガリータ	2
	小　計				54
1	理	12	代数学Ⅲ	山根　宏之	1
2	理	22	物理数学A	栗本　猛	1
3	理	24	電磁気学Ⅰ	森脇　喜紀	1
4	理	26	統計力学	飯田　敏	1
5	理	49	共生機能科学	土田　努	1
6	理	53	構造地質学	大藤　茂	1
7	理	56	環境基礎生物学A	中村　省吾	1
8	理	59	生理化学	蒲池　浩之	1

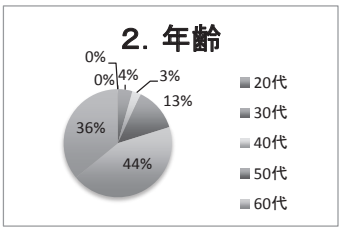
	小　計				8
1	教養（杉谷）	2	異文化理解	ﾖﾌｺﾊﾞ　四位　ｴﾚｵﾉﾗ	1
	小　計				1
1	芸術	2	中国語読解２	山田　眞一	1
2	芸術	8	工芸・デザイン材料	堀江　秀夫	1
3	芸術	9	異文化理解文献研究（中国語）	山田　眞一	5
4	芸術	20	西洋美術史Ａ	松田　愛	1
5	芸術	22	西洋美術史講読	松田　愛	1
6	芸術	22	東洋美術資料講読	三宮　千佳	1
7	芸術	23	風景鑑賞史	奥　敬一	1
	小　計				11
	合　計				122

平成28年度オープンクラス受講生アンケート結果

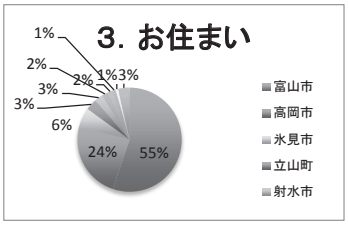
	性別
男性	75
女性	37
無回答	2
合計	114



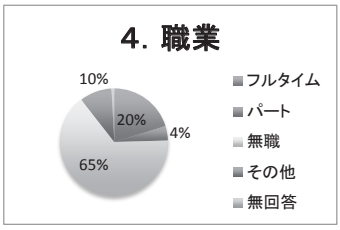
	年齢
20代	0
30代	5
40代	3
50代	15
60代	50
70代以上	41
無回答	0
合計	114



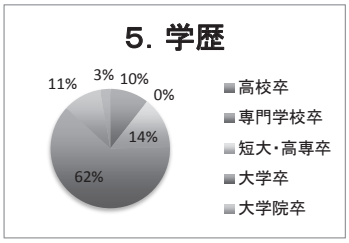
	お住まい
富山市	63
高岡市	27
氷見市	7
立山町	4
射水市	3
滑川市	2
上市町	2
小矢部市	1
飛騨市	1
無回答	4
合計	114



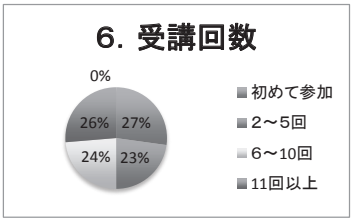
	職業
フルタイム	23
パート	5
無職	74
その他	11
無回答	1
合計	114



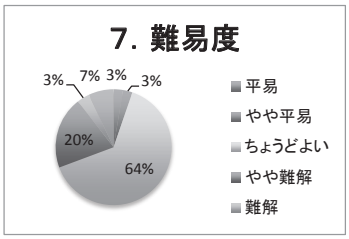
	学歴
高校卒	12
専門学校卒	0
短大・高専卒	16
大学卒	71
大学院卒	12
その他	3
合計	114

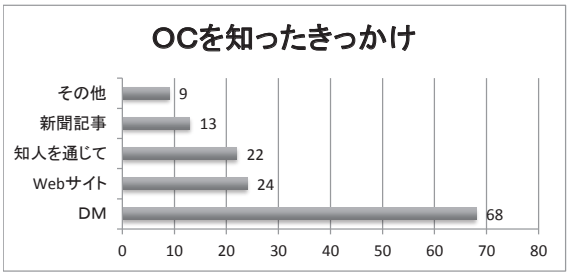


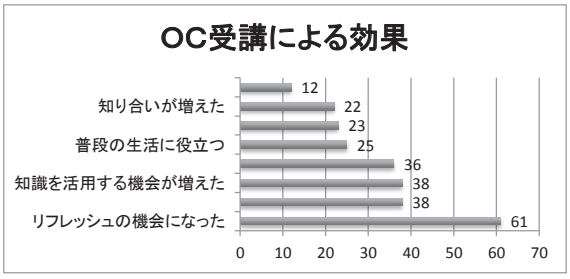
	受講回数
初めて参加	31
2～5回	26
6～10回	27
11回以上	30
無回答	0
合計	114



	難易度
平易	3
やや平易	3
ちょうどよい	73
やや難解	23
難解	4
無回答	8
合計	114







【オープン・クラス　アンケート自由記述より抜粋】

① 学生さん達と同じ空間で学ぶのに喜びがあります。講義は学生が中心であるべきで、現状がベストです。
② 続き又は同様の講義があれば知らせてほしい（実施してほしい）。／オープンクラスの受講可能講座をもっと増やしてもらいたい。／学部４年生のゼミに参加できるか、それと同程度の講座があればと思います。
③ 現代社会を見つめ、問い直すキッカケになりました。活発な意見のやりとりは感激します。学ぶ喜びを実感しました。／学生同士の意見交換などがあったらと思いました。／討論できる場もあってもいいような気がする。／もう少し発言の場、ワークがあれば良い。
④ もっと多くの人がこの講義のオープンクラス生になってほしいと思った。
⑤ Moodle〔学習支援システム〕を使った授業、ミニテストなど全てが新鮮で久しぶりに十分予習、復習させられました。斯種の授業受講の機会を増やしていただくことを要望します。
⑥ 知人、友人にもＰＲしてゆきたい。
⑦ 今年度も受講したいと思い定期的に WEB サイトを確認しておりましたが、なかなか見つけられませんでした。講座開設の告知が遅かったように感じます。せっかく広い講義室ですので、もっと告知方法を工夫すれば受講生も増えるのではないかと思います。
⑧ 富山の良さ、心づかい、豊かさが全国だけでなく、世界に拡がっていることがよくわかりました。より富山が好きになり、もっと知り、楽しみたいと思っています。
⑨ 関心のある事ばかりだったので毎週すごく考えなければならないことばかりだったので話の進み具合が早く、ついていくのが大変でしたが楽しみでした。今回のテーマはもちろん関連したテーマなどずっと聞き続けていたいです。機会を与えて下さい。
⑩ 初めて受講するので、オープンクラスがどのような感じなのか、とても不安でした。オープンクラスを受講されている方々と交流できる機会があれば情報交換などしてみたかったです。利用できるオープンサロンのお部屋は、ランチをするのに活用させてもらいました。素敵なお部屋でよかったです。
⑪ もう少しつっこんだところを聞きたいと思いました。

富山大学と富山県立小杉高等学校との高大連携事業

１．概要

本学と小杉高等学校との高大連携事業の一環として、「富山大学と小杉高等学校との高大連携事業に関する覚書」に基づき、教養教育科目のうちオープン・クラスとして開講している授業に小杉高等学校からの生徒を受け入れている。

修了した生徒には、小杉高校から卒業単位１単位が認定される。

２．平成２８年度受講状況

(1)開講曜日・時間：前学期 月曜日・５限（16:30-18:00）

(2)受講科目・受講者数：４科目９名

	科目名	担当教員	受講者数	修了者数
1	日本の歴史と社会	鈴木　景二（人文学部）	1	1
2	外国文学	吉田 泉（非常勤講師）	3	3
3	はじめての経済学	唐渡　広志（経済学部）	2	2
4	物理の世界	栗本　猛（理学部）	3	3
合計			9	9

過去修了者数

・２２年度　４科目　８名　　・２５年度　３科目　１４名

・２３年度　６科目　１２名　　・２６年度　６科目　２１名

・２４年度　２科目　４名　　・２７年度　５科目　１１名

３．事後研修・発表会

日　　時：平成２８年　９月　５日（月）１６時～

場　　所：小杉高等学校会議室

発 表 方 法：発表時間　１人　４～５分

パソコン・液晶プロジェクター・ＯＨＣ等使用

プログラム：１６：００～１６：０５　開会の挨拶（松平校長）

１６：０５～１６：４５　発表（各受講生徒）

１６：４５～１６：５５　講評（富山大学森口生涯学習部門長）

１６：５０～１６：５５　修了証受領

１６：５５～１７：００　閉会の挨拶（藤井副校長）

１７：００～　　終了・事務連絡

平成２８年度　北陸４大学連携まちなかセミナー実施状況

（富山大学）

日　　時	平成２８年１０月１６日（日）１４：００～１７：００
会　　場	富山駅前ＣｉＣビル５階　いきいきＫＡＮ多目的ホール （富山市新富町 1-2-3）
テ ー マ	「 北陸の古代を探訪する 」
講　　演	①「加賀・能登の古代豪族と地域社会」 吉永　匡史（金沢大学人間社会研究域　歴史言語文化学系　准教授） ②「北陸道諸国の成り立ち」 門井　直哉（福井大学教育学部　教授） ③「神済と親不知」 鈴木　景二（富山大学人文学部人文学科　教授）
コーディネーター	鈴木　景二　富山大学人文学部人文学科　教授
受講者数	１１２名（講師・関係者含む）:（昨年度１４７名）

（金沢大学）

日　　時	平成２８年１１月２３日（水・祝）　１３：３０～１６：３０
会　　場	金沢大学サテライト・プラザ （金沢市西町３番丁１６番地　金沢市西町教育研修館内）
テ ー マ	ザ・選挙！　―教育・行動・制度―
講　　演	①「主権者教育のあり方　―小・中・高校での実践を中心にして―」 講師　橋本 康弘（福井大学教育学部　教授） ②「参議院選挙における有権者の投票行動」 講師　岡田　浩（金沢大学人間社会研究域法学系　教授） ③「アメリカ大統領選挙制度：『合衆国』それとも『合州国』？」 講師　川西 俊吾（北陸先端科学技術大学院大学 グローバルコミュニケーションセンター長）
コーディネーター	青木 一益（富山大学経済学部経営法学科　教授）
受講者数	４０名（講師・関係者含む）:（昨年度３０名）

（福井大学）

日　　時	平成２８年１１月　３日（木）14：00～16：30
会　　場	福井大学アカデミーホール（福井市文京 3-9-1）
テ ー マ	「大学発の楽しい発明」
講　　演	①「逆上がり練習器　『（仮称）クルット』開発秘話」 佐伯　聡史（富山大学人間発達科学部人間環境システム学科　准教授） ②「空飛ぶ菌から納豆『そらなっとう』開発秘話」 牧　輝弥（金沢大学理工研究域物質化学系　准教授）
コーディネーター	水沢　利栄（福井大学教育学部　教授）
受講者数	６８名（講師・関係者含む）：（昨年度４１名）

（北陸先端科学技術大学院大学）

日　　時	平成２８年１０月８日（土）１４：００～１６：００
会　　場	北陸先端科学技術大学院大学情報科学系講義棟大講義室 （石川県能美市旭台１－１）
テ ー マ	「花咲けＪＡＩＳＴ山ーまちづくりにいらっしゃ～いー」
講　　演	北陸３県における「まちづくりの取組」の事例を紹介しながら，まちづくりにおける地元自治体や大学等と「まち（地元）」との関わり方や課題についてのパネルディスカッション ゲスト：鯖江市ＪＫ課ＯＧのみなさん コメンテーター：鈴木　晃志郎氏（富山大学人文学部人文学科准教授） 稲垣　真一氏（石川テレビ放送（株）アナウンサー）
コーディネーター	敷田　麻実氏（北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科教授）
受講者数	８１名（講師・関係者含む）：（昨年度２０名）

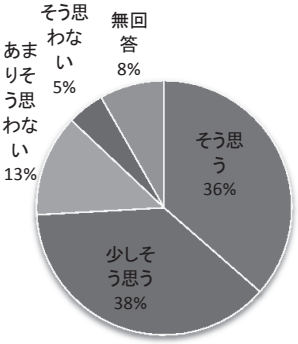
H28まちなかセミナー(富山会場)受講生アンケート集計

1	①性別・②年齢		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
		男	0	0	2	0	3	17	36	0
		女	0	0	0	0	1	8	16	0
		性別不明	0	0	0	0	0	0	1	1
	③市町村名	富山県	福井県	石川県	無回答					
		81	1	1	2					

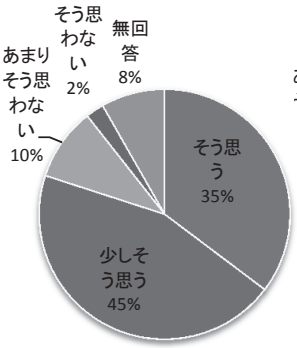
2	セミナー参加回数	今回がはじめて	1回受講している	2回以上受講している	無回答
		43	15	24	1

3	①受講のきっかけ（複数回答あり）	チラシ	ポスター	新聞	テレビ	学校	職場	知人・友人	
		57	1	8	0	3	0	6	
		大学HP	Facebook	その他					
		8	0	5					
	②チラシ・ポスターを見た場所	DM	CIC	図書館	サテライト講座	大学	その他文化施設	職場	覚えていない
		19	3	0	10	2	10	0	14
	③参加した目的（複数回答あり）	職業に活かすため	興味・関心があるから	教養を高めるため	余暇の有効活用				
		0	67	38	14				
		職場からのすすめ	知人・友人からのすすめ	タイトルが面白そうだったから	その他	無回答			
		0	4	15	5	0			
	④授業の難易度		そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答		
		説明や解説はわかりやすかった	31	32	11	4	7		
		資料・映像はわかりやすかった	25	34	15	5	6		
		講演のレベルは適切だった	30	38	8	2	7		
		講演を受講して満足している	40	31	3	4	7		

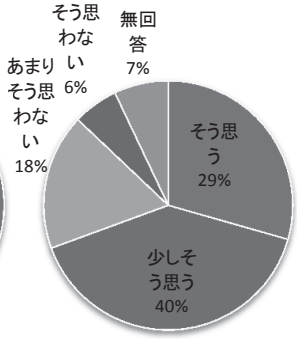
説明や解説はわかりやすかった



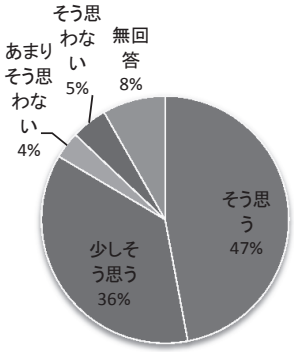
講演のレベルは適切だった



資料・映像はわかりやすかった



講演を受講して満足している



3	⑤講演内容・資料についての意見	○各県をベースにした北陸地域の解説がよかった。次回のセミナーを楽しみにしています。講演の時間は守られた方がよいと思います。 ○吉永先生の話は理解できず。門井先生の話は興味を持って聞いた。分析手法が面白い。テーマへのツッコミ深耕が良い。「福井」「石川」になってネーミングのいわれも聞きたかった。「越前県」「加賀県」でもよかったのでは. .「富山県も富山寺からとったというのも？？ ○現代口語訳があれば分りやすい。むづかしくて分らなかった。 ○ふるさと富山に関する知識を大いに高めていく機会になりました。越の国についてもっと詳しく学びたいものです。 ○字も図も大きくしてください。 ○スライドが大変見にくくがっかり！！吉永講師、鈴木講師は歯切れがよく内容も明解でよくわかり面白かった。 ○講義内容・資料はとても良かったですが映像がもう少し鮮明であれば良かったのに。 ○講演内容は興味深いものがあった。今後もっと掘り下げてほしい。(新しい知見も入れて)資料の文字が少し小さく見にくいものもあった。時間が足りなかった。古城、社寺との関係、地形形成への影響等もっと知りたい。 ○出展文章にはできるだけふりがなをつけてほしい。(注釈) ○内容や資料他早すぎて理解できない部分が多い。(神済と親不知は除く) ○根拠がわかって役にたつ。 ○Ⅰ細部すぎてさっぱりわからなかった。Ⅱ内容わかりにくいが少しだけわかった気もする。まとまりはない。Ⅲ神済(かみのわたり)だけわかりました。 ○ルビなどをもう少しふってほしい。300年～500年頃の時代を期待していたので、もっと古い時代のことを聞きたかったです。 ○音響が悪い(マイク、スピーカー)語尾が響いて「ことば」がはっきりしない。 ○歴史専攻の立場からやむを得ないが専門的過ぎる。分り易い資料と説明を。特に吉永先生。 ○親不知が大和ことばと聞きびっくりと私の中、新しい思いがしました。 ○加賀・能登の古代・・あきらかになった史実も資料も少ない中で大変だったと思うが題材が余りにも古すぎて少々興味が薄れた。北陸道諸国・・一番興味のあるところで面白かった。神済・・全く新しい題材であり興味深く参考になった。 ○講演時間が短くて最後まで説明が聞けなかった。できれば、講演時間をもう1時間長くしてほしい。 ○プリント、映像ともに大変読み取りにくかった。できるだけ大きくしていただきたい。鈴木先生のお話が最も聞きやすかった。(他のお二人の先生は、マイク設定のせいもあり) ○専門的で古代のことがわかりにくかった。 ○講義の内容が早口で資料の追跡が難しかった。もっとゆっくりと講義を聞きたかった。 ○資料の内容も適切であったが、暗いところで字が読みにくかった。内容を詳しくかきたかったからと思う。 ○時間の制限がある中で(大学の講義の時間と大きくちがって)先生達も苦労されたでしょうが、素人でも解る良い話をしていただいて、工夫されたと思います。有意義な時間を過ごさせていただきまして、ありがとうございます。 ○親不知のお話はおもしろかった。(興味深かった) ○日本書紀や古事記に関する知識が乏しく内容が難しい講演もあったが、興味深い解説もあり参考になった。 ○北陸3県＋新潟県も交えた話として構成してあり、興味深く拝聴した。 ○考古学に興味・関心を持つ者として一度に大学の先生から貴重な話が聞けて大変うれしく感じております。今後ともこの様な機会を年に1回でもいいから作ってほしい。本日は本当にありがとうございました。 ○映像が今少し工夫がいるのでは？ ○各講師の講義の目的・目標を具体的に表記してもらえると話に追従して聴き易いのでは？書物のはじがき部分の様なもの。 ○普段90分授業されている先生でしょうから. . . こちらの集中力もありますが. . . ありがとうございました。 ○大和平安時代の事は知識にない為に再発見となる。 ○わかりやすい解説書で、よくわかりました。 ○この年になって古代史を頭に入れるのは大変でしたが興味が高まり楽しかったです。ありがとうございました。 ○学問は難しく頭がパンクしそうになったが、人間は想像する動物、想像は楽しくおもしろいと改めて感じることができた。ありがとうございました。 ○スタンドマイク？音響？拝聴難あり。スライド不鮮明。

⑥認識の変化	深まった	やや深まった	あまり深まらなかった	深まらなかった	無回答
	35	40	6	2	2

4	今後希望するテーマ・内容	○古代海外の国あるいは部族などのつながり影響など。 ○北陸地方の民話・伝説・物語などについて知りたいものです。 ○科学・工学系 ○地域による風土や気候のちがい。風習・環境etc ○このテーマを更に深めてほしい。つづけて越中の気質(富山の文化)を形成した歴史的な要因と気候的な特徴(要因) ○地元にそくした内容(今回のような) ○北陸と大陸諸国との継りについて。 ○自然(動植物、地学、天文)、歴史(日本古代～現代史)、科学(医薬学、最先端技術、政治・経済(評論) ○古代史に興味があるので今回のさらなる発展した内容や日本海を中心に見た古代史・中世史を是非！！考古学からの古代史も知りたい！！ ○今の延長で古道の変遷など ○北陸の仏教史 ○活断層や地震、火山など県内の災害の想定内容、現状など。科学物質や電磁波の健康被害や対策の現状 ○古代出雲と越の国の関連神話について ○この続編をお願いします。数学も面白い。近代数学のエピソードなど ○今後も歴史のなりたちにフォーカスして知識を深めたい。 ○人文系の色々な専門分野の先生の話を聞きたい(文学・哲学・心理学等)多様な専門があると思うので ○北陸の産業の出自など。小松、薬、YKKなど ○北前船・航路と現在のつながりについて。観光パンフでは江戸時代の話だけで終わっている。どうつながっていって今はどうなのか言いにくいことも教えてほしい。 ○地形・地質→関連して地震・自然災害等にかかわるテーマ ○縄文時代の北陸3県の交流等を含めた流の講座を開いてほしい。 ○すでに開催されたと聞きましたが、宗教・美術について聴けたらいいなと思います。 ○北陸を順をおって現代までわかるといい。それで全国に広げる。

H28まちなかセミナー(富山会場)受講生アンケート集計

5	意見・感想	○事前準備が悪い。(マイクのウナリ、パワーポイントのプロジェクター) ○①古代ばかりでなく「江戸」までの繋がりがもっと知りたい。京都中心から戦国時代へどう経済的・文化的・宗教的に変化していったのか。「尾張中心」の力に「北陸」はやられっぱなしだったのか。どうして北陸は「金沢」が中心になったのか？前田氏以前の「金沢」はどうであったのか？「大聖寺」が古い中心だったと聞くが. . . ②「江戸」→「現代」までは大体予想できたが、これ以前の流れがわからない。学校教室は「古代」中心になりすぎているのでは？もっと各時代を平均して「俯瞰」する必要があると考えるが. . . 石器時代「縄文」「弥生」よりも1945年以降が大切なのですから、もっと経済面・文化面・宗教面を日本の他の地域と比較しながら話してほしい。 ○講師の先生方にとっては時間が不足しているのではないでしょうか。機会があれば「北陸の歴史」(考古学・通史・事象・地名等)のイベントを計画していただきたい。 ○講義が始まってからポインター・スピーカー・プロジェクターを調整するなど段取の不徹底があり、スタートでこの程度かと残念に思わしめる。もっとしっかり準備してほしい。各講座とも時間不足でかけ足説明の感じがあります。もう少しじっくり説明を聞きたい。 ○先生方が早口なので正直言うと、やや聞き取りにくかった。 ○今回は「北陸の古代」ということで次は中世代など歴史を順次ひもとくシリーズはどうだろうか。あるいは古代史のシリーズ化。 ○後ろの席よりスライドの画面がわからなかった。スライドの事前調整をしっかりと。 ○今年で14年目ということですが、過去に好評だった講演、演題を再度取り上げて欲しい。 ○今回初めて参加しましたが過去のセミナーのレジュメ等公開できるものがあれば公開していただきたい。パワーポイントの細かい字が見えなかった。 ○講師の発声、発音は大事。高齢者が多いと思われるのでゆっくりと話してほしい。盛り沢山は未消化に終わる。(無料のセミナーで申し訳ないが)地域四大学の連携した試みに敬意。金沢大→福井大→富山大　段々面白くなった。(素人的関心度) ○富山市政(議会)の昨今の混乱に見受けられる如く、選任する我々の知性、感性、教養が為せるわざと考えます。つまり、天に向かってツバをするかの如くの現状に悲愴感さえあります。従って、政治や経済社会の今を(国の内外不問)教諭としての教授の見識等を解説していただければ幸いです。自らの見識を見直す機会を与えて下さい。 ○講義の開始時間を13:30からにしたらどうか。 ○室内の照明が少々暗く、資料が見づらい。 ○卓上マイクは先生の口元にとどかなかったのか背中を曲げて話しておられましたが、本当に聞き取りにくかった。マイクが伸びるようなら先生に合わせて話していただきたかったです。手にマイクを持って話された先生は最後迄聞き取れてよかった。マイクを口元に持っていって話すのは本当によかったです。この事は今後も実行して頂きたいです。 ○仕方ない事当然な事とは思いますが、受講者に高齢者が多く現役世代と思われる人が少ない。高齢者だけだと「真の生涯学習社会」の構築はできないと思われますが「現役世代の意識が薄いのか、大学側のPRが不足しているのか」要因は解りません。少し受講料を取れば、研究等に役立つのではと思いますが、色々な考えもあると思います。 ○「神渡り」から知識があり話が広がるのはおもしろい。「視点」興味ある視点をいかに選べるか？過去の話現在の話未来の話の展望などおもしろいのでは？ ○Parkingの割引ができないか検討してもらいたい。親不知の話が良かった。「越」について知りたかったので来ました。今イチ理解が難しい処があったと思う。結局「越していく処」ということで良いのではないか？石川県については無知であった。沢山前方後円墳があったのだ！とはなはだ初歩的な発見をさせていただきうれしいです。 ○休日にこのような事業を開催することは大学としての社会貢献であり、市民としては専門的内容を学ぶよい機会となる。今後とも継続をお願いしたい。 ○どのテーマもよかったので、もっと時間をかけて、くわしく聞きたかった。残念だった。 ○初めて聴講しました。万葉集を通して古代史に少し関心がでてきたところです。講演をもっとゆっくり聴きたかったです。ありがとうございました。 ○初めての聴講です。ちらしは仲間から頂いたものです。高岡市の生涯学習関係にはなかったような気がします。疑問点が数点自分の頭の中では解けた気がした。・しなざかるとひなざかるの差異・広坂長坂廃寺について興味深い。特に野田山との関連など・能登国の消滅と復活の背景など ○福井大学の門井先生の講演の中で「角鹿」の地名はツノガですが、それが後世「敦賀」ツルガとなったと考えてよろしいのでしょうか。ツノガのツノは何の動物の「角」を指すのかとも思います。 ○神済親不知の写真に興味をひかれた。

アンケート回答件数:　85

アンケート配布件数:　106

アンケート回収率:　80.2%

北陸地区国立大学連合協議会

平成28年度 北陸4大学連携まちなかセミナー　富山大学

北陸の古代を探訪する

入場無料

日時 ◆ 平成28年10月16日(日) 14:00～17:00

会場 ◆ 富山駅前CiCビル5階 いきいきKAN多目的ホール
富山市新富町1-2-3
＊事前申込は必要ありません。当日は直接、会場の受付までお越しください。

進行 ◆ 鈴木　景二　富山大学人文学部人文学科　教授

講演① 「加賀・能登の古代豪族と地域社会」

吉永　匡史　金沢大学人間社会研究域　歴史言語文化学系　准教授

古代の地域社会については、地方豪族との関係抜きに語ることはできません。現在の石川県域にあたる加賀・能登地域は、大陸の高句麗や渤海との通交の窓口として知られていますが、関係史料には加賀地域の豪族が重要な登場人物として現れます。また、古墳や古代寺院跡などの遺跡からは、文献史料にはみえない、両地域の古代豪族と地域社会のあり方をうかがうことができます。本発表では、文献史学と考古学の双方の成果を生かしつつ考えてみたいと思います。

講演② 「北陸道諸国の成り立ち」

門井　直哉　福井大学教育学部　教授

古代から近代に至るまで広く定着していた我が国の地理区分に畿内七道があります。北陸道は七道の一つであり、若狭・越前・加賀・能登・越中・越後・佐渡の７ヶ国で構成されていました。もっともこれらの国々はあるとき一斉に成立したものではなく、また国境にもしばしば変動がありました。本発表では北陸道 ７ヶ国の領域が確立されていく過程とその背景について探ってみたいと思います。

講演③ 「神済と親不知」

鈴木　景二　富山大学人文学部人文学科　教授

北陸地方というと、現代では福井県から富山県までを指します。しかし、古代の北陸道は越後国から佐渡にまで達していました。この違いは、親不知という大境界地帯の存在に起因しています。難所通行の伝説が語られるこの地域は、古代においてももちろん難所であったはずです。そこで、史料からその様相を探るとともに、「親不知」という地名の成立時期や由来についても考え、さらに現地の様子もご紹介したいと思います。

お問合せ：富山大学 地域連携推進機構 生涯学習部門
〒930-8555　富山県富山市五福3190　TEL：076-445-6956　FAX：076-445-6033　E-mail：lifelong@ctg.u-toyama.ac.jp

【主催】富山大学／金沢大学／福井大学／北陸先端科学技術大学院大学　【後援】富山県教育委員会／石川県教育委員会／福井県教育委員会

北陸4大学連携まちなかセミナー

北陸発、知的探求の旅。北陸3県で実施しています。

大学とは何をするところでしょうか?教育、研究、それだけではありません。地域の皆さんの多様な生涯学習ニーズに応えることも大学の大事な使命です。富山大学、金沢大学、福井大学、北陸先端科学技術大学院大学共催で、「知」との出会いの場を提供しています。

福井大学（福井会場）

大学発の楽しい発明

日時 ◆ **平成28年11月3日(木・祝)　14:00～16:30**
会場 ◆ **福井大学アカデミーホール**(福井市文京3−9−1)
講師 ◆ 佐伯　聡史(富山大学人間発達科学部人間環境システム学科・准教授)
「逆上がり練習器『クルット』開発秘話」
牧　　輝弥(金沢大学理工研究域物質化学系・准教授)
「空飛ぶ菌から納豆『そらなっとう』開発秘話」
進行 ◆ 水沢　利栄(福井大学教育学部・教授)

お問い合わせ: **福井大学地域貢献推進センター**
〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1　TEL:0776-27-8060　FAX:0776-27-8878
E-mail:koken@ad.u-fukui.ac.jp

金沢大学（石川会場）

ザ・選挙! −教育・行動・制度−

日時 ◆ **平成28年11月23日(水・祝)　13:30～16:30**
会場 ◆ **金沢大学サテライト・プラザ**(金沢市西町三番丁16番地　金沢市西町教育研修館内)
講師 ◆ 橋本　康弘(福井大学教育学部・教授)
「主権者教育のあり方−小・中・高校での実践を中心にして−」
岡田　　浩(金沢大学人間社会研究域法学系・教授)
「参議院選挙における有権者の投票行動」
川西　俊吾(北陸先端科学技術大学院大学グローバルコミュニケーションセンター長)
「アメリカ大統領選挙制度:『合衆国』それとも『合州国』?」
進行 ◆ 青木　一益(富山大学経済学部経営法学科・教授)

お問い合わせ: **金沢大学地域連携推進センター**
〒920-1192　石川県金沢市角間町　TEL:076-264-5272～3　FAX:076-234-4045
E-mail:kaihou@adm.kanazawa-u.ac.jp

北陸先端科学技術大学院大学（石川会場）

花咲けJAIST山 −まちづくりにいらっしゃ～い!−

日時 ◆ **平成28年10月8日(土)　14:00～16:00**
会場 ◆ **北陸先端科学技術大学院大学情報科学系講義棟大講義室**(石川県能美市旭台1−1)
ゲスト ◆ 鯖江市役所JK課OGの皆さん
コメンテーター ◆ 鈴木晃志郎(富山大学人文学部人文学科・准教授)
稲垣　真一(石川テレビアナウンサー)
進行 ◆ 敷田　麻実(北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科〈知識科学系〉・教授)

お問い合わせ: **北陸先端科学技術大学院大学総務課総務係**
〒923-1292　石川県能美市旭台1-1　TEL:0761-51-1042,6　FAX:0761-51-1088
E-mail:soumuka@jaist.ac.jp

平成２８年度サテライト講座実施結果

回	実　施　日	所属	講　師	タ　イ　ト　ル	参加人数
1	平成28年5月28日（土）	大学院医学薬学研究部(医学)	足立　雄一	「どんどん増える食物アレルギー ～原因と対応について～」	145
2	H28.6.18	大学院理工学研究部(工学)	堀田　裕弘	「大学教育って、こう変わろうとしてるんです ～アクティブラーニングの実践を通して～」	55
3	H28.7.9	大学院理工学研究部（理学）	柏木　健司	「黒部峡谷の秘めたる自然誌」	108
4	H28.8.6	人間発達科学部	石井　哲夫	「草原の民族音楽」	60
5	H28.9.3	大学院医学薬学研究部（薬学）	笹岡　利安	「生活習慣病と不眠-糖尿病や高血圧症での快眠対策-」	120
6	H28.10.1	人文学部	林　夏生	「多様な性のあり方を考える：自治体・企業・学校と地域社会の新しい役割」	57
7	H28.10.29	経済学部	青木　一益	「政策的思考と政治的決定ー二つの狭間で民主主義を考える—」	55
8	H28.11.26	芸術文化学部	三船　温尚	「古代中国殷周青銅器の鋳造技術の解説ー可動式釣手を持つ蓋付きの酒器「卣（ゆう）」についてー」	47
				受講者数合計	647
				平均受講者数	80.9

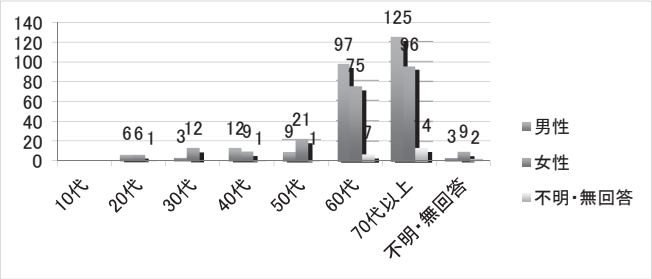
平成28年度サテライト講座　アンケート調査結果　H28.12

【受講者数延べ647名】

【アンケート回答者数509名】

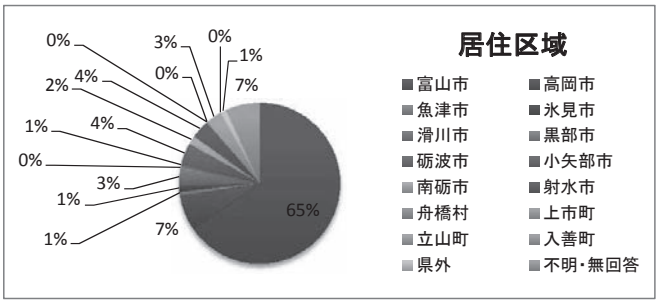
【1】年齢・性別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明・無回答	計
男性		6	3	12	9	97	125	3	255
女性		6	12	9	21	75	96	9	228
不明・無回答		1		1	1	7	14	2	26
計		13	15	22	31	179	235	14	509



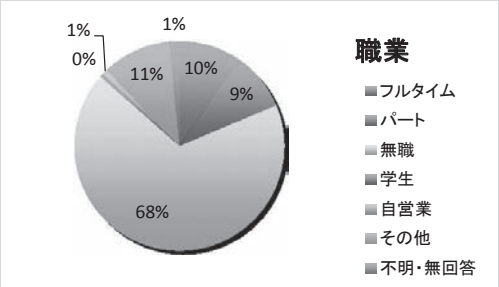
居住区域

	人数
富山市	333
高岡市	36
魚津市	4
氷見市	6
滑川市	17
黒部市	2
砺波市	3
小矢部市	22
南砺市	9
射水市	19
舟橋村	
上市町	1
立山町	16
入善町	
県外	6
不明・無回答	35



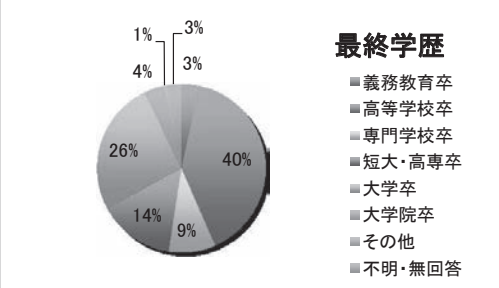
【2】職業

	人数
フルタイム	49
パート	46
無職	345
学生	3
自営業	4
その他	54
不明・無回答	8



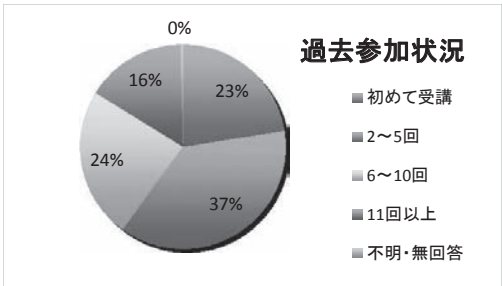
【3】最終学歴

	人数
義務教育卒	17
高等学校卒	204
専門学校卒	46
短大・高専卒	74
大学卒	131
大学院卒	20
その他	3
不明・無回答	14



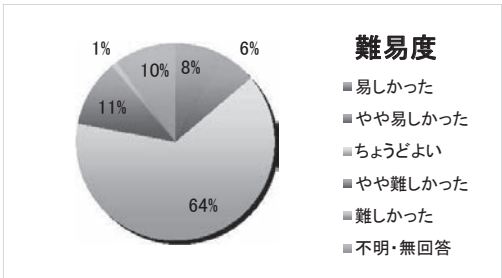
【4】過去3年間のサテライト講座への参加状況

	人数
初めて受講	114
2～5回	190
6～10回	121
11回以上	80
不明・無回答	2



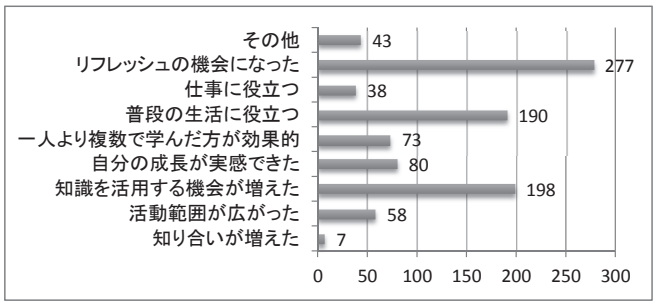
【5】難易度について

	人数
易しかった	40
やや易しかった	30
ちょうどよい	326
やや難しかった	56
難しかった	5
不明・無回答	51



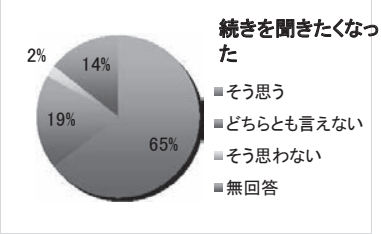
【6】良かったと感じたこと(複数回答)

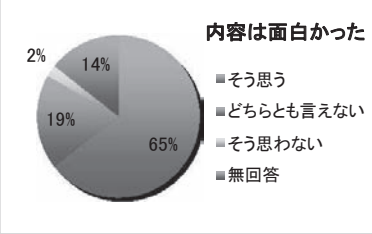
	人数
知り合いが増えた	7
活動範囲が広がった	58
知識を活用する機会が増えた	198
自分の成長が実感できた	80
一人より複数で学んだ方が効果的	73
普段の生活に役立つ	190
仕事に役立つ	38
リフレッシュの機会になった	277
その他	43

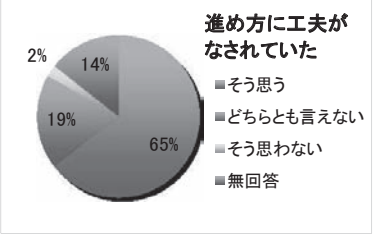


【7】講師について

	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	無回答
講座の続きを聞きたくなった	328	95	12	73
講座の内容は面白かった	358	101	4	86
講座の進め方に工夫がなされていた	331	83	4	91

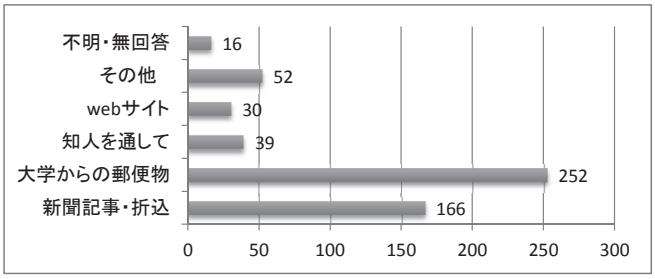






【8】公開講座をどのように知ったか(複数回答あり)

	人数
新聞記事・折込	166
大学からの郵便物	252
知人を通して	39
webサイト	30
その他	52
不明・無回答	16



受講料無料

平成28年度

富山大学サテライト講座

“知りたい”をここから～富山大学の“知”と出会う～

多彩な専門分野を有する富山大学の教員陣が、
日ごろの研究成果を皆様に向けてわかりやすくお話しします。
各講座とも申し込み・受講料は不要ですので、
お気軽にご来場ください。

時 間／14：00～15：30
定 員／各講座とも50名程度(事前申込不要・受講料無料)
会 場／富山駅前 CIC ビル3階 学習室

第1回 5/28(土)
「どんどん増える食物アレルギー ～原因と対応について～」
大学院医学薬学研究部(医学)　教授　足立 雄一

第2回 6/18(土)
「大学教育って、こう変わろうとしてるんです ～アクティブラーニングの実践を通して～」
大学院理工学研究部(工学)　教授　堀田 裕弘

第3回 7/9(土)
「黒部峡谷の秘めたる自然誌」
大学院理工学研究部（理学）准教授　柏木　健司

第4回 8/6(土)
「草原の民族音楽」
人間発達科学部　准教授　石井　哲夫

第5回 9/3(土)
「生活習慣病と不眠 -糖尿病や高血圧症での快眠対策-」
大学院医学薬学研究部（薬学）　教授　笹岡 利安

第6回 10/1(土)
「多様な性のあり方を考える：自治体・企業・学校と地域社会の新しい役割」
人文学部　准教授　林　夏生

第7回 10/29(土)
「政策的思考と政治的決定 ー二つの狭間で民主主義を考えるー」
経済学部　教授　青木 一益

第8回 11/26(土)
「古代中国殷周青銅器の鋳造技術の解説 ー可動式釣手を持つ蓋付きの酒器「卣(ゆう)」についてー」
芸術文化学部　教授　三船　温尚

平成28年度北陸4大学連携まちなかセミナー

「北陸の古代を探訪する」

日時：10月16日(日)14:00～17:00
会場：富山駅前CiCビル5F いきいきKAN多目的ホール
対象：一般市民の方、どなたでも参加可能
コーディネーター：富山大学人文学部　鈴木　景二
講師：福井大学地域教育科学部　門井　直哉
金沢大学人間社会研究域　吉永　匡史

お問合せ先
富山大学地域連携推進機構生涯学習部門
TEL 076-445-6956　FAX 076-445-6033
ホームページ　http://www.life.u-toyama.ac.jp/
Facebook　https://www.facebook.com/life.univ.toyama
E-mail　lifelong@ctg.u-toyama.ac.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

開設20周年記念講演会

入場無料

日時　2017年 **3月4日(土)　13：30～15：30**

12：30～受付開始

場所　**富山大学黒田講堂**（五福キャンパス）

定員450名 先着順

記念式典

開会挨拶　富山大学長　遠藤 俊郎

来賓祝辞　富山県民生涯学習カレッジ学長　山﨑 弘一 氏

生涯学習部門のあゆみ及び現状報告

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門長　森口 毅彦

記念講演

講師　本木 克英 氏（映画監督）

演題　「富山と映画の意外な関係」

講師プロフィール

富山県富山市出身。松竹㈱に助監督として入社後、米国留学、プロデューサーを経て、「てなもんや商社」で監督デビュー。「超高速！参勤交代」など多数の娯楽映画、テレビドラマを手掛ける。日本アカデミー賞優秀監督賞など受賞多数。

映画監督　本木克英 氏

《主な作品》

「釣りバカ日誌ハマちゃん危機一髪!」

「ドラッグストア・ガール」

「ゲゲゲの鬼太郎」

「犬と私の10の約束」

「鴨川ホルモー」

「超高速！参勤交代」

「超高速！参勤交代リターンズ」(2016年公開)

参加ご希望の方は、富山大学地域連携推進機構宛にメールまたは FAX で次の事項を記入の上お申し込みください。なお、申込受付は 2 月 17 日（金）までとさせていただきます。定員になり次第受付を締め切ります。先着順で受付し、聴講用ハガキを発送いたします。

記入事項：郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号

※記入いただいた住所・氏名等は聴講用ハガキを送付する際参考とさせていただくもので、他の目的には使用いたしません。

お問合せ先　〒930-8555　富山市五福 3190 番地

富山大学地域連携推進機構

電話：076-445-6519　FAX：076-445-6033

E-mail：lifelong20th@adm.u-toyama.ac.jp

※公共交通機関をご利用くださるようお願いします。

主催　富山大学地域連携推進機構

後援　富山県教育委員会、富山市教育委員会、高岡市教育委員会

富山大学市民講座2016

認知症最前線

受講無料

2014年に富山県が実施した調査では、富山県の65歳以上高齢者の15・7％（約5万人）が認知症という結果でした。富山大学による将来予測では、2035年には27・4％（約8・7万人）に増加する可能性があります。増加する認知症に対して何ができるのか―。

今年の富山大学市民講座では、富山大学研究者の認知症に対する取組を、3回シリーズでご紹介します。

平成28年

第1回 10/22（土）　第2回 10/29（土）　第3回 11/5（土）

富山大学理学部2階多目的ホール
（五福キャンパス）

主催 ■ 富山大学地域連携推進機構
共催 ■ 読売新聞北陸支社
後援 ■ 富山県

第1回　10月22日（土）　14:00−16:00

テーマ ■ 認知症の現状と対策

認知症の現状と課題は。認知症の診断や治療は。高福祉国家フィンランドと比較して、日本の認知症対策はどうなのか。第1回は、認知症の現状と対策について、海外事情も含めて概観します。

認知症の現状と課題
地域連携推進機構　地域医療・保健支援部門長
大学院医学薬学研究部（医学）　教授　関根　道和

認知症の診断と治療
附属病院　助教　木戸　幹雄

認知症対策：日本とフィンランド
大学院医学薬学研究部（医学）　助教　山田　正明

第2回　10月29日（土）　14:00−16:00

テーマ ■ 地域や家庭で認知症高齢者を看る

病院完結型医療から地域完結型医療への転換が進められています。第2回は、地域や家庭における認知症高齢者との共生を考えます。

認知症高齢者も安心して歩ける地域づくり
大学院医学薬学研究部（医学）　教授　田村須賀子

家庭での介護〜介護うつ、虐待に陥らないために〜
大学院医学薬学研究部（医学）　教授　竹内登美子

第3回　11月5日（土）　14:00−16:00

テーマ ■ 脳科学・漢方薬と認知症

富山大学が世界に誇る脳科学と和漢医薬学。最終回は、脳科学や和漢医薬学による認知症対策についてご紹介します。

脳科学からみた認知症予防と治療
大学院医学薬学研究部（医学）　教授　西条　寿夫

認知症と漢方治療
和漢医薬学総合研究所　教授　柴原　直利

お問い合わせ ■ 富山大学地域連携推進機構　TEL：076-445-6519　FAX：076-445-6033
メール：chiiki@adm.u-toyama.ac.jp

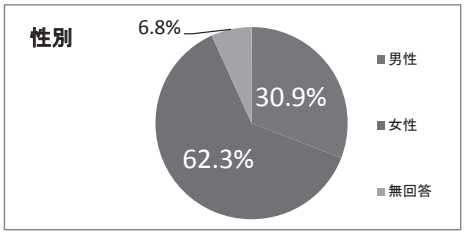
リサイクル適性Ⓐ

2016 富山大学市民講座「認知症最前線」アンケート結果【全体】

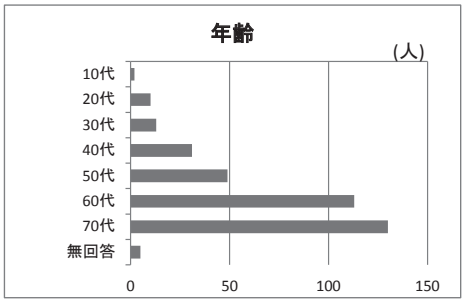
平成28年12月5日

アンケート回収率

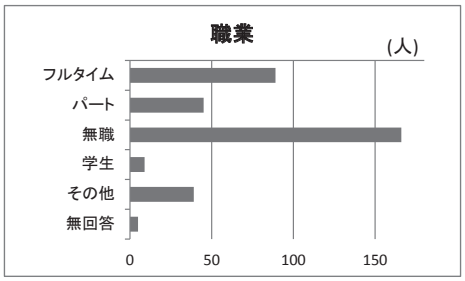
開催回	受講者数	回収数	回収率
第1回	172	124	72.1%
第2回	149	118	79.2%
第3回	141	111	78.7%
計	462	353	76.4%



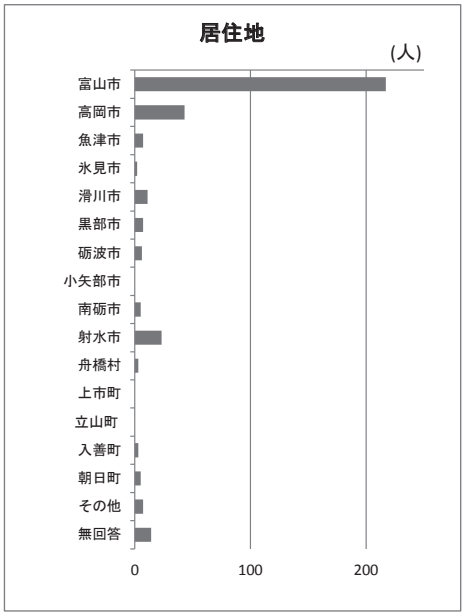
性別	第1回	第2回	第3回	合計(人)	構成比
男性	41	39	29	109	30.9%
女性	77	68	75	220	62.3%
無回答	6	11	7	24	6.8%
計	124	118	111	353	



年齢	第1回	第2回	第3回	合計(人)	構成比
10代	0	1	1	2	0.6%
20代	5	3	2	10	2.8%
30代	2	5	6	13	3.7%
40代	15	10	6	31	8.8%
50代	22	12	15	49	13.9%
60代	34	44	35	113	32.0%
70代	44	42	44	130	36.8%
無回答	2	1	2	5	1.4%
計	124	118	111	353	



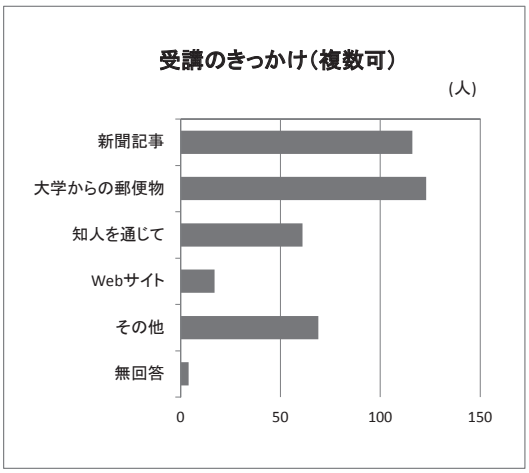
職業	第1回	第2回	第3回	合計(人)	構成比
フルタイム	40	29	20	89	25.2%
パート	13	16	16	45	12.7%
無職	53	57	56	166	47.0%
学生	3	3	3	9	2.5%
その他	13	12	14	39	11.0%
無回答	2	1	2	5	1.4%
計	124	118	111	353	



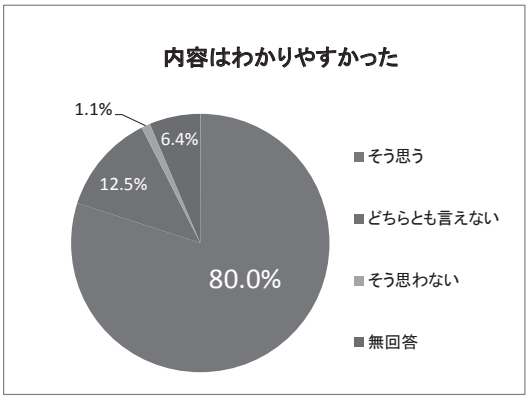
居住地	第1回	第2回	第3回	合計(人)	構成比
富山市	79	68	70	217	61.5%
高岡市	17	17	9	43	12.2%
魚津市	4	2	1	7	2.0%
氷見市	0	1	1	2	0.6%
滑川市	4	3	4	11	3.1%
黒部市	1	4	2	7	2.0%
砺波市	3	1	2	6	1.7%
小矢部市	0	0	0	0	0.0%
南砺市	2	2	1	5	1.4%
射水市	6	5	12	23	6.5%
舟橋村	1	1	1	3	0.8%
上市町	0	0	0	0	0.0%
立山町	0	0	0	0	0.0%
入善町	0	1	2	3	0.8%
朝日町	1	2	2	5	1.4%
その他	4	2	1	7	2.0%
無回答	2	9	3	14	4.0%
計	124	118	111	353	

2016 富山大学市民講座「認知症最前線」アンケート結果【全体】

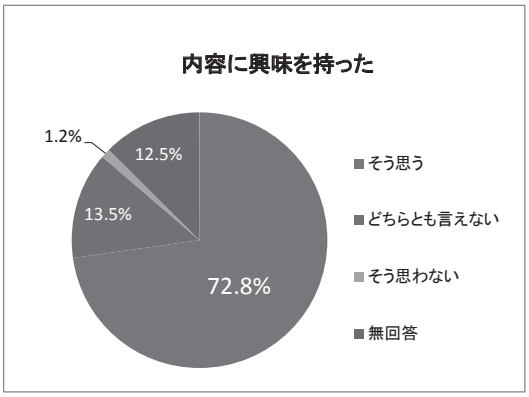
平成28年12月5日



受講のきっかけ（複数可）	第1回	第2回	第3回	合計（人）	構成比
新聞記事	35	40	41	116	29.7%
大学からの郵便物	38	42	43	123	31.5%
知人を通じて	25	18	18	61	15.6%
Webサイト	5	6	6	17	4.4%
その他	29	20	20	69	17.7%
無回答	1	2	1	4	1.0%
計	133	128	129	390	

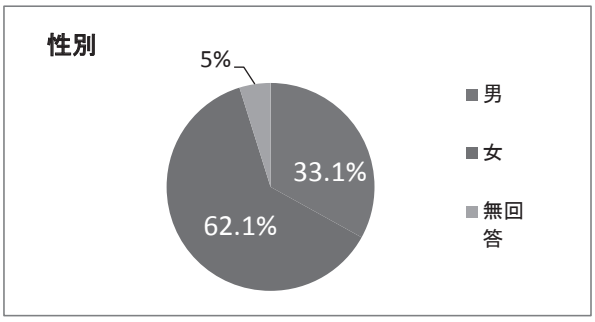


内容はわかりやすかった	第1回			第2回		第3回		合計（人）	構成比
	講演1	講演2	講演3	講演1	講演2	講演1	講演2		
そう思う	113	103	92	77	104	79	96	664	80.0%
どちらとも言えない	7	9	12	31	4	30	11	104	12.5%
そう思わない	0	1	1	4	1	2	0	9	1.1%
無回答	4	11	19	6	9	0	4	53	6.4%
計	124	124	124	118	118	111	111	830	



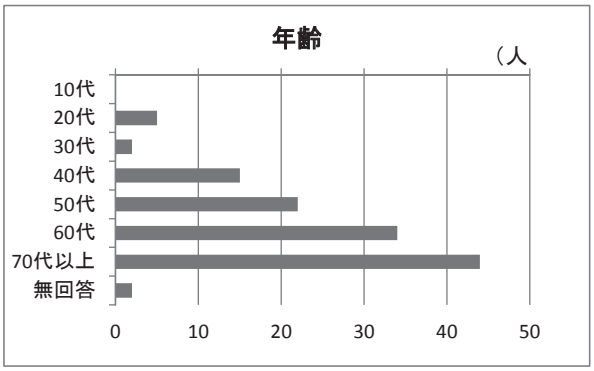
内容に興味を持った	第1回			第2回		第3回		合計（人）	構成比
	講演1	講演2	講演3	講演1	講演2	講演1	講演2		
そう思う	104	87	87	56	92	87	91	604	72.8%
どちらとも言えない	10	19	12	40	10	14	7	112	13.5%
そう思わない	0	1	0	6	2	1	0	10	1.2%
無回答	10	17	25	16	14	9	13	104	12.5%
計	124	124	124	118	118	111	111	830	

2016富山大学市民講座「認知症最前線」
第１回「認知症の現状と対策」アンケート集計結果

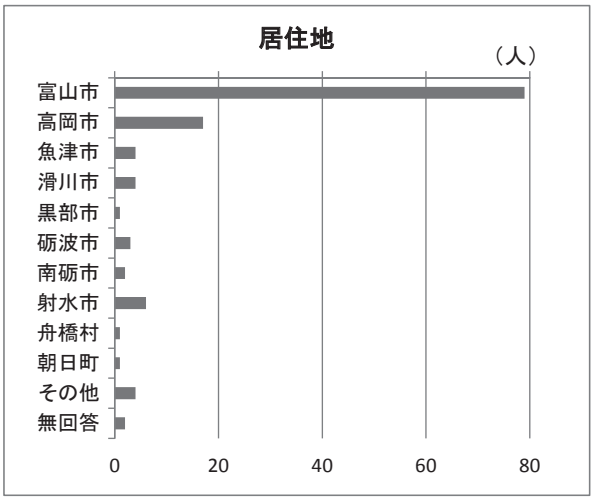


第1回アンケート	
受講者数	172
回収数	124
回収率	72.1%

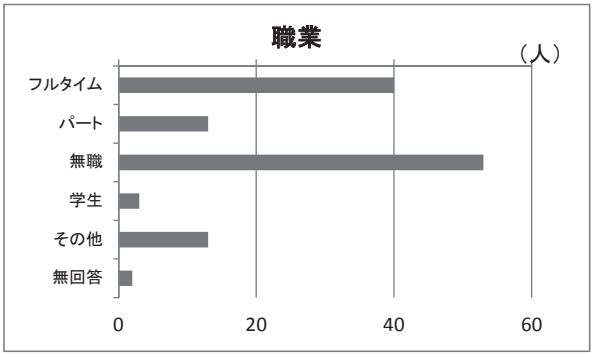
性別	（人）
男	41
女	77
無回答	6
計	124



年齢	（人）
10代	0
20代	5
30代	2
40代	15
50代	22
60代	34
70代以上	44
無回答	2
計	124

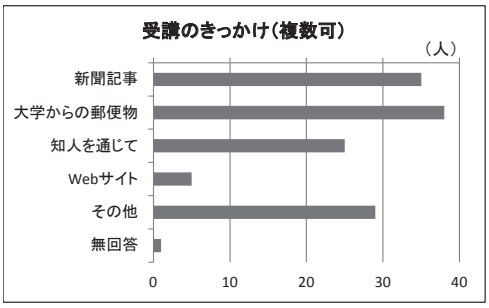


居住地	（人）
富山市	79
高岡市	17
魚津市	4
氷見市	0
滑川市	4
黒部市	1
砺波市	3
小矢部市	0
南砺市	2
射水市	6
舟橋村	1
上市町	0
立山町	0
入善町	0
朝日町	1
その他	4
無回答	2
計	124



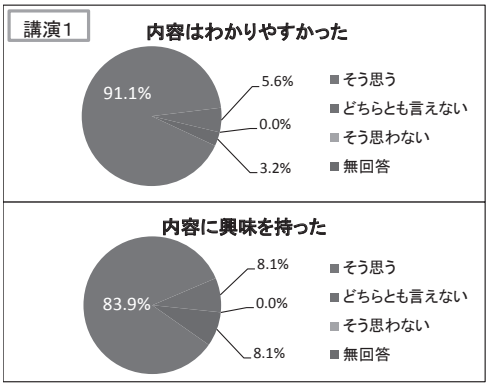
職業	（人）
フルタイム	40
パート	13
無職	53
学生	3
その他	13
無回答	2
計	124

2016富山大学市民講座「認知症最前線」
第1回「認知症の現状と対策」アンケート集計結果



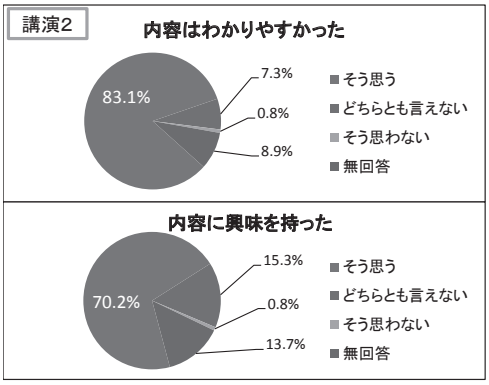
受講のきっかけ(複数可)	（人）
新聞記事	35
大学からの郵便物	38
知人を通じて	25
Webサイト	5
その他 ※	29
無回答	1
計	133

その他（内訳）	（人）
病院の掲示	7
職場・研修会	10
町内回覧板	2
チラシ・ポスター	10
計	29



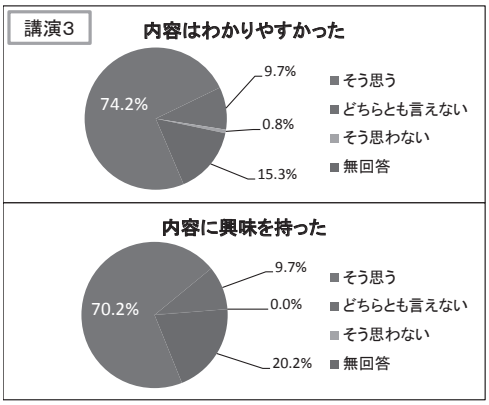
講演1	内容はわかりやすかった	
そう思う	113	91.1%
どちらとも言えない	7	5.6%
そう思わない	0	0.0%
無回答	4	3.2%
計	124	

講演1	内容に興味を持った	
そう思う	104	83.9%
どちらとも言えない	10	8.1%
そう思わない	0	0.0%
無回答	10	8.1%
計	124	



講演2	内容はわかりやすかった	
そう思う	103	83.1%
どちらとも言えない	9	7.3%
そう思わない	1	0.8%
無回答	11	8.9%
計	124	

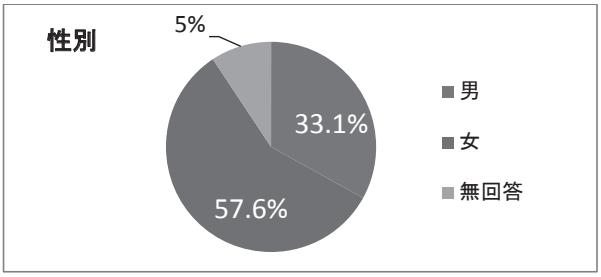
講演2	内容に興味を持った	
そう思う	87	70.2%
どちらとも言えない	19	15.3%
そう思わない	1	0.8%
無回答	17	13.7%
計	124	



講演3	内容はわかりやすかった	
そう思う	92	74.2%
どちらとも言えない	12	9.7%
そう思わない	1	0.8%
無回答	19	15.3%
計	124	

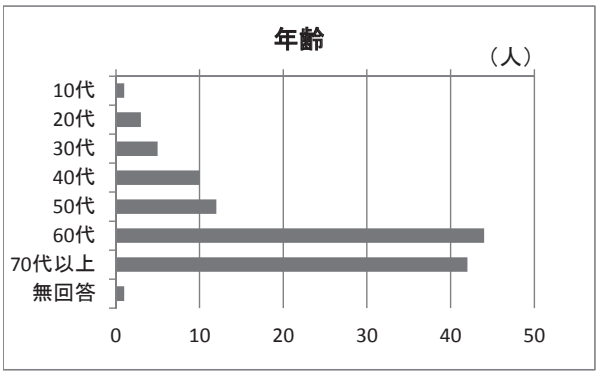
講演3	内容に興味を持った	
そう思う	87	70.2%
どちらとも言えない	12	9.7%
そう思わない	0	0.0%
無回答	25	20.2%
計	124	

2016富山大学市民講座「認知症最前線」
第2回「地域や家庭で認知症高齢者を看る」アンケート集計結果

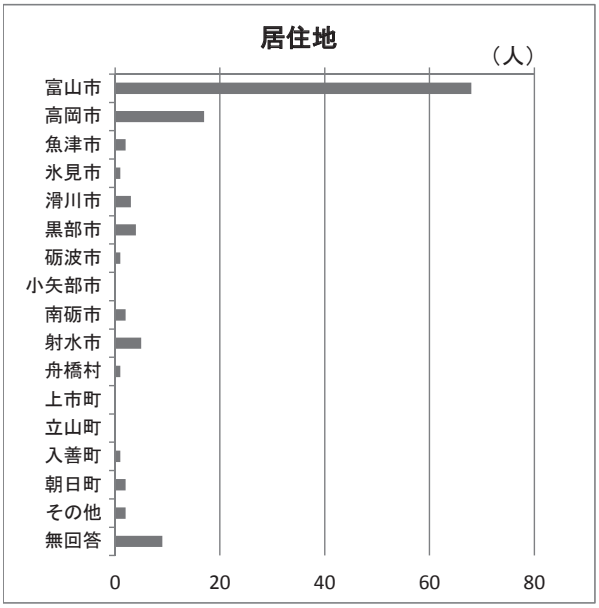


第2回アンケート	
受講者数	149
回収数	118
回収率	79.2%

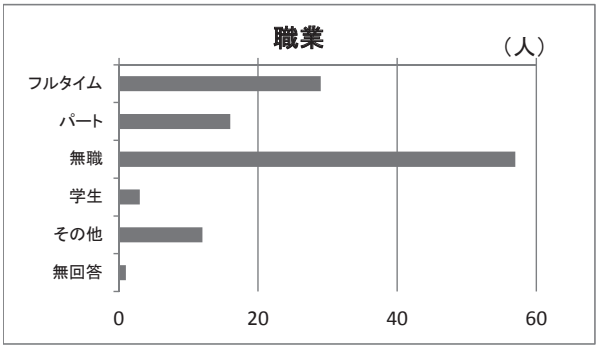
性別	（人）
男	39
女	68
無回答	11
計	118



年齢	（人）
10代	1
20代	3
30代	5
40代	10
50代	12
60代	44
70代以上	42
無回答	1
計	118

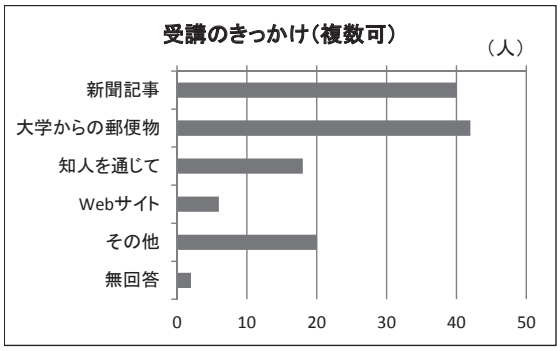


居住地	（人）
富山市	68
高岡市	17
魚津市	2
氷見市	1
滑川市	3
黒部市	4
砺波市	1
小矢部市	0
南砺市	2
射水市	5
舟橋村	1
上市町	0
立山町	0
入善町	1
朝日町	2
その他	2
無回答	9
計	118



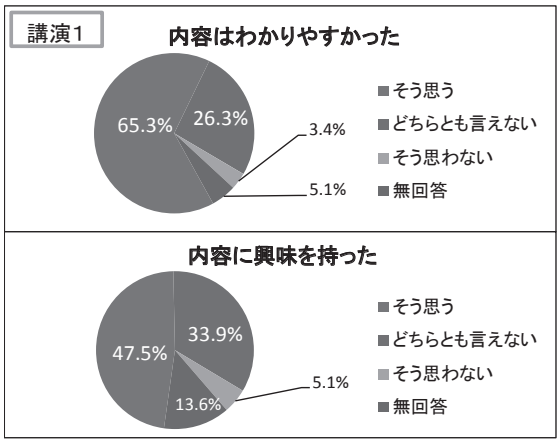
職業	（人）
フルタイム	29
パート	16
無職	57
学生	3
その他	12
無回答	1
合計	118

2016富山大学市民講座「認知症最前線」
第2回「地域や家庭で認知症高齢者を看る」アンケート集計結果



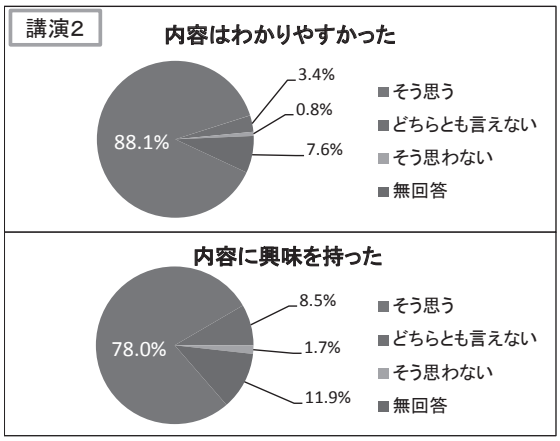
受講のきっかけ(複数可)	（人）
新聞記事	40
大学からの郵便物	42
知人を通じて	18
Webサイト	6
その他 ※	20
無回答	2
計	128

その他（内訳）	（人）
病院の掲示	7
職場・研修会	6
町内回覧板	1
チラシ・ポスター	6
計	20



講演1	内容はわかりやすかった	
そう思う	77	65.3%
どちらとも言えない	31	26.3%
そう思わない	4	3.4%
無回答	6	5.1%
計	118 人	

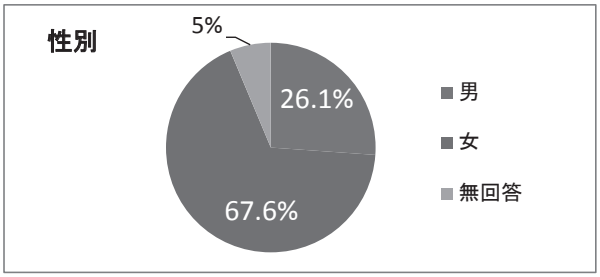
講演1	内容に興味を持った	
そう思う	56	47.5%
どちらとも言えない	40	33.9%
そう思わない	6	5.1%
無回答	16	13.6%
計	118 人	



講演2	内容はわかりやすかった	
そう思う	104	88.1%
どちらとも言えない	4	3.4%
そう思わない	1	0.8%
無回答	9	7.6%
計	118 人	

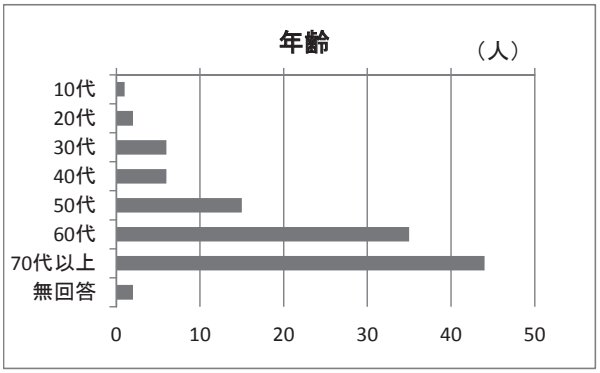
講演2	内容に興味を持った	
そう思う	92	78.0%
どちらとも言えない	10	8.5%
そう思わない	2	1.7%
無回答	14	11.9%
計	118 人	

2016富山大学市民講座「認知症最前線」
第3回「脳科学・漢方薬と認知症」アンケート集計結果

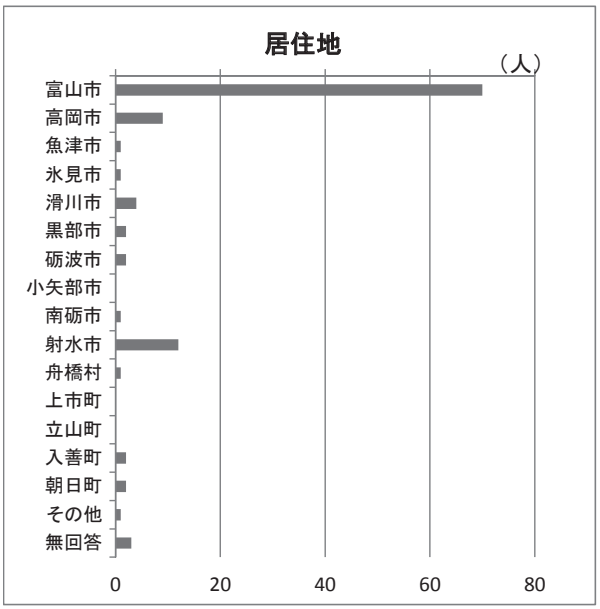


第2回アンケート	
受講者数	141
回収数	111
回収率	78.7%

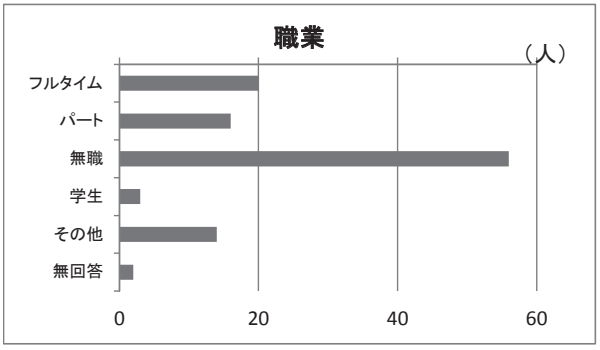
性別	（人）
男	29
女	75
無回答	7
合計	111



年齢	（人）
10代	1
20代	2
30代	6
40代	6
50代	15
60代	35
70代以上	44
無回答	2
合計	111

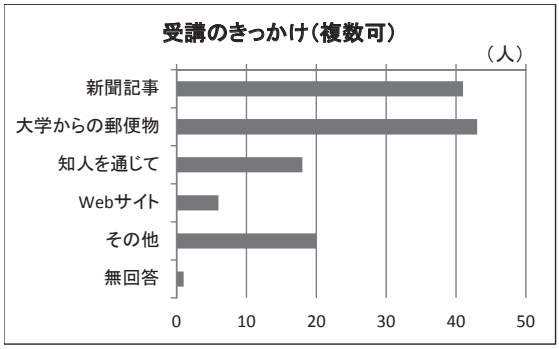


居住地	（人）
富山市	70
高岡市	9
魚津市	1
氷見市	1
滑川市	4
黒部市	2
砺波市	2
小矢部市	0
南砺市	1
射水市	12
舟橋村	1
上市町	0
立山町	0
入善町	2
朝日町	2
その他	1
無回答	3
合計	111



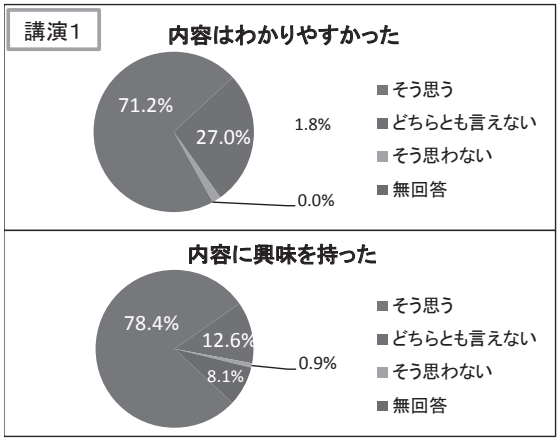
職業	（人）
フルタイム	20
パート	16
無職	56
学生	3
その他	14
無回答	2
合計	111

2016富山大学市民講座「認知症最前線」
第3回「脳科学・漢方薬と認知症」アンケート集計結果



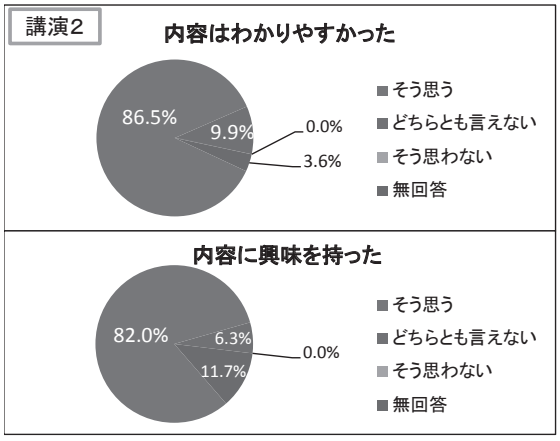
受講のきっかけ(複数可)	（人）
新聞記事	41
大学からの郵便物	43
知人を通じて	18
Webサイト	6
その他 ※	20
無回答	1
計	129

その他（内訳）	（人）
病院の掲示	7
職場・研修会	6
町内回覧板	1
チラシ・ポスター	6
計	20



講演1	内容はわかりやすかった	
そう思う	79	71.2%
どちらとも言えない	30	27.0%
そう思わない	2	1.8%
無回答	0	0.0%
計	111 人	

講演1	内容に興味を持った	
そう思う	87	78.4%
どちらとも言えない	14	12.6%
そう思わない	1	0.9%
無回答	9	8.1%
計	111 人	



講演2	内容はわかりやすかった	
そう思う	96	86.5%
どちらとも言えない	11	9.9%
そう思わない	0	0.0%
無回答	4	3.6%
計	111 人	

講演2	内容に興味を持った	
そう思う	91	82.0%
どちらとも言えない	7	6.3%
そう思わない	0	0.0%
無回答	13	11.7%
計	111 人	

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

キャリアデザイン講座

“地域を学び，地域で働こう！　～地域リーダーという仕事の魅力～”

＜概要・目的＞

- COC+事業の一環としての高大連携推進の取組み
- 高校生に，将来，地域（地元）において地域（地元）のために仕事をし，活躍するという進路（学びと仕事）を知ってもらい，地域課題解決のための地域リーダーを目指してもらうためのセミナー等の開催

＜プロジェクトの意義＞

高校生	新たな進路の発見につながる。地域（大好きな地元）にいながら地域（地元）のために仕事をし，活躍するという進路があることを知ることで，自分の将来に新たな目標ができ，進学への意欲が高まる。
保護者	新たな進路の発見につながる。大切なお子さんが地域（地元）で学び，地域で働き活躍し，充実した有意義な生活を地域で送ることができることへの安心感と満足感を得られる。また，お子さんが地元で学び働くことで，経済的負担の軽減も可能になる。
高校	正課の中ではなかなか対応できない生徒さんたちの進路に対する情報提供ニーズに応えることができる。生徒さんたちに大学進学という直近の進路だけではなく，将来の仕事まで具体的に見据えた進路指導（情報提供）をすることができ，生徒さんたちの進学に対する意欲を高め，また進学後のミスマッチを防ぐことができる。
大学	目的意識のある意欲的な学生の確保と，卒業生を地域リーダーとして地域へ送り出すことによる地域貢献が可能になる。

- 県内の自治体・企業が COC+に全面的に連携・協力しており，地域を学び，地域で活躍する人材の就職をまさに地域をあげて支援する体制を築いていることから，地域（地元）への就職がきわめて有利になっている。
- そのための学びの拠点，就職の準備の拠点として富山大学が位置づけられていることから，富山大学への進学も地元への就職にとってきわめて有意義な選択となっている。

＜実施内容＞（案）※

■　放課後の「教養講座」（や「総合学習」）の時間枠の活用

■　講座内容案（50 分の枠）:

1. 地域リーダーという仕事の紹介（5 分）
   ～地域の魅力向上と課題解決へ向けて～
2. 地域が抱える課題とその解決への取組み事例の紹介（30 分）
   ～自治体や企業で活躍する若手リーダー（OB・OG）による講演～
3. 地域の課題を考えるワークショップ（10 分）
4. 富山大学における「地域の学びと地域への就職」の紹介（5 分）
   ～富山大学の COC+事業の特色と PBL の紹介（ビデオ放映）～

※各高校の状況や希望にあわせた内容に適宜変更。

平成２８年度キャリアデザイン講座に係る高校と連携状況
～高大連携推進プロジェクトの提案～

H29.2.28 現在

【打合せ状況】

〇富山中部高校

・日時：８月４日（木）13:30-14:30

〇南砺福野高校

・日時：８月５日（金）9:30-10:20

〇高岡南高校

・日時：８月５日（金）11:00-11:45,　８月２３日（火）15:00-16:00

〇小杉高校

・日時：８月２４日（水）14:00-15:00, ９月５日（月）15:50-17:30

〇砺波高校

・日時：８月２４日（水）16:00-17:00

〇魚津高校

・日時：９月２９日（水）10:00-11:00

【キャリアデザイン講座実施状況】

〇南砺福野高校

・日時：９月１７日（土）10:00-10:30, 10:45-11:15　南砺福野高校

・「進路セミナー」の枠で実施

・「私の仕事と COC+(地方創生)」と題して，地域連携戦略室のコーディネーターが講演

〇高岡南高校

・実施日時：１０月２０日（木）　富山大学五福キャンパス・杉谷キャンパス

・「大学連携講座：探究的学習」の枠で，五福・杉谷で各１回セミナー開催

・富山で働きくらすことを考えるきっかけとなるような情報提供や COC+事業の紹介等

・森口部門長及び地域連携戦略室のコーディネーターが説明

以　上

平成28年度講師紹介等実績一覧

生涯学習部門教員

平成29年2月28日現在（予定を含む）

No.	依頼者	企画名等	開催日	紹介者　氏名	所　属	資料p.
1	富山県	世界遺産人材育成プロジェクト ユースプログラム	H28.8.24-27	ー	生涯学習部門	
2	富山県教育委員会	平成28年度第1回富山県社会教育主事等研修会	H28.7.15	藤田　公仁子	生涯学習部門	
3	県民カレッジ高岡地区センター	ふるさと発見講座	H28.12.14	竹内　章	理学部客員教授	
4	富山県教育委員会	高等学校生徒指導連絡協議会	H29.1.18	長谷川　春生	人間発達科学部	
5	富山県中小企業家同友会	経営者大学第15期　第1回	H28.8.23	福島　洋樹	人間発達科学部	
6	富山県中小企業家同友会	経営者大学第15期　第2回	H28.9.9	小助川　貞次	人文学部	
7	富山県中小企業家同友会	経営者大学第15期　第3回	H28.9.23	松藤　展和	（株）アップコン	
8	富山県中小企業家同友会	経営者大学第15期　第4回	H28.10.6	千田　晋	研究推進機構産学連携推進センター	
9	富山県中小企業家同友会	経営者大学第15期　第5回	H28.10.26	内田　康郎	経済学部	
10	富山県社会福祉協議会 富山県いきいき長寿センター	平成28年度富山県いきいき長寿大学 すこやか生活講座　第1回	H28.6.16 H28.7.15	杉山　敏郎	医学部	
11	富山県社会福祉協議会 富山県いきいき長寿センター	平成28年度富山県いきいき長寿大学 すこやか生活講座　第2回	H28.6.28 H28.6.6	冨原　圭	附属病院	
12	富山県社会福祉協議会 富山県いきいき長寿センター	平成28年度富山県いきいき長寿大学 すこやか生活講座　第3回	H28.7.12 H28.7.14	下条　竜一	附属病院	
13	富山県社会福祉協議会 富山県いきいき長寿センター	平成28年度富山県いきいき長寿大学 すこやか生活講座　第4回	H28.7.13 H28.6.27	高嶋　修太郎	附属病院	
14	富山市立図書館	キラリ！図書館プロジェクト2016 セミナー	H28.4.28	鈴木　景二	人文学部	
15	富山市立図書館	キラリ！図書館プロジェクト2016 セミナー	H28.6.26	中井　精一	人文学部	
16	富山市立図書館	キラリ！図書館プロジェクト2016 セミナー	H28.9.25	白木　公康	医学部	
17	富山市立図書館	キラリ！図書館プロジェクト2016 セミナー	H28.12.3	隅　敦	人間発達科学部	
18	富山市立図書館	キラリ！図書館プロジェクト2016 セミナー	H29.3.18	林　暁	芸術文化学部	
19	富山市立図書館	TOYAMAキラリ開館1周年記念 ナレッジフォレスト	H28.8.7-9.3	藤田　公仁子	生涯学習部門	
20	富山市立図書館	交流行事「星空を探検しよう」 セミナー	H28.8.6	（学生ボランティア）	天文同好会	
21	富山市立図書館	交流行事「星空を探検しよう」 ワークショップ	H28.8.6	（学生ボランティア）	天文同好会	
22	高岡市	生涯学習センター自主講座	H28.6.29 H28.7.6	中井　精一	人文学部	
23	高岡市	生涯学習センター自主講座	H28.12.2 H28.12.9	三宮　千佳	芸術文化学部	
24	黒部市民病院	職員教育研修　教養講座	H28.11.17	渡邊　了	理学部	
25	滑川市	滑川市福寿大学	H28.11.25	青木　一真	理学部	

No.	依頼者	企画名等	開催日	紹介者　氏名	所　属	資料p.
26	射水市	家庭教育支援講座　第1回	H28.2.8	若山　育代	人間発達科学部	
27	射水市	家庭教育支援講座　第2回	H28.10.29	小林　真	人間発達科学部	
28	射水市	家庭教育アドバイザー養成講座　第1回	H28.8.3	小林　真	人間発達科学部	
29	射水市	家庭教育アドバイザー養成講座　第1回	H28.8.3	長谷川　春生	人間発達科学部	
30	射水市	家庭教育アドバイザー養成講座　第2回	H28.8.5	若山　育代	人間発達科学部	
31	射水市	家庭教育アドバイザー養成講座　第2回	H28.8.5	藤田　公仁子	生涯学習部門	
32	射水市	家庭教育アドバイザー養成講座　第3回	H28.8.8	竹澤　みどり	保健管理センター	
33	南砺市	緑の里講座　第9回	H28.9.7	渡辺　志朗	和漢医薬学総合研究所	
34	南砺市	緑の里講座　第11回	H28.10.5	藤田　秀樹	人文学部	
35	NPO法人ワーカーズコープ 富山事業所	農業と福祉の地域づくりセミナーinやまだ	H29.3.5	藤田　公仁子	生涯学習部門	
36	野々市市立図書館	図書館活用講座	H28.9.10	藤田　公仁子	生涯学習部門	
37	金沢大学地域連携推進センター	平成28年度金沢大学社会教育主事講習	H28.7.29	藤田　公仁子	生涯学習部門	
38	石川県教育委員会	平成28年度　石川県公民館職員基礎研修	H28.7.14	藤田　公仁子	生涯学習部門	
39	石川県教育委員会	平成28年度　石川県公民館職員専門研修	H28.6.23	藤田　公仁子	生涯学習部門	
40	石川県市立図書館研究会	平成28年度　石川県市立図書館研究会	H29.2.3	藤田　公仁子	生涯学習部門	
41	七尾市公民館連合会	平成28年度　七尾市公民館大会	H29.2.4	藤田　公仁子	生涯学習部門	
42	愛知県公民館連合会	平成28年度　愛知県公民館連合会総会 記念講演	H28.5.31	藤田　公仁子	生涯学習部門	
43	公益社団法人全国公民館連合会	第53回東海北陸公民館大会	H28.10.20-21	藤田　公仁子	生涯学習部門	
44	青森県弘前市	弘前市公民館関係職員研修会	H28.10.14	藤田　公仁子	生涯学習部門	
45	学びを通じた地方創生コンファレンス東京実行委員会	学び合いが拓く持続可能な社会「東京コンファレンス」（文部科学省委託事業）	H29.2.5-6	藤田　公仁子	生涯学習部門	
46	学び合いの場デザイン・ネットワーク	地域と高校生との対話による学び合いの場コンファレンス2016（文部科学省委託事業）	H29.1.21-22	藤田　公仁子	生涯学習部門	
47	文部科学省	中央教育審議会生涯学習分科会 学習成果活用部会　第13回	H28.4.25	藤田　公仁子	生涯学習部門	
48	文部科学省	土曜学習応援団への賛同	H27.6.29-	ー	生涯学習部門	
49	文部科学省	地方創生全国コンファレンス　第2回 「学びで地域を元気に！」	H29.2.20-21	藤田　公仁子	生涯学習部門	
50	放送大学 富山学習センター	オープンセミナー	H29.2.4	鈴木　景二	人文学部	
51	富山大学教養教育総合科目	特殊講義「富山から考える震災・復興学」特別講演会「食品中の放射能と安全基準」	H29.1.17	ー	生涯学習部門	

No.	依頼者	企画名等	開催日	紹介者　氏名	所　属	資料p.
52	富山大学教養教育総合科目	特殊講義「富山から考える震災・復興学」 志賀町野外実習	H29.2.14	―	生涯学習部門	
53	富山大学人間発達科学部科学コミュニケーション研究室	ドキュメンタリー映画『不思議なクニの憲法』を観る会	H29.1.28-29	―	生涯学習部門	

生涯学習相談一覧

平成29年2月28日現在

No.	相談者
1	射水市
2	富山県中小企業家同友会
3	石川県野々市市
4	富山大学学生の地域活動
5	受講生向け生涯学習相談

審議会等委員一覧

平成29年2月28日現在

No.	機関	審議会等	任期	委員氏名	所　属
1	富山県教育員会	土曜学習モデル事業推進委員会　委員	H28.6.21-H29.3.31	藤田　公仁子	生涯学習部門
2	文部科学省	中央教育審議会生涯学習分科会 学習成果活用部会　専門員	H27.6.4-H29.2.28	藤田　公仁子	生涯学習部門
3	文部科学省	学びを通じた地方創生コンファレンス支援協力者委員会　委員	H28.8.9-H29.3.31	藤田　公仁子	生涯学習部門
4	農林水産省	食育推進ボランティア表彰審査委員会　委員	H28.4.13-H28.6.11	藤田　公仁子	生涯学習部門
5	(株)学研教育アイ・シー・ティー	ICTを活用した「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の構築に関する調査研究　評価委員会委員	H29.1.16-H29.3.31	藤田　公仁子	生涯学習部門

世界遺産 人材育成プロジェクト ユースプログラム

富山県が自信を持っておススメする、立山・黒部地域の世界遺産"候補"とは何か？

その歴史的な成り立ちとは？

富山県の知られざる魅力を再発見しながら、

新たな世界遺産登録を目指す取組みについて、一緒に考えてみませんか。

大学生参加者募集

ユースプログラムのココがすごい！

- 世界遺産の専門家から、世界遺産にまつわる貴重なお話が聞けます。
- 一般の方は通常入ることのできない、世界遺産候補地（立山カルデラ）を専門家の解説付きで見学することができます。

平成28年

8月24日(水)～27日(土)

プログラム日程の詳細は裏面を参照ください。

立山砂防
工事専用軌道
（トロッコ）に乗れる！

場　所●富山県民会館704会議室（富山市新総曲輪4番18号）

対象者●大学生等（18歳以上30歳未満の方）**定員20名 先着順**

申込期間●平成28年6月13日(月) 8：30～7月29日(金) 17：00

申込方法●**要事前申込** 裏面を参照ください。

主催●富山県世界遺産登録推進事業実行委員会

現地視察では
立山カルデラに行きます

世界遺産 人材育成プロジェクト ユースプログラム

白岩砂防堰堤（重要文化財）

8月24日(水)

13：00～13：30	オリエンテーション
13：30～15：00	講座1（世界遺産の総論） 講師：文化庁文化財調査官　鈴木 地平氏
15：00～15：30	映像上映（立山砂防～世界文化遺産登録を目指して）

8月25日(木)

10：25～10：30	オリエンテーション
10：30～12：00	講座2（立山の自然と災害） 講師：立山カルデラ砂防博物館館長　本田 孝夫氏
13：00～14：30	講座3（立山砂防事業・現在の暮らしと砂防） 講師：国土交通省立山砂防事務所長　大坂 剛氏
14：30～16：00	講座4（立山・黒部の世界遺産登録の取組み） 講師：富山県知事政策局

昨年度ユースプログラムの様子（講義）

8月26日(金)

8：30～18：00	立山カルデラ見学 ・立山カルデラ砂防博物館 ・立山砂防工事専用軌道（トロッコ）乗車 ・白岩砂防堰堤（重要文化財） ・跡津川断層 ・本宮砂防堰堤　　等、世界遺産候補地を見学 講師：国土交通省 立山砂防事務所

昨年度ユースプログラムの様子（現地見学）

8月27日(土)

10：00～10：05	オリエンテーション
10：05～12：00 13：00～14：00	まとめ・意見交換 講師：富山国際大学教授　尾畑 納子先生
14：00～14：30	修了証交付・アンケート記入

昨年度ユースプログラムの様子（意見交換）

※プログラムの内容・時間・講師は今後変更となる可能性があります。

申込方法

申込期間：平成28年6月13日（月）8：30～7月29日（金）17：00

件名を【世界遺産ユースプログラム申込み】とし、
右記①～⑦の事項を本文に記載の上、メールで送信してください。
（定員20名　先着順）

申込先メールアドレス：achijiseisaku@pref.toyama.lg.jp

① 住所（郵便番号を含む）
② 氏名（漢字及びふりがな）
③ 生年月日
④ 性別
⑤ 電話番号
⑥ メールアドレス
⑦ 在籍学校名・学部（専攻）・学年

問合せ先　富山県世界遺産登録推進事業実行委員会事務局（富山県知事政策局内）
〒930-8501　富山市新総曲輪1-7　TEL. 076-444-4604　メールアドレス achijiseisaku@pref.toyama.lg.jp

会員各位

2016. 7月. 吉日

富山県中小企業家同友会
共育委員長　永森裕章

富山県中小企業家同友会

経営者大学第１５期のご案内

～幅広い学びを通して、経営者としての総合力を向上させることを目指そう！～

2002年にスタートした経営者大学も１５期を迎えました。私たち中小企業が経営を維持発展させていくためには、社員を採用・教育し、その能力を主体的に発揮する仕組みや環境をつくることが大切です。

そのためには、経営者の力量を更にアップさせるだけでなく、経営理念を社員と共有して、社員がイキイキと働ける組織や風土に、会社を変革していくことが必要です。

第１５期は、「今、大きく変化する社会と時代の中、従来の事業をそのまま継承するのではなく、客観的に自社を見直し、経営の多角化・事業転換・他社との連携など様々な視点で新しい仕事づくり、社員の現状を正しくつかむ」の視点から内容を組み立てました。

講師には、富山大学のご協力による各分野のエキスパートに協力頂きました。

現在の経営環境を「全員経営」で打破していく！という視点で、これからの方向性や展望を考えるヒントと勇気が沸いてくる内容であると確信しております。　***ぜひ、幹部の皆さんと一緒に参加ください。***

経営者大学の目的：激動期を確かに生きるための知識を様々な角度から学び、これからの社会と経営の発展方向を洞察し、「共育」力を身につけます。

《募　集　要　項》

■対　象　経営者・後継者・幹部社員
■期　間　8/23(火)、9/9(金)、9/23(金)、10/6(木)、10/26(火)全５講
　　＊４講以上出席者には、修了証授与
■会　場　富山大学　生涯学習部門〇〇階（申込者には案内図送付）
■時　間　１８：００～２１：００　***時間厳守！！***
■内　容　カリキュラムは裏面参照
　　＜主な進め方＞　講義+グループ討論+補足講義が基本ですが、内容によっては異なります。
■定　員　３０名　　※対象：経営者、後継者、幹部社員
■受講料　会員企業一人１５、０００円（同一企業で複数参加の場合は、２人目からは８、０００円）
　　会員外企業一人20、000円）　　＊単講受講、１回４、０００円
■申し込み　ＦＡＸ：０７６-４５２－６１１６　　ＴＥＬ：０７６－４５２－６００６
主　催：富山県中小企業家同友会 共育委員会　　共　賛：富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

切　り　取　り　線

経営者大学　第１５期　参加申込書　　会社名

	参加者氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ)	役　職	年　齢	単講受講希望の場合は講座番号記入
1				
2				
3				

第１５期経営者大学＜カリキュラム＞

	日時・講師	テーマ・学ぶポイント
第1講	**8月23日(火)** 講師 **福島洋樹**氏 富山大学 人間発達科学部 准教授	**「行動を導く―脳の認知と行動分析」** 社員ひとりひとりの【行動】の集積が企業活動そのものです。ある物事に対して【脳】が意味づけ（認知）をし、それにより【心】に感情が生まれ、その感情に則して【行動】がアウトプットされます。望ましい【行動】を導くには、まずは物事に対する【脳】の意味づけ（認知）をコントロールするトレーニングが必要です。 また、「ある【行動】が今後も繰り返されるか、それともしなくなってしまうかは、その【行動】をした【直後】に何が起こるかで決まります（B・F・スキナー：心理学者）」。ある【行動】に問題がある場合、その原因を分析することで、解決につながる可能性も広がります。
第2講	**9月9日(金)** 講師 **小助川貞次**氏 富山大学 人文学部　教授	**「アカデミック・デザインの挑戦」** かつて就職活動が3年生の3月に解禁されていたころ、私はある研究会を立ち上げようと画策していました。そのチラシには「3月解禁の「就活」。なぜみなさんは一斉にキャンパスを出て行くのですか？ 働くこと、もちろんこれはとても大切なことです。自活のため、自己実現のため、家族を養うため、社会貢献をするため・・・。でもみなさんは気がつかないうちに「就活」キャンペーンに乗せられていませんか？ 青年期のまっただ中にある大学生として、「就活」以上に大切なことがもっとたくさんあるはずです。」と学生に呼びかける文言を散りばめました。この研究会は立ち上がることはありませんでしたが、現在は教養教育や授業外活動を通して、その一部を実践しています。これらの授業や活動に参加している学生達は何を感じているのか、ここ数年のデータをもとに皆さんと一緒に分析していきたいと思います。画策していた研究会の名称は講座当日に明かします。お楽しみに！
第3講	**9月23日(金)** 講師 **松藤　展和**氏 アップコン㈱ 代表取締役	**「日本語のレベルアップで社員が成長」** アップコン㈱は、地盤沈下による『床』の沈下や段差を、ウレタン樹脂を使って短時間で修正している施工会社です。 施工が終了すると、担当者が施工結果や考察などを記述した報告書を顧客に提出するのですが、「文章がわかりずらい」「誤字脱字が多い」などで報告書作成に時間を要していました。社員の日本語能力を高める必要性を痛感し、取り入れたのが日本語検定です。 活用後は、文章能力が上がりミスも減りました。そして何より、報告書を早く渡すことができるようになり、顧客との信頼関係が高まりました。更に、電話応対や話し言葉、敬語の使い方などにも気配りができるようになったのです。 『文章能力』『ホウレンソウ（報連相）』『意思疎通』これまで個人の能力不足と考えられていたことが、実は日本語力不足に原因があったのではないか？アップコン㈱の実践例から学びます。
第4講	**10月6日(木)** 講師**千田　晋**氏 富山大学 研究推進機構産学 連携推進センター 特命教授	**「イノベーションで新ビジネスを身近に」** 地域社会課題の解決策のビジネス化について、昨年度は「理想像からの」”バックキャスティング”手法によるアプローチを行いました。 今年度は具体的な”モノ”を活用したアプローチを議論し、具体的なビジネスプラン立案に迫る機会とします。
第5講	**10月26日(火)** 講師 **内田康郎**氏 富山大学 経済学部　教授 副学部長	**「価値づくりの経営」** **～自社の魅力は何か？誰に、どう伝えるか？～** 昨年に引き続き、「価値づくり」という点にこだわりたいと思います。普段お忙しい皆さん方は、目の前の業務に奔走していることと思いますが、そのために顧客に伝えるべき自社の本当の魅力が何かということについて、じっくりと考える時間が不足している方も少なくないと思います。 自社のつくりだす価値は何か？それは自社の経営理念と整合性がとれているのか？などなど、当日はいろいろな企業のケーススタディを通じて振り返ることのできる時間にしたいと思っています。

平成28年度

富山県いきいき長寿大学

すこやか生活講座

受講生募集

シニア世代の生きがいと健康づくり活動に役立つ実用的な学習の機会を提供し、いつまでも元気で社会と関わりをもちながら生活することができる、明るく活力のある長寿社会づくりの実現をめざします。

●開講期間　平成28年6月から9月まで（全8回）

●会　　場　富山会場：富山県総合福祉会館（サンシップとやま）
高岡会場：富山県高岡文化ホール

●開講時間　平日の午前10時から11時30分まで

●対　　象　県内在住の60歳以上の方

●内　　容　病気の予防と治療（胃腸、関節疾患）、口腔疾患と口腔ケア、脳と神経の病気について、佐々成政伝説と泉鏡花、若返る脳のトレーニング、相続税・贈与税の大改正：あなたも相続税の対象になるかも、暮らしの中での体力づくり。
※詳細は、裏面一覧のとおり

●開催回数定員等

申込番号	講　座　名	会場	回数	定員	受　講　料
㊵	すこやか生活講座	富 山	8回	210人	2,000円
㊶		高 岡	8回	190人	2,000円

●修了要件　6回以上、出席された方に修了証をお渡しします。

●お申込み　情報誌「VITA（ビタ）」挟み込みのチラシ裏面に専用の申込み用紙がありますので、そちらに、申込番号、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、性別、生年月日、電話番号をご記入のうえ、富山県いきいき長寿センターまでお申込みください（FAX可）。
※ご記入いただいた個人情報は、案内文等、当大学の運営以外の目的では使用いたしません。
※この申込み用紙及びVITA挟み込み専用申込み用紙、Eメールで申込みを受付いたします。

●締 切 り　平成28年4月22日（金）　**定員になり次第締め切ります。**

●受講の決定　締め切り日後、案内書とともに、受講料の振込み用紙をお送りします。

●そ の 他　この講座は、富山県民生涯学習カレッジとの連携講座です。

主催　社会福祉法人 富山県社会福祉協議会　**富山県いきいき長寿センター**
〒930-0094　富山市安住町5番21号　富山県総合福祉会館（サンシップとやま）
TEL 076-432-6010　FAX 076-432-6009　Eメール vita@wel.pref.toyama.jp
共催　富山県（予定）　後援　公益財団法人 富山県老人クラブ連合会（予定）

平成28年度 富山県いきいき長寿大学 すこやか生活講座 受講申込み用紙

申込番号	ふりがな 氏　名	生年月日	住　所	電話番号
	男 女	大 昭　年　月　日	〒　－	(　)　－
	男 女	大 昭　年　月　日	〒　－	(　)　－
	男 女	大 昭　年　月　日	〒　－	(　)　－
	男 女	大 昭　年　月　日	〒　－	(　)　－

講　座　日　程

※日時・内容などはやむを得ず
変更する場合があります

富山		高岡		テーマ・内　容	講　師
回	月日	回	月日		
1	6/16 (木)	5	7/15 (金)	胃腸の病気と治療について	富山大学大学院医学薬学研究部 消化器造血器腫瘍制御内科学・内科学 第三講座　教授　杉　山　敏　郎氏
2	6/28 (火)	1	6/6 (月)	口腔疾患と口腔ケア	富山大学附属病院口腔外科 講師・診療副科長 冨　原　　圭氏
3	7/12 (火)	4	7/14 (木)	関節疾患の予防と治療	富山大学附属病院整形外科 診療准教授　下　条　竜　一氏
5	7/20 (水)	2	6/20 (月)	佐々成政伝説と泉鏡花	射水市大島絵本館 館長　立　野　幸　雄氏
4	7/13 (水)	3	6/27 (月)	脳と神経の病気について	富山大学附属病院神経内科 診療教授　高　嶋　修太郎氏
6	8/10 (水)	6	8/19 (金)	若返る脳のトレーニング	富山短期大学 教授　田　淵　英　一氏
7	8/30 (火)	7	8/29 (月)	「相続税・贈与税の大改正(平成27年): あなたも相続税の対象になるかも」	トータルライフ研究所 代表　山　神　克　允氏
8	9/8 (木)	8	9/29 (木)	～暮らしの中での体力づくり～	日本健康運動指導士会 富山県支部理事 片　貝　仁　子氏

セミナー

江戸時代の旅さまざま

－富山と各地の旅日記などから－

旅日記を通じて、江戸時代の富山藩邸や
北国街道・飛騨街道の旅の様子を紹介します。

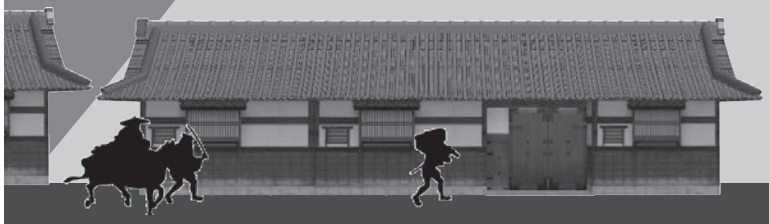
日時　平成28年4月28日（木）
14：00～15：00
（開場13：30）

事前申込
先着80名

対象　一般

場所　富山市立図書館
3階セミナールーム

講師　富山大学 人文学部 教授
鈴木　景二　氏



富山市立図書館交流行事運営委員会（読書推進係）TEL076-461-3200
富山市西町5番1号　TOYAMAキラリ内

セミナー

\キラリ/ 図書館プロジェクト 2016

とやまのことばとくらし

－神通川流域言語地図をもとに－

「おらっちゃらっちゃなつことる言葉ちゃ、共通語とちごうとんがかの？」
とやまのことばが、くらしとどのように関わっているかをご紹介します。

日時　平成28年6月26日（日）
14：00～15：00（開場13：30）

対象　一般

申込不要
参加無料

場所　富山市立図書館
2階ロビー（TOYAMAキラリ）

講師　富山大学 人文学部日本語学研究室
教授　中井　精一　氏

セミナー

帯状疱疹とその痛み

疲れやストレスなど、体の免疫力が低下したときに起こりやすい「帯状疱疹」。
多くのかたが痛みに悩むその症状と対策とは。

日時　平成28年9月25日（日）
14：00～15：00
（開場 13：30）

申込不要
参加無料

対象　一般

場所　「TOYAMAキラリ」
（富山市立図書館 本館）2階ロビー

講師　白木 公康 さん
富山大学 医学部
ウイルス学 教授

イベントには報道機関の撮影取材が入る時があります。あらかじめご了承ください。

富山市立図書館交流行事運営委員会（読書推進係）
TEL076-461-3200

ワークショップ

あなたも本の装丁家

―ブックデザインをしてみよう―

お気に入りの本（縦 22cm×横 16ｃｍ程度まで）を１冊お持ちください。
装丁家になったつもりで、その本のカバーをデザインしてみませんか。

日時：12 月３日（土）

①児童コース 10：00～12：00

（小学生とその保護者 20組）

②一般コース 14：00～16：00（40名）

場所：TOYAMAキラリ（富山市立図書館 本館）

3階セミナールーム

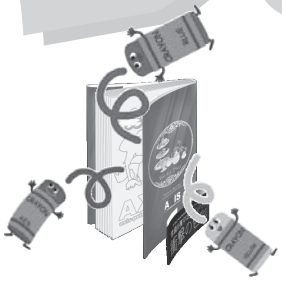
講師：隅 敦さん

富山大学 人間発達科学部

発達教育学科 教授

事前申込必要

申込みは裏面参照



イベントには報道機関の撮影取材が入る場合があります。

主催：富山市立図書館交流行事運営委員会（読書推進係）
TEL：076-461-3200

セミナー

現代に息づく伝統工芸

ー漆芸の魅力と楽しみー

日時　平成29年3月18日（土）
14：00～15：00
（開場13：30）

対象　一般

場所　TOYAMAキラリ
（富山市立図書館 本館）2階ロビー

講師　林 暁（はやし さとる） さん
富山大学 芸術文化学部 教授

漆工芸作家の林暁さんは第56回日本伝統工芸展 文部科学大臣賞など、数多くの賞を受賞され、平成22年には紫綬褒章を受章されました。
歴史に残る漆工品や日本美術としての漆工芸について、その魅力をお話いただきます。

イベントには報道機関の撮影取材が入る時があります。あらかじめご了承ください。

富山市立図書館交流行事運営委員会（読書推進係）
TEL076-461-3200

TOYAMA キラリ開館 1 周年記念。TOYAMA キラリに知識の森が出現！？巨大な吹き抜け上部から吊るされる木の「蔓」。ここにあなたのお薦め本とコメントを葉っぱ型のカードに書いて結びつけてください。

日時：平成 28 年 8 月 7 日(日)～9 月 3 日(土)
　　9:30~17:00
場所：TOYAMA キラリ　3 階ロビー

星空を探検しよう

開催日　平成28年8月6日（土）

協　力　富山大学　天文同好会

第1部　セミナー

対象：小学生～一般

星空を探検しよう

地上から飛び出し宇宙を見ることができる

国立天文台ソフト「Mitaka」で
8月の星空を旅しよう!

13：00～14：00
（開場12：30～）

「TOYAMAキラリ」
（富山市立図書館 本館）2階ロビー

申込不要
参加無料

第2部　ワークショップ

対象：小学生

紙コップで プラネタリウムを作ろう！

当日、はさみとのりをご持参ください。

14：15～15：15
（受付14：00～）

「TOYAMAキラリ」
（富山市立図書館 本館）3階セミナールーム

申込必要
親子40組まで
参加無料
※申込方法は裏面をご覧ください

イベントには報道機関の撮影取材が入る場合があります。

富山市立図書館交流行事運営委員会（読書推進係）
TEL076-461-3200

射水市家庭教育支援講座

第１回　８月６日（土）　１０：００～１１：３０

「子どもの発達と保護者のかかわり」

講師　富山大学人間発達科学部
准教授　若山　育代　氏

内容　現代の子どもと保護者をめぐる現状を紹介し，
保護者のかかわりについて考えます。

第２回　１０月２９日（土）　１０：００～１１：３０

「子どもが感じるストレスについて」

講師　富山大学人間発達科学部
教授　小林　真　氏

内容　実際の事例を紹介しながら、児童期・思春期の
ストレスの理解と対応を解説します。

会場：射水市中央公民館　第３研修室（高周波文化ホール３階）
受講料：無料　（どなたでもご参加できます。）
※申込期限は各講座とも２日前までです。
１回のみの受講も受け付けています。

【お申込み・お問い合わせ先】
射水市教育委員会　生涯学習・スポーツ課　生涯学習係
TEL 0766-59-8091　FAX 0766-59-8099
※FAX の方は①氏名（フリガナ）　②住所　③電話番号　④FAX 番号を
記入してください。
※個人情報については、本事業実施のみに使用し、
それ以外の目的には使用しません。

【協力】
富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

射水市家庭教育アドバイザー養成講座カリキュラム

【講義内容　１８時間】

① 家庭教育について

・元気で豊かな家庭教育とは（子の育ちと親の育ちを支えるために）

・地域での家庭教育の現状と課題（皆で応援する地域での取組みについて）

・子どもとスマートフォン（現代における子どもをとりまく環境について）

・家庭教育アドバイザーが目指すこと（現役アドバイザーの経験談や活動話）

② 子どもの発達について

・発達の基礎となる乳幼児期（乳幼児期の行動・認知・言語コミュニケーションの発達など）

・身体が急速に変化する思春期（思春期の身体の変化・心理的な動揺や悩み・親の関わり方など）

・育てにくさを感じる子どもたち

（ひとりひとりが輝くために学ぶ、子どもたちの特徴とトラブルの回避）

③ 家庭教育アドバイザーとしての技術

・傾聴技術　　（子どもに寄り添い、子どもの気持ちを受け止める技術など）

・心理学　　（臨床心理学、発達心理学、行動療法などから子どもの心理を知る）

・カウンセリング演習（子どもや保護者への心理的支援を行うための心構えと関係の築き方）

【日程・内容】

1	8/3 (水)	9:00	9:10　10:30	10:40　12:00	休憩	13:00　14:25	14:35　16:00
		開講式	発達の基礎となる乳幼児期	身体が急速に変化する思春期		子どもとスマートフォン	育ちにくさを感じる子どもたち
		生涯学習・ｽﾎﾟｰﾂ課長	富山大学 小林真先生	富山大学 小林真先生		富山大学 長谷川春生先生	富山大学 西村優紀美先生

場所：富山大学共通教育棟Ｂ棟１階　生涯学習部門第１学習室

2	8/5 (金)	9:00　12:00	休憩	13:00　14:50	15:00　16:00
		元気で豊かな家庭教育とは		地域における家庭教育の現状と課題	家庭教育アドバイザーが目指すこと
		富山大学 若山育代先生		富山大学 藤田公仁子先生	家庭教育ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ連絡協議会 藤澤会長

場所：富山大学共通教育棟Ｂ棟１階　生涯学習部門第３学習室

3	8/8 (月)	9:00　12:00	休憩	13:00　16:00
		傾聴技術、心理学、カウンセリング演習		グループワークと交流会
		富山大学 竹澤みどり先生		家庭教育アドバイザー連絡協議会 藤澤会長（予定）

場所：富山大学共通教育棟Ｂ棟１階　生涯学習部門第１学習室

家庭教育アドバイザー養成講座受講生募集

家庭教育に関心のある方、子育てについてお母さん、お父さんにアドバイスを行うなど子育てのサポートにご協力いただける方、「家庭教育アドバイザー養成講座」を受講しませんか？
下記のとおり、講座を開催しますのでご応募ください。

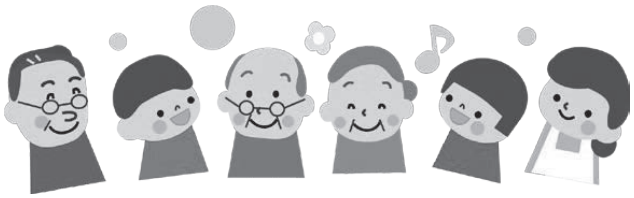
■対 象 者：概ね 30 歳以上で家庭教育に関心があり、受講後は射水市の家庭教育の向上に資する活動を行うことが出来る方。

■日　　程：平成 28 年8月３日（水）、５日（金）、８日（月）
午前９：００～午後４：００　　※全３日コース

■場　　所：富山大学　共通教育棟Ｂ棟１Ｆ（五福キャンパス）

■講義内容：①家庭教育について
②子どもの発達について
③家庭教育アドバイザーとしての技術

■受 講 料：無料



■定　　員：先着１５名

■協　　賛：富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

・・・・・・・・・・・・・　申　込　用　紙　・・・・・・・・・・・・・

射水市教育委員会　生涯学習・スポーツ課　行
ＦＡＸ　0766-59-8099　又は　ＴＥＬ　0766-59-8091

（ふりがなも記入してください）氏名	住所	電話番号

詳しくは生涯学習・スポーツ課までお問い合わせください。

平成28年度 緑の里講座

◷時間は 14:00～15:30 です。
（9/24は10:30～12:00）

・受講料2,000円は初回に納めてください。その際、受講カードをお渡しします。
・毎回、受付で受講カードをご提示ください。
・全20回のうち15回以上参加された方には、賞状を授与します。
・★ は、県民カレッジ連携講座です。

回数	月	日	会場	演題	講師
1	5月	18日(水)	井波総合文化センター	★地域に根ざした経営	日の出屋製菓産業㈱ 代表取締役会長 川合 声一
2	6月	2日(木)	福光福祉会館	富山の地名	富山近代史研究会 会長 竹島 慎二
3		15日(水)	福野文化創造センター	第71回富山県美術展 南砺市巡回展	富山県洋画連盟 委員長 柳田 邦男
4		29日(水)	じょうはな座	南砺市の地域包括医療・ケア構築への道筋 ～住民と共に取り組むまちづくり～	南砺市政策参与 南砺市民病院前院長 南 眞司
5	7月	13日(水)	井波総合文化センター	食の安全を足下からみなおす -TPPで食の安全は？-	富山県厚生連健康福祉課 審査役 大浦 栄次
6		27日(水)	福光美術館	★「御所の花」安野光雅展＆常設展鑑賞 ※入館料500円が必要です。	福光美術館 学芸員
7	8月	10日(水)	福光福祉会館	松村謙三先生の功績	南砺市文化財保護審議会 委員 辻澤 功
8		24日(水)	じょうはな座	富山のさかなたち ～南砺市のさかなと富山湾のさかな～	魚津水族館 学芸員 不破 光大
9	9月	7日(水)	福野文化創造センター	えごま油を活用した健康づくり	富山大学和漢医学薬学総合研究所 准教授 渡辺 志朗
10		24日(土)	いのくち椿館 10:30～12:00	【公開講座】コントDE健康講演会 ※会員でなくても、どなたでも無料で参加いただけます。	南砺市民病院 院長 清水 幸裕 コントDE健康ボランティアグループ
11	10月	5日(水)	井波総合文化センター	映画を批評的・分析的に観る	富山大学人文学部 教授 藤田 秀樹
12		19日(水)	現地研修	南砺ゆかりの地を巡る旅in金沢 ※詳細は後日案内します。参加費が必要です。	現地解説員
13		26日(水)	じょうはな座	富山の売薬 ～江戸時代の売薬商人のすがた～	富山市売薬資料館 学芸員 兼子 心
14	11月	16日(水)	福野文化創造センター	富山県航空機産業の"今"と"未来"	㈱石金精機 代表取締役 清水 克洋
15		30日(水)	福光福祉会館	シニア世代の心の健康	富山県心の健康センター 所長 引綱 純一
16	12月	14日(水)	井波総合文化センター	山と人とのかかわり －立山曼荼羅の世界－	富山県立山博物館 学芸課主任 高野 靖彦
17	1月	18日(水)	福野文化創造センター	声を出す楽しみ、表現する楽しみ ～教員として、ミュージカルキャストとして～	富山県公立学校 教員 久田 潤
18	2月	1日(木)	井波総合文化センター	戦国越中の覇者・佐々成政	富山市郷土博物館 主任学芸員 萩原 大輔
19	3月	1日(水)	じょうはな座	能楽に親しむ～能の楽しみ方～	能楽 観世流 師範 川田 有紀子
20		18日(土)	福光福祉会館	笑いで心と体を健康に（笑いヨガ）	富山協立病院 理学療法士 染谷 明子

【お問い合わせ】南砺市教育委員会教育部生涯学習スポーツ課（TEL23-2013）

✂ キリトリ

カードNo.＿＿＿＿

平成28年度緑の里講座 受講申込書 （南砺市生涯学習スポーツ課行）

ふりがな		連絡のとれる電話番号	－ －
氏名		生年	大・昭・平 年生まれ
住所	〒 －	性別	男 ・ 女

※1 受講料2,000円は初回に納めてください。
※2 取得した個人情報は、講座運営と市生涯学習事業に関するお知らせに利用させていただきます。

平成28年度

緑の里講座 受講生募集！

健康法や地域の歴史・文化など様々な分野の話を聞くことができる講座です。
1回のお申し込みで、すべての回を自由に受講できます。
年間を通していつでもご入会いただけます！
※平成28年度から、福光会場が福光福祉会館となります。

○対 象 者　どなたでも

○開講期間　平成28年5月～平成29年3月

○開催時間　午後2時～午後3時30分（9/24は午前10時30分～正午）

○受 講 料　年間 2,000円（美術館や現地研修等は別途実費が必要です。）

○会　　場
- ・城端会場　城端伝統芸能会館 じょうはな座（☎62-5050）
- ・井波会場　井波総合文化センター（☎82-5885）
- ・福野会場　福野文化創造センター ヘリオス（☎22-1125）
- ・福光会場　福光福祉会館（☎52-3022）

緑の里講座 申込方法

※受講料2,000円は初回に納めてください。

うら面の申込書に必要事項を記入の上、次のいずれかの方法でお申し込みください。

①郵 送　〒932-0292 南砺市井波520 南砺市教育委員会教育部生涯学習スポーツ課

②ＦＡＸ　0763－82－5101（送信後、確認の電話をお願いします。）

③窓 口　◇教育委員会教育部生涯学習スポーツ課（井波庁舎 3階）

◇城端行政センター　◇平行政センター

◇上平行政センター　◇利賀行政センター

◇井波総合文化センター　◇井口行政センター

◇福野文化創造センター ヘリオス　◇福光福祉会館

お問い合わせ　南砺市教育委員会教育部生涯学習スポーツ課　☎ 0763－23－2013

平成28年度　農林水産省都市農村共生・対流総合対策交付金事業

農業と福祉の地域づくりセミナーinやまだ

日　時：平成29年3月5日(日) 13：30～17：00

場　所：山田公民館
富山市山田湯880　TEL：076-457-2055

第一部　フリーセッションと報告

テーマ「実践から地域づくりへ」

1、地域おこし協力隊と相模女子大学生とのフリーセッション

2、平成27～28年度の山田地域都市農村交流事業の報告
山田地域都市農村交流協議会　会長　石崎　貞夫

第二部　基調講演とパネルディスカッション

テーマ「地域に希望あり」 - - まち・人・仕事を創る

基調講演　：コモンズ代表　大江　正章　氏

パネルディスカッション

コーディネーター　：　日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団
副理事長　坂林　哲雄氏

パ ネ ラ ー　：　コモンズ　代表　大江　正章氏
富山大学　地域連携推進機構　教授　藤田公仁子氏
相模女子大学　学芸学部　教授　九里　徳泰氏
日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団
理事長　藤田　徹氏

■主　催：山田地域都市農村交流協議会　■後　援：富山県・富山市

■申込み：ＮＰＯ法人ワーカーズコープ 富山事業所　TEL:076-433-2311 FAX：076-433-2312
mail:boltoyamapp@roukyou.gr.jp

図書館活用講座

ワークショップで学ぶ 新図書館で描く 私の夢

平成 29 年 11 月、ついに待望の新図書館がオープンします。図書館と市民学習センターが一体化した、これまでにない新しいタイプの施設です。

みなさんの生活に、学習に、趣味に、生きがいに、新図書館を上手に活用しましょう。ワークショップ（体験型学習）で楽しく学びます。

日　時：平成 28 年9月 10 日（土）　午後2時～4時

場　所：野々市市文化会館フォルテ（本町5丁目4－1）
2階　カルチャールーム

内容・講師：

【第１部】ミニ講演＆トークセッション
講師：富山大学　地域連携推進機構生涯学習部門教授　藤田　公仁子氏
トーク：株式会社図書館流通センター営業担当者

【第２部】ワークショップ「新図書館で新しい私、発見」

定　員：40人（先着順）

申し込み：９月７日（水）までに野々市市立図書館へ（電話　076-248-8099）

—文部科学省委託事業・学びを通じた地方創生コンファレンス—

学び合いが拓く持続可能な社会

「東京コンファレンス」

東京を中心に生起している都市の諸課題と向き合い、学びを通して多様な人々の自発性を引き出しながら地域実践を育んできた社会教育職員や学習支援者、ボランティア・市民活動関係者、大学関係者等が「オール東京」で集い、「学習都市・東京」の展望を共有する機会とすることを目的に、「東京コンファレンス」を開催します。

2017年
2月5日(日)・6日(月)
東京大学・本郷キャンパス

参加費／無料（交流会のみ 5,000 円）
対　象／社会教育・生涯学習関係者、行政職員、ボランティア・市民活動・NPO、学校・大学、福祉・保健・医療等の地域活動に関わる方
主　催／東京大学大学院教育学研究科
企画・運営／学びを通じた地方創生コンファレンス東京実行委員会

＜構成団体＞
特別区社会教育主事会、東京都社会教育指導員会、東京 23 区社会教育ネットワーク、東京都公民館連絡協議会、たま社会教育ネットワーク

参加申込

申込専用アドレスに【名前、フリガナ、所属、メールアドレス、参加希望分科会、交流会参加の有無、フィールドワーク参加の有無と有の場合はコース】を記入し、送信ください。後日、会場等の詳細をお知らせいたします。
申込専用アドレス　sankatokyokaigi@gmail.com　申込締切　1月２８日（土）

Web サイト「学びのクリエイターになる！」
(http://manabic.com/wp/2016/11/29/kouza_25/) のホームページにある「学びを通じた地方創生コンファレンス」の申込フォームからも、1 月 13 日(金)以降申し込みできます。この QR コードから申込フォームに入ることもできます。

学びを通じた地方創生コンファレンス東京実行委員会
住　所　〒113－0033　東京都文京区本郷７－３－１　東京大学大学院教育学研究科内
問合専用アドレス　infotokyokaigi@gmail.com

お知らせ 高校生の皆様へ「地域と高校生との対話による学び合いの場コンファレンス2016」への参加のお願い 文部科学省委託事業
池新田高校3年
佐久間 奈々さん
参加費
1,000円
学生（高校生）
無料
高校生
本気の
大人
対話でまちがつながる2日間
～ 好きになることでわかる自分の住む地域 ～
平成29年
1月
21
日(土)
13:30
17:30
22
日(日)
9:00
12:30
集まれ！ 未来の 地域リーダー！
相原高校3年 堀田雄帆さん
相原高校3年 杉山 葵さん
相原高校3年 榊林千夏さん
ワークショップ
進行例
目的
「地域リーダー育成プロジェクト」※ をより広域的に広めていくため、自治体の枠を超えて、大人・学生・高校生が一緒になって「地域と高校生」について考えていきます。
【「地域リーダー育成プロジェクト」とは】
高校と地域が連携し、地域を理解して愛着を深め、より地域に誇りを持つ人材を育成する取り組みです。
相原高校1年
中嶋 沙織さん
相原高校2年
杉本 涼香さん
相原高校1年
赤堀 美優さん
相原高校3年
八木 裕介さん
詳しくはウラ面へ
主催：学び合いの場デザイン・ネットワーク

学びで地域を元気に！

地方創生全国コンファレンス

第2回

program

開催日　平成29年2月20日(月)13:00～17:00(12:30開場)
21日(火) 9:30～12:30(9:15開場)

会　場　国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

■趣旨

文部科学省では、学びを通じて地域課題の解決やまちづくりの取組の輪を広げるために、全国６ヵ所において官民協働でコンファレンス(研究協議会)を開催しています。この度、各地域のコンファレンスの成果を学びあい、共有する全国コンファレンスを開催します。これからの地域における学びについて一緒に考えましょう！

主催　文部科学省

学びで地域を元気に！地方創生全国コンファレンス

【1日目　2月20日（月）】

１２：３０　**開場・受付**（センター棟５Ｆ５１３会議室前）

１３：００　**オープニング・セッション**（センター棟５Ｆ５１３会議室）

進行：古賀 桃子 委員
・アイスブレイク
・支援協力者委員、文部科学省担当者の紹介
・これまでのコンファレンスの取組紹介
・文部科学省へのインタビュー

（休憩　５分）

１４：２０　**各ブロックコンファレンスからの実施報告**

～ 今年文部科学省からの委託により実施した６箇所のコンファレンスについて、各担当者から写真と映像で報告し、参加者で共有します。

（ブロックコンファレンス実施団体）
① 北海道地方創生コンファレンス実行委員会
② 東京大学大学院教育学研究科
③ 牧之原市
④ 学びによる地域力活性化コンファレンス in 愛媛実行委員会
⑤ 一般社団法人福岡中小企業経営者協会連合会
⑥ 学びを通じた地方創生コンファレンス in 佐賀実行委員会

（休憩　１５分）
１７：０５　実施報告終了

（今後の日程説明）

１７：３０　**情報交換交流会**（カルチャー棟２Ｆ「レストランとき」）

～ 交流セッションだけでは話し足りなかったことなど、軽食をとりながら気軽に語り合い、参加者同士の交流・親睦を深めます。

１９：００　１日目終了

【２日目　２月２１日（火）】

９：１５　**開場・受付**（センター棟４Ｆ４０９会議室前）

９：３０　**ワークショップ**（センター棟４Ｆ４０９会議室）

「どう進める学びによる地方創生！！」

ファシリテーター：佐藤 淳 委員

～ 地方創生に向けての現在の取組、それを進めていくための課題等を共有し、課題解決に向けた方策について、討議を行います。その討議の間に議論の共有をしながら専門家からの助言を踏まえ、解決に向けたヒントを探ります。

助言者	藤田 公仁子 委員
	関　福生 委員
	苅宿　俊文 委員
	佐藤　秀雄　課長補佐（文部科学省）

１１：４５　**全体セッション**

ファシリテーター：佐藤 淳 委員

～ ワークショップの共有と支援協力者委員などからのコメントにより今後に向けた方策について新たな気づきを得ることを目指します。

１２：３０　全日程終了

「学びを通じた地方創生コンファレンス支援協力者委員会」委 員

生重（いくしげ） 幸恵（ゆきえ）	特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長
小田切（おだぎり） 徳美（とくみ）	明治大学教授
苅宿（かりやど） 俊文（としふみ）	青山学院大学教授
加留部（かるべ） 貴行（たかゆき）	日本ファシリテーション協会フェロー
川北（かわきた） 秀人（ひでと）	IIHOE［人と組織と地球のための国際研究所］代表者 CEO
古賀（こが） 桃子（ももこ）	特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター代表
佐藤（さとう） 淳（あつし）	青森中央学院大学准教授
関（せき） 福生（ふくお）	新居浜市教育委員会教育長
藤田（ふじた） 公仁子（くにこ）	富山大学教授
本間（ほんま） 正人（まさと）	NPO学習学協会代表理事、京都造形芸術大学教授、 らーのろじー株式会社代表取締役
牧野（まきの） 篤（あつし）	東京大学教授

（五十音順）

県民カレッジ連携講座

主催：放送大学
富山学習センター

オープンセミナー

オープンセミナー終了後、オープンキャンパス(入学説明会)を開催します。※魚津会場を除く

富山学習センター会場

日時/平成29年2月4日(土)13:30～15:00
会場/放送大学富山学習センター(講義室1)

『信州の富山藩本陣の記録を読む』

鈴木 景二 氏（富山大学 人文学部 教授）

日時/平成29年2月12日(日)13:30～15:00
会場/放送大学富山学習センター(講義室1)

『インテリアからのまちづくり』

丸谷 芳正 氏（富山大学名誉教授）

日時/平成29年2月18日(土)※14:30～16:00
会場/放送大学富山学習センター(講義室1)

『微分可能でない函数、ちゃ何け? －ギザギザだらけの函数を作る』

藤田 安啓 氏（富山大学 理工学研究部 教授）

魚津会場

魚津市立図書館共催講座

日時/平成29年3月 4日(土)13:30～15:00
会場/※魚津市立図書館(視聴覚室)

『心理学とはどのような学問だろうか? 』

井戸 啓介 氏（富山県立大学 工学部 講師）

※他の開催時間・会場と異なりますのでご注意ください。

受講料無料・要事前申込

どなたでも受講できますが、受講を希望される方は、お名前、ご連絡先、ご希望の日(テーマ名)を富山学習センターまで電話等(FAX、E-mail可)でお申込みください。

※3テーマ以上を受講された方には、ご希望により県民カレッジの単位(5単位)が認定されます。

放送大学富山学習センター
〒939－0311
富山県射水市黒河5180
(富山県立大学 計算機センター内)
TEL:0766(56)9230
FAX:0766(56)9232
E-mail: toyama.sc@ouj.ac.jp
HP : http://www.ouj.ac.jp

※魚津市立図書館
〒937-0805 魚津市本江 1940
TEL :0765(22)0462

平成２９年度第１学期(４月入学)学生募集！ 出願期間：平成28年12月1日(木)～平成29年3月20日(月)必着

講義概要

富山学習センター会場

2/4(土) 13:30～15:00

『信州の富山藩本陣の記録を読む』

鈴木 景二（富山大学 人文学部 教授）

江戸時代、富山・金沢と江戸のあいだを多くの人びとが行き来していました。参勤交代だけではなく藩の公用の旅や飛脚の往来、売薬商などさまざまな人たちです。その旅行をサポートしていたのが宿場の本陣です。本陣は大名専用の宿として知られますが、ゆかりのある藩のサービスステーションとしても機能していました。この講座では近年紹介された信州牟礼宿の富山藩本陣の記録から、その役割を読み取ってみましょう。

2/12(日) 13:30～15:00

『インテリアからのまちづくり』

丸谷 芳正（富山大学名誉教授）

明治維新前後西洋から来られた方々は日本の町や村の景観に随分と感銘を受け、書籍として多くを残していきました。ところが、保存されている地区や京都のような観光資源として認知されている地区を除き現在の日常的な町並みや村並みはきれいとは言い難い状況です。法律レベルでは景観法など施行されていますが、何が美しい日本の景色を過去のものにしてしまったか、我々の生活レベルの視点で考えてみます。

2/18(土) 14:30～16:00

『微分可能でない函数、ちゃ何け？ －ギザギザだらけの函数を作る』

藤田 安啓 （富山大学 理工学研究部 教授）

高校や大学の基礎数学で習う函数は、基本的に「微分可能な」函数です。すべての点で連続で、すべての点で微分可能でない函数（切れ目はないが、ギザギザだらけの函数）は約 140 年前に作られましたが、なぜそのようなものが重要なのでしょうか？ このセミナーでは予備知識を仮定することなく、その重要性と面白さを伝えたいと思います。高木函数についての最新の結果についても触れたいと思います。

魚津会場

3/4(土) 13:30～15:00

魚津市立図書館共催講座

『心理学とはどのような学問だろうか』

井戸 啓介（富山県立大学 工学部 講師）

「心理学」と呼ばれる学問領域があります。しかし、一般に思われている「心理学」と、「学問として教育・研究されている心理学」の間には、食い違いや誤解が見られます。今回のセミナーでは、初めてこの学問に触れる方を念頭に置いて、「学問としての心理学」とはどういったものなのか、その扱うテーマや研究の手法、そして現実場面への応用について解説したいと思います.

オープンセミナー終了後、オープンキャンパス(入学説明会)を開催します。※魚津会場を除く

・履修科目選択、編入学（短大卒、(一部)専門学校修了）、資格関係などの相談に応じます。

・体験入学もできます。実際の放送授業を体験し、確認してください。

～ぜひ、ご家族・友人・知人の方をお誘い合せのうえ、ご来場ください～

特別講演会

食品中の放射能と安全基準

www.sozai-page.com

参加費
無料

［日時］ 2017年1月17日（火）
16:30～18:00
［会場］ 富山大学五福キャンパス
共通教育棟A42教室（4F）

一般の方、学生、教職員どなたでも参加できます。

教養総合科目
特殊講義　富山から考える震災・復興学

お問合せ

Mail:niisato@eco.u-toyama.ac.jp
電話 076-445-6424(経済学部・新里)

大瀬 健嗣

1969年宮崎県生まれ。弘前大学理学部卒業。筑波大学大学院で博士取後、筑波大学産学官連携研究員、独立行政法人農業環境技術研究所特別研究員を経て、平成24年4月より福島大学うつくしまふくしま未来支援センターに着任。専門分野は、土壌環境科学と環境放射能。

共催：平成28年度富山大学学長裁量経費支援事業
「全学一体で取り組む富山から考える震災・復興学と放射線情報発信」

総合科目特殊講義「富山から考える震災・復興学」の補講

授業履修者以外の学生も参加出来ます。

関係の先生に問い合わせください。

志賀町野外実習

日時：**2017年2月14日（火）8時45分から16時30分**

目的：**志賀町の防災体制を考える**

テーマ：「東日本大震災の教訓はどのように生かされているか」

地震・津波・原発

視点：住民（生活者），環境，経済，教育，行政，医療，能登半島地震2007.3.25

予定人数：学生10名，教員5名。

プログラム

黒田講堂前集合　　8時45分

富山大学発（大学バス）8:50—10:30 志賀町役場　高岡キャンパス経由

志賀町環境安全課　　10:45—11:45　(石川県羽咋郡志賀町末吉千古１－１）

昼食　　12:00－12:35　(いこいの村能登半島　tel:0767-32-3131)

志賀原子力発電所見学　12:45-14:45　（志賀町赤住１）

12:45～13:25【概要説明】発電所の概要.安全対策.防災体制について

13:25～14:25【現場視察】防潮堤・防潮壁.代替所内電源設備，緊急時緊急時対策棟など

14:25～14:45【質疑応答】

志賀原発発　　14:50—16:30　富山大学着

参加申し込み＝第1次：12月20日（火），最終締切：1月24日（火）

（定員になり次第締め切ります）

連絡先：新里泰孝教授（経済学部）

Tel:076-445-6424　Mail: niisato@ems.u-toyama.ac.jp

共催：平成28年度富山大学学長裁量経費支援事業

「全学一体で取り組む富山から考える震災・復興学と放射線情報発信」

ドキュメンタリー映画『不思議なクニの憲法』を観る会

日本国憲法の役割や使い方を，改憲論をめぐるさまざまな意見をもとに考えさせてくれる
ドキュメンタリー映画（新作リニューアル版）です。
学内外を問わずどなたでも参加できる鑑賞会ですので，どうぞこの機会をご利用ください。

日時：2017年1月28日（土）午後2時15分上映開始
1月29日（日）午後1時上映開始
会場：富山大学中央図書館2階プレゼンテーションゾーン

上映時間2時間半（前後半途中休憩をあわせ3時間足らずとなります）。
上映終了後希望者による意見交換の時間をとります。

映画鑑賞費（著作権使用料）：大人500円，中高生200円，小学生以下無料
★富大生特別割引（各日先着5名の富山大学生・公開講座受講生は半額250円！）★

上映時間までは図書館内でおすごしください（大学図書館はどなたでも利用できます）。
1階に飲み物の自動販売機もあります。

主催：富山大学人間発達科学部科学コミュニケーション研究室
連絡先：同研究室（林 衛：hayasci@edu.u-toyama.ac.jp/070-5580-7787）

オープン・クラス、公開講座受講生の方ご自由にお使いください。

生涯学習部門
受講生オープンサロン

生涯学習部門のサロンがオープンしました！
休憩・ご飲食場所としてお使いください。

●利用時間

授業期間中(4-7 月、10-1 月)
- 公開講座のある日　８：３０～講座終了２０分後
- 公開講座のない日　８：３０～１６：３０
- 土・日曜日　講座開始２０分前～講座終了２０分後

授業期間外(8-9 月、2-3 月)
- 公開講座のある日　講座開始２０分前～講座終了２０分後
- その他、相談会を実施する時間

＊詳細はサロンの利用時間カレンダーをご確認ください。

●場所　富山大学五福キャンパス
生涯学習部門（共通教育棟Ｂ棟）２階　地図は裏面へ⇒

生涯学習相談会を開催！

生涯学習部門専任教員が担当します。受講相談、お困りごとをお話しください。

開催日は、

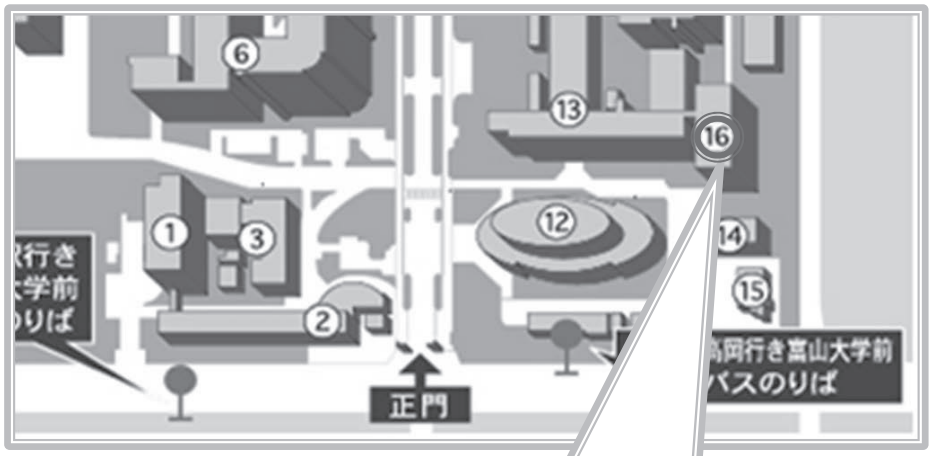
月～木曜日　15：00～16：00　です。

＊開催日の詳細はサロンの利用時間カレンダーをご覧ください。

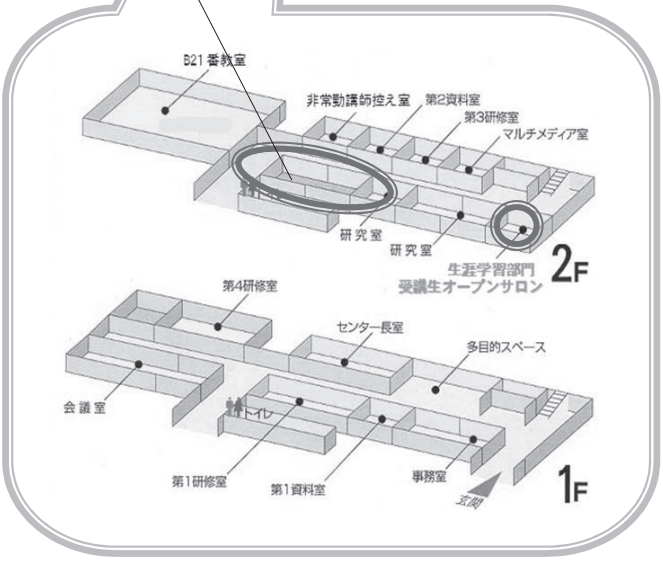
＊都合により急きょお休みさせていただく場合があります。
お休みの場合は、サロンの掲示でお知らせします。

●オープンサロン地図

五福キャンパス　生涯学習部門(共通教育棟 B 棟)　２階



アカデミールーム



【お問合せ先】
富山大学地域連携推進機構生涯学習部門
(社会貢献課)

TEL:076-445-6956　　FAX:076-445-6033
Mail:lifelong@ctg.u-toyama.ac.jp
HP: http://www.life.u-toyama.ac.jp/

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門年報

第 19 巻

2017 年 9 月

発　行

富山大学地域連携推進機構生涯学習部門

〒 930-8555　富山市五福 3190

TEL (076)445 − 6956　FAX (076)445 − 6033

http:www.life.u-toyama.ac.jp　E-mail:lifelong@ctg.u-toyama.ac.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。